

琵琶湖博物館 年報

第 19 号

2014 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2015 年 11 月

---

## ごあいさつ

---

2014年度は琵琶湖博物館のリニューアルに向けての準備に明け暮れる年でありました。2016年7月14日にリニューアル第1期のオープンニングという日程も決まり、2013年度の「新琵琶湖博物館創造基本計画」の策定に基づき、2014年度はC展示室・水族展示および関連する建築設備の実施設計を作成しました。研究協力協定を結んだロシア・科学アカデミー・バイカル博物館の協力でバイカル湖の魚類なども展示されることが計画に入っています。実施設計は展示室のなかでの資料の決定や配置あるいはその背景などきわめて具体的なことを決めることですから、ある意味ではリニューアルの正念場であったといえます。この実施設計では、1996年琵琶湖博物館開館後の博物館員の研究成果や新たな視点が盛り入りこまれています。この年報の中では実施設計の具体的な内容について紹介はできませんが、博物館員の業務のなかでは多大な比重を占めたものであります。

琵琶湖博物館のリニューアルへの仕事の比重が去年よりさらに増えてきたことも事実であります。博物館の3つの日常的な業務である研究的業務、事業的業務、行政的業務をおろそかにするわけにはいきません。こうした基本的な通常の業務も着実に進んでいることは、この年報のI「博物館機能の強化」における各項をみていただければわかると思います。「1. 資料が活用できる博物館」では、まとまった資料価値の高い昆虫乾燥標本の寄贈などにより着実に資料が増加しています。「2. 研究を進めて活かせる博物館」では相変わらず文科省・科学研究費などにおいて高い取得率を維持して、研究を推進しています。また2014年度には第II期のB展示室リニューアルを見据えた総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」もスタートしました。2014年にはロシアのバイカル博物館（イルクーツク）および中国科学院水生生物研究所（武漢）と学術交流に関する協定を取り結んだことも、今後琵琶湖博物館が海外での研究を行うステップになると思います。「3. 新たな参加と発見ができる博物館」においても、企画展示・水族企画展示、ギャラリー展示・トピック展示など多くの展示活動を行ってきました。なかでも第22回企画展示『魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—』は文科省・科学研究費などの研究成果を反映した展示であり、東アジアにおける湖沼における農・漁・水を通じて湖との暮らしのあり方を見つめなおした琵琶湖博物館らしい展示でした。多くの人の参観を得た好評の企画展示でした。

今まで述べてきたことは琵琶湖博物館の活動の一端であります。この博物館の年報には博物館の活動がすべて記録されています。活動記録の記載は博物館の社会的責任であります。お読みいただければ幸いです。琵琶湖博物館の活動を積極的に支援してくださっている多くの方々に、厚くお礼を申し上げますとともに、今後とも積極的なご意見・ご批判を賜りますようお願い申し上げます。

2015年10月26日

滋賀県立琵琶湖博物館  
館長 篠原 徹

# 目 次

ごあいさつ	1
<b>I 博物館機能の強化</b>	
<b>1 資料が活用できる博物館</b>	
資料整備活動	
(1) 収蔵資料	4
(2) 資料の活用	10
(3) 資料保管	13
<b>2 研究を進めて活かせる博物館</b>	
研究調査活動	
(1) 総合研究	15
(2) 共同研究	15
(3) 専門研究	16
(4) 研究審査委員会	17
(5) 研究助成を受けた研究	17
(6) 研究員の受け入れ	19
研究発信	
(1) 公表された主な研究業績	20
(2) 新琵琶湖学セミナー	25
(3) 研究セミナー・特別研究セミナー	26
研究交流	
(1) 国際協定	27
(2) 海外活動	28
(3) 試験研究機関の連絡活動	30
<b>3 新たな参加と発見ができる博物館</b>	
展示活動	
(1) 常設展示の主な更新	31
(2) 企画展示・水族企画展示	34
(3) ギャラリー展示・トピック展示等	40
(4) 集う・使う・創る 新空間	43
展示交流	
(1) フロアートーク	43
(2) ディスカバリールームのイベント	44
(3) 展示交流員と話そう	44
博物館連携	
(1) 滋賀県ミュージアム活性化事業	45
(2) 滋賀県博物館協議会	46
(3) 烏丸半島活性化連携事業	46
<b>4 体験と交流を促す博物館</b>	
一般利用者へのサービス	
(1) 観察会・見学会等	48
(2) 講座	49
(3) 体験教室	50
(4) 体験学習	51

学校連携	
(1) 学校団体	52
(2) 教育指導者等研修	57
(3) 学校サテライト博物館事業	58
企業連携	58
研修・実習	
(1) 国際交流	59
(2) 博物館実習	63
<b>5 対話と応援ができる博物館</b>	
利用者主体の事業	
(1) フィールドレポーター	64
(2) はしかけ制度	65
地域交流活動への支援	
(1) 博物館内での支援活動	78
(2) 地域での支援活動	79
(3) 質問対応	81
琵琶湖博物館環境学習センター	
(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供	82
(2) 環境学習の交流の場づくり	83
情報発信活動	
(1) 地域発見！参加型移動博物館	86
(2) インターネットを利用した館外への情報提供	87
(3) 印刷物	89
<b>II 新琵琶湖博物館の創造</b>	90
<b>III 環境の整備</b>	
<b>1 拠点としての施設整備</b>	
(1) 利用者用施設の整備	92
(2) 情報システムの整備	92
(3) 来館者アンケート調査	92
<b>2 柔軟な運営組織</b>	
(1) 組織	96
(2) 職員	97
<b>3 社会的支援と新しい経営</b>	
(1) 利用状況（2014年度入館者数）	101
(2) 広報活動	103
(3) 予算	118
<b>4 存在基盤の確立</b>	
(1) 琵琶湖博物館協議会	119
(2) 企画・計画	119
<b>IV 2014年度をふり返って</b>	
<b>1 研究部</b>	121
<b>2 事業部</b>	121
<b>3 総務部</b>	122

# I 博物館機能の強化

## 1 資料が活用できる博物館

### 資料整備活動

琵琶湖博物館で資料整備の対象としているのは、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」およびその全体的評価にかかわるもの、ならびに博物館のテーマ「湖と人間」に関係する日本、アジア、世界の湖沼とその周辺地域におよぶものである。自然、人文、社会科学等にかかわる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料について、収集・整理・保管および利用を図り、博物館活動の充実に努めている。

収蔵資料は、博物館職員による収集をはじめ、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって受け入れられ、必要に応じて速やかに利用できるよう、各資料区分の体系にしたがって整理を行っている。以下に2014年度の資料整備および利活用状況を示す。

### (1) 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、動物標本、植物標本、微生物標本、水族資料（生体）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の11分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2014年度末現在で、博物館登録資料は505,626で、収蔵概数は891,681となった。これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

### 1) 収蔵資料数

2015年3月末現在

	登録資料数	収蔵概数	2014年度登録数	2014年度受入総数
地学	43,963	52,600	349	383
動物	140,005	325,492	33,072	5,593
植物	84,420	188,114	2	0
微生物	0	57,886	0	441
水族（生体）	16,678	16,678	13,196	13,196
考古	0	1,429箱と392	0	0
歴史	2	207	0	1
民俗	6,721	6,770	0	0
環境	0	45箱と768	0	3
図書	133,400と 4,671タイトル	139,600	4,389と 375タイトル	5,190と 362タイトル
映像	75,766	101,700	0	0
合計	505,626	891,681	51,383	25,169

【各分野別の詳細】

地学標本	2014年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
化石	281	0	0	2	40	42		31,351	32,500
岩石・鉱物	19	0	0	0	191	191		8,557	12,200
堆積物	49	0	0	0	150	150		2,804	6,600
プレパラート	0	0	0	0	0	0		1,251	1,300
小 計	349	0	0	2	381	383		43,963	52,600

動物標本	2014年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物（魚類除く）	107	0	0	0	123	123		3,193	3,552
内 訳	哺乳類骨格標本	5	0	0	0	5		814	814
	哺乳類剥製標本	35	0	0	0	51	登録分はDBに公開済	43	62
	哺乳類(その他)	1	0	0	0	1		644	989
	鳥類骨格標本	0	0	0	0	0		232	232
	鳥類乾燥標本(巢, 卵, レプリカ等含む)	66	0	0	0	66	本剥製標本 提供数 66点	1,003	1,003
	爬虫類骨格標本	0	0	0	0	0		35	36
	爬虫類剥製標本	0	0	0	0	0		5	3
	爬虫類液浸標本	0	0	0	0	0		23	40
	爬虫類(その他)	0	0	0	0	0		23	2
	両生類骨格標本	0	0	0	0	0		6	6
	両生類液浸標本	0	0	0	0	0		351	351
	両生類(その他)	0	0	0	0	0		14	14
魚類（淡水魚類）	563	0	0	0	39	39		55,470	84,474
内 訳	乾燥骨格および アクリル包埋標本	0	0	0	0	0	収蔵標本の維持管理、データベースの修正などをおこなった	2,677	2,677
	DNA 分析用標本	0	0	0	0	0	収蔵標本を維持管理、データベースの修正などをおこなった	3,723	3,723
	その他の液浸標本	563	0	0	0	39	新規に提供された標本および前年度までの未登録標本を整理し、データベースへ563件を新規登録した	49,070	78,074
昆虫	32,396	72	3,875	0	1,108	5,055		67,006	207,806
内 訳	昆虫液浸標本	0	0	0	0	0	以前に寄贈された資料を整理し、登録できる状態にする作業を進めている。	12,495	31,046
	昆虫乾燥標本	32,396	72	3,875	0	1,108	5,055	村山コレクション 32,396点を登録し、公開した。滋賀県産等 1,599 点の標本を作成した	54,511
貝類	6	0	6	0	330	336	未整理標本および新規提供標本を整理して登録できる状態にした。	14,336	16,925
昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）	0	37	0	0	3	40	仮データベースへの累積登録点数 8100 点（うち今年度登録点数：881 点）。滋賀県試験研究機関の紹介展示にワラジムシ類液浸標本を展示。	0	12,735
小 計	33,072	109	3,881	0	1,603	5,593		140,005	325,492

植物標本	2014 年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	2	0	0	0	0	0	標本受入・登録・ラベル貼付・ 収蔵・管理、収蔵庫燻蒸	84,420	187,936
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
小 計	2	0	0	0	0	0		84,420	188,114

微生物標本	2014 年度							累 積	
	登録数	作成・撮影数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	0	0	0	0	441	441		0	3,958
微小生物プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	31
珪藻プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	1,387
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	25,324
珪藻顕微鏡写真 デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	25,251
微小生物顕微鏡写真 デジタルファイル	0	904	0	0	0	0	選定後に受入予定	0	6,470
微小生物動画ファイル	0	371	0	0	0	0	選定後に受入予定	0	53
小 計	0	1,275	0	0	441	441		0	57,886

水族資料 (生体)	2014 年度							累 積	
	登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物	8,991	1,228	1,716	2,586	3,461	8,991		14,484	14,484
内 訳	哺乳類	5	0	5	0	0	5		5
	魚類	8,960	1,202	1,711	2,586	3,461	8,960		14,420
	両生類	23	23	0	0	0	23		13
	爬虫類	3	3	0	0	0	3		26
	鳥類	0	0	0	0	0	0		20
無脊椎動物	4,205	4,057	0	0	148	4,205		2,194	2,194
内 訳	昆虫類	280	132	0	0	148	280		280
	貝類	265	265	0	0	0	265		1,468
	甲殻類	3,515	3,515	0	0	0	3,515		306
	環形動物	145	145	0	0	0	145		140
小 計	13,196	5,285	1,716	2,586	3,609	13,196		16,678	16,678

考古資料	2014 年度			累 積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
土器・石器等(コンテナ数)	0	0		0	1,394(箱)
木器等(棚置き数)	0	0		0	357
礎石・大型木製品等(床置き数)	0	0		0	26
展示用保管資料等(コンテナ数)	0	0		0	14(箱)
展示用大型資料	0	0		0	6
瓦・金属製品	0	0		0	21箱と3点
小 計	0	0		0	1,429箱と392点

歴史資料	2014年度					整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	0	0	0	0	0	大津百艘船仲間木村忠兵衛家文書の整理を行っている	2	162
二次資料 (レプリカ、模写、模造)	0	1	0	0	1		0	39
その他	0	0	0	0	0		0	7
小 計	0	1	0	0	1		2	207

なお、滋賀県水産試験場所蔵「近江水産図譜」を当館で保管することとなった。

民俗資料	2014年度				整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	提供数	受入総数	登録資料数		収蔵概数	
生活生業用具	0	0	0	0		4,133	4,140
漁撈用具(船関係用具を含む)	0	0	0	0		2,588	2,589
二次資料(木造船模型)	0	0	0	0		0	41
小 計	0	0	0	0		6,721	6,770

環境資料	2014年度				整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	提供数	寄贈数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
水環境調査資料	0	0	0	0		0	72
生活用具類	0	3	0	3		0	37
民具類	0	0	0	0		0	22箱と630
二次資料(レプリカなど)	0	0	0	0		0	23箱と25
海外の湖沼船	0	0	0	0		0	4
小 計	0	3	0	3		0	45箱と768

図書資料	2014年度					整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	登録資料数		収蔵概数	
書籍	3,912	106	4,456	4,562	その他、館外利用サービスとして開架図書10,000冊、雑誌67件の整備、書籍レファレンス、コピーサービス(有料)。資料整理として蔵書点検73,000点、ニュースレターの整理、図書装備約3,900冊	82,000	87,000	
文献	477	151	477	628		51,400	52,600	
雑誌	375タイトル (うち新規150タイトル)	65タイトル	297タイトル	362タイトル		(*)4,671 タイトル		
小 計	4,389と 375タイトル	257と 65タイトル	4,933と 297タイトル	5,190と 362タイトル			133,400と 4,671タイトル	139,600

(\*)博物館関係の雑誌を含む

映像資料	2014年度						整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	撮影数	移管数	寄託数	提供数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	0	0	0	0	0	琵琶湖文化館写真資料 PDF 化5,267件、琵琶湖文化館ネガのスキャン3,994件、大橋コレクション スキャン3,994件	75,766	92,931
動画資料	0	0	0	0	0	0		0	8,769
小 計	0	0	0	0	0	0		75,766	101,700

## 2) 寄贈者および提供者

敬称省略(点数)

### 【地学資料】

岩石・鉱物：小谷富士夫(109) 中沢和雄(79) 福井龍幸(3)

化石：北林栄一(40)

堆積物：石田志朗（150）

【動物標本】

哺乳類骨格標本：神谷英利（2） 岡村喜明（1） 長浜市在住猟師（2）

哺乳類剥製標本：朽木いきものふれあいの里（39） 長浜市在住猟師（3） 坂根隆治（2）

畠 佐代子（1） 東近江市役所（1） 亀田佳代子（5）

哺乳類標本（その他）：浅井信次（1）

鳥類乾燥標本：朽木いきものふれあいの里（66）

昆虫乾燥標本：小野克己（3,875） 秋山廣光（4） 太田悠造（1） 高石清治（4） 中川 優（58）

八尋克郎（5） 石田未基（8） 内海康晴（1） 遠藤真樹（20） 越智輝雄（37）

清山好美（11） 桐村信行（25） 田窪亮三（6） 武田 滋（990） 谷中憲弘（1）

細井正史（5） 山本由里子（1） 吉川耕三（3）

魚類液浸標本：川瀬成吾（2） 宮津エネルギー研究所水族館（4） 藤岡康弘（24） 高橋さち子（9）

貝類乾燥標本：酒井治己（6）

貝類液浸標本：水資源機構（330）

小型生物：斎藤暢宏（1） 富川 光（1） 小寺伶日王（1）

【微小生物標本】

液浸標本：安井一郎（207） たんさいぼうの会（234）

【水族資料】

独立行政法人水産総合研究センター増養殖研究所（12） 千歳サケのふるさと館（500）

【環境資料】

蒲生良子（3）

【映像資料】

滋賀県教育委員会文化財保護課（2）：一時預かり

【図書資料】

川那部浩哉（2,092） 中藤容子（494） 國分政子（61） 草加伸吾（42） 大島 浩（365）

掛谷 誠（53） 嘉田由紀子（52） 橋本初子（25） 坂根隆治（16） 河端政一（12）

細川真理子（9） 吉崎早苗（10） 宮田 彬（6） 肥山陽子（5） 宮内泰介（4） 中島経夫（1）

小林圭介（3） 長澤京子（1） 富山弘毅（1） 内田工作（1） 中島伸男（1） 駒井俊幸（1）

中井 至（2） 矢原 功（1） オリバー・ロバート（1） 菌部寿樹（1） 岡村善明（1）

伊吹山ネットワーク（1） 甲南中部自治振興会（2）

3) 購入資料

【歴史資料】

花園院宸記 巻3 4（第二十三回配本） 1点 古文書（レプリカ）

4) 水族繁殖生物

種 名	学 名	個体数
日本産魚類		
コイ科		
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	102
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	60
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	246
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	106

種 名	学 名	個体数
タナゴ	<i>Acheilognathus melanogaster</i>	6
アカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira erythropterus.</i>	67
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	137
スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus atremius suigensis</i>	155
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus atremius atremius</i>	100
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleus</i>	250
タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongates</i>	110
アブラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys biwaensis</i>	60
デメモロコ	<i>Squalidus japonicus japonicus</i>	120
ヒナモロコ	<i>Aphyocypris chinensis</i>	123
モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	300
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pugnax</i>	362
シナイモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila</i>	106
ツチフキ	<i>Abbottina rivularis</i>	89
<b>ドジョウ科</b>		
アユモドキ	<i>Parabotia curta</i>	161
ナガレホトケドジョウ	<i>Lefua sp.</i>	26
<b>メダカ科</b>		
メダカ	<i>Oryzias latipes</i>	54
<b>トゲウオ科</b>		
ムサシトミヨ	<i>Pungitius sp.</i>	221
ハリヨ	<i>Gasterosteus microcephalus</i>	130
<b>ハゼ科</b>		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp. BB</i>	179
<b>サケ科</b>		
ビワマス	<i>Oncorhynchus masou subsp.</i>	
<b>外国産魚類</b>		
<b>コイ科</b>		
ウエキゼニタナゴ	<i>Rhodeus sinensis</i>	100
ローデウス・ファンギ	<i>Rhodeus fangi</i>	88
アケイロナタス・sp	<i>Acheilognathus sp.</i>	3
オオタナゴ	<i>Acheilognathus macropterus</i>	159
チャイニーズワンラインペンシル	<i>Sarcocheilichthys parva</i>	12
カラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys sinensis sinensis</i>	75
<b>メダカ科</b>		
ランブリクティス・タンガニカヌス	<i>Lamprichthys tanganicus</i>	144
<b>カワスズメ科</b>		
ネオランプロログス・オケラータス	<i>Neolamprologus ocellatus</i>	43
ジュリドクロミス・オルナータス	<i>Julidochromis ornatus</i>	18
レピディオランプロログス・アテヌアータス	<i>Lepidolamprologus attenuatus</i>	60
アウロノクラノス・デウィンディ	<i>Aulonocranus dewindli</i>	27
<b>昆虫類</b>		
タガメ	<i>Lethocerus deyrollei</i>	
クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i>	60
ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i>	102

## (2) 資料の活用

### 1) 資料情報の公開

2014年度には電子図鑑「水族企画展示：展示した生き物たち」が、従来は展示企画5回分の公開であったところを6回分の公開へと内容を増強した。

### 2) 資料の貸出（研究依頼を含む）

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
4	27	大阪教育大学自然研究講座	メンカラスガイ（琵琶湖産）8点 メンカラスガイ（カンボジア産）1点	カラスガイの系統分類に関する研究のため
5	9	岡山理科大学生物地球学部	魚類咽頭歯乾燥標本 2073点	咽頭歯資料目録作成のための標本整理
7	1	大阪大学総合学術博物館	大分県安心院産ワニ化石 54点、 インドネシア産ワニ下顎骨化石 1点、古琵琶湖層産ワニ化石 3点	大阪大学総合学術博物館平成26年度夏季特集展示にて使用
7	1	滋賀県立安土城考古博物館	丸子船模型 1点	連続企画展「海と洋を結ぶ湖ー海の船・湖の船ー」で展示のため
7	10	滋賀県立安土城考古博物館	松原内湖遺跡出土品 20点、唐橋遺跡出土品 10点、粟津湖底遺跡出土品 5点、松原内湖遺跡写真 3点	第49回企画展「湖底遺跡が語る湖国二万年の歴史」および関連テーマ展での展示のため
10	10	丸山 聡子	昆虫液浸標本 河野光子コレクション カワゲラ目標本 <i>Perla sp.</i> 1点	分類学的研究のため
11	5	神奈川県立生命の星地球博物館	トンボ化石 1点	トンボの化石の分類学的研究のため
1	30	(独)農業環境技術研究所	昆虫乾燥標本 江本健一ゾウムシコレクション 484点	ゾウムシ類の調査・研究のため
1	30	佐藤 力夫	昆虫乾燥標本 エダシヤク類標本 20点	エダシヤク類の分類学的研究のため
2	19	(独)水産大学校	コガタカワシンジュガイ 40点、 カワシンジュガイ・コガタカワシンジュガイ 41点	カワシンジュガイとコガタカワシンジュガイの貝殻形態比較のため

### 3) 資料の譲与

<水族>

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
6	13	姫路市立水族館	カネヒラ 50個体	展示のため
7	5	東海タナゴ研究会	ウシモツゴ 50個体	ウシモツゴ復元放流のため
7	30	京都水族館	ハリヨ 30個体 ムサシトミヨ 30個体	展示および繁殖のため
7	24	(独)水産総合研究センター	ロングイヤーサンフィッシュ 15個体 パンプキンシード 15個体	遺伝的雌特異的不妊化ブルーギルの生産に関する研究のため

#### 4) 特別観覧

<映像資料・静止画>

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
4	11	NHK 大津放送局	アマゴ、ビワマス、イサザ、スジエビほか 計9点	中継番組での紹介
4	11	(独) 水産総合研究センター	ゲンゴロウブナ、ニゴロブナ、ギンブナ 計3点	センター広報誌に使用
4	24	共同通信社大津支局	ビワマス、コアユ、ニゴロブナほか 計8点	新聞記事への掲載
4	27	読売新聞滋賀版	ビワマス、コアユ、ニゴロブナほか 計8点	読売新聞滋賀版「探Q」への掲載
4	27	滋賀県財政課	ニゴロブナ 1点	「財政事情」表紙に掲載
5	15	数研出版(株)	ビワコオオナマズ 1点	中学校数学Iの教科書に掲載
5	15	TBS テレビ	オヤニラミ 1点	TBS テレビ「噂の東京マガジン」での紹介
5	20	TBS テレビ	カミツキガメ 1点 アライグマ 1点	TBS テレビ「噂の東京マガジン」での紹介
6	6	琵琶湖ホテル	前野コレクション ハネツルベ 1点	80周年記念写真展において使用
6	12	TBS テレビ	ニゴロブナ 1点	TBS テレビ「いっぷく!」での紹介
6	18	(株) アーテファクトリー	ヨシ群落 1点	チャレンジ小学5年生2月号に掲載
7	24	野洲市歴史民俗博物館	明治29年大洪水災害写真 計6点	平成26年度秋期企画展および図録に掲載
7	31	小森千賀子	モツゴ、タイリクバラタナゴなど 計15点	京都府立総合資料館イベント「学ぼう!琵琶湖疏水」の紙芝居に掲載
8	2	(株) 創輝	ビワコオオナマズ 1点	「世界一受けたい授業」内にて使用
8	8	滋賀県自然環境保全課	イサザ 1点、ウグイ 1点、ハス 1点 計3点	第15回世界湖沼会議における滋賀県の取組の報告
8	30	滋賀夕刊新聞社	明治29年大洪水災害写真 計4点	新聞記事への掲載
9	1	NHK エンタープライズ	ビワコオオナマズ1点、イワトコナマズ1点、ナマズ 1点	NHK「ダーウィンがきた!」で紹介
9	2	大津市科学館	アカザ、アジメドジョウ、アブラヒガイほか 計51点	科学館通信に掲載
9	11	彦根市栄町二丁目自治会	大橋コレクション 計33点	栄町二丁目自治会写真展で使用
9	13	彦根辻番所の会	大橋コレクション 計46点	足軽屋敷特別公開で使用のため
9	13	(株) エヌイーエフ	ヨシ原、カイツブリほか 計4点	イナズマロックフェス2014パンフレットに使用
9	18	滋賀県地球温暖化防止活動推進センター	鳥類写真、プランクトン写真、魚類写真ほか 計36点	出前講座教材として使用
10	10	サンライズ出版(株)	災害写真 野洲郡北里村 1点	滋賀の文化情報誌「Duet」への掲載
10	16	しが県民情報編集室	災害写真 野洲郡北里村 1点	野洲市歴史民俗博物館秋季企画展「近江の自然災害—地震と水害の歴史」の特集記事への掲載
10	29	坪井 貴史	カムルチー 1点	フジテレビ「TOKIOカケル」にて使用
11	3	(株) ウェッジ	カイツブリ 1点	月刊「ひととき」12月号に掲載

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
11	6	TBS テレビ	アメリカナマズ(チャンネルキャットフィッシュ) 1点	TBS テレビ「Nスタ」にて使用
11	21	(株) ベストセラーズ	瀬田橋橋脚遺構 1点	月刊誌「歴史人」に掲載
12	10	高島市教育委員会	竜尾車 1点	大溝の水辺景観保存活用事業報告書に掲載
12	10	土木交通部河川砂防課	昭和28年多羅尾豪雨災害写真計 3点	地区別避難計画作成の手引き(案)に掲載
12	10	農村振興課	琵琶湖と川の魚 計77点	魚のゆりかご水田を紹介する下敷きを使用
1	30	滋賀県ミュージアム活性化推進委員会	コアユ、ゲンゴロウブナ、近江水産図譜画像(滋賀県水産試験場所蔵)、民具写真ほか 計24点	滋賀県ミュージアム活性化推進委員会編「おいしい琵琶湖八珍」に掲載
1	30	(株) ほるぷ出版	コアユ 2点	書籍への掲載
2	8	東近江市立能登川北小学校	富江家内の道具 2点	小学3年生社会科の授業に用いる教材として使用
2	11	サンライズ出版(株)	近江水産図譜画像 9点 魚類静止画 14点 民具静止画 1点 計24点	「おいしい琵琶湖八珍」に掲載
2	13	(株) NEXTEP	大橋コレクション 昭和40年代のニゴロブナ漁 1点	NHK「キッチンが走る」にて使用
2	15	京都大学大学院工学研究科	滋賀県教育委員会琵琶湖総合開発地域民俗文化財特別調査報告書「内湖と河川の漁法」掲載写真 計2970点	東近江市重要文化的景観保存活用計画に係る調査および報告書への掲載
2	16	近江八幡市総合政策部	前野コレクション 沖島に関する写真 計8点	沖島離島フォーラムにおけるスライド展示に使用
2	27	(公社) 日本動物園水族館協会	ハリヨ、イタセンパラほか 計4点	東海大学シンポジウムで使用
3	11	(株) 童夢	大橋コレクション 路地で遊ぶ子どもたち	「再発見! 暮らしのなかの伝統文化」第6巻に掲載
3	11	小森 千賀子	モツゴ、タイリクバラタナゴほか 計15点	冊子「琵琶湖疏水の学習」に掲載
3	11	小森 千賀子	モツゴ、タイリクバラタナゴほか 計15点	学習用紙芝居(英語版)に掲載
3	11	京都大学大学院工学研究科	滋賀県教育委員会琵琶湖総合開発地域民俗文化財特別調査報告書「内湖と河川の漁法」掲載写真 計24点	東近江市重要文化的景観保存活用計画に係る調査および報告書への掲載
3	11	井の頭自然文化園	ハリヨ 1点	展示解説に使用
3	11	近江八幡市システム管理課	オオヨシキリ 1点	市制施行5周年記念式典で使用
3	13	海遊館	アブラヒガイ、アジメドジョウほか 計25点	企画展のパネルに使用
3	24	竹内 和美	ビワヒガイ 1点	滋賀県レイカディア大学での学習研究発表資料に使用
3	30	NHK 大津放送局	昭和34年伊勢湾台風災害写真1点、昭和28年台風13号災害写真4点 計5点	NHK 大津放送局「おうみ発610」で使用

<館内閲覧・撮影>

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
4	4	吉安 裕	昆虫標本 鱗翅目昆虫 50点	滋賀県産鱗翅目昆虫の調査
9	12	櫻井 信也	滋賀県管下近江国六郡物産図説 滋賀郡・栗太郡 1点	湖上フォーラム「みんなで語るふなずしの歴史」資料のため
9	25	永井 久美男	唐橋遺跡出土銭貨 110点	琵琶湖出土の銀貨調査のため
11	9	林田 明 (同志社大学理工学部)	関西国際空港第2期空港島深層土質調査ボーリングコア 40点	学術研究のため
1	25	川口 尚毅	植物標本 スミレ類 50点	近畿のスミレ類研究のため
1	27	吉武 啓 (独)農業環境技術研究所)	昆虫標本 江本健一ゾウムシコレクション 500点	ゾウムシ類の調査・研究のため
2	13	吉安 裕	昆虫標本 滋賀県産メイガ上科 100点	滋賀県のメイガ上科相の解明
2	14	吉安 裕	昆虫標本 滋賀県産メイガ上科 100点	滋賀県のメイガ上科相の解明

5) 資料の活用状況の公開

収集された資料は、琵琶湖博物館内だけでなく、県内外の博物館など他機関へも貸し出され、展示されている。他機関の展示への貸出状況についてはインターネットページにて順次公開している。2014年度には、歴史資料1件の貸出状況を公開した。

資料分野	貸出先	資料内容	利用目的
歴史資料	野洲市歴史民俗博物館 (銅鐸博物館)	農稼業事 四冊 瀬田川自普請組合村絵図 一冊 近江国之図 一冊 農具便利論 下巻 (写真のみ)	秋期企画展 「近江の自然災害—地震と水害の歴史—」 2014年10月4日(土)～ 11月24日(月)

6) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用されるが、そのことによって多岐にわたる成果があがる。また、資料が利用されてから実際に成果が論文などの形にまとまるまでに要する時間もさまざまである。2014年度には、博物館資料としての収集整理の過程に直接関わる研究成果以外で、一旦収蔵された後に研究目的で利用された事例のうち、成果発表にまで至ったことが把握できたものは無かった。

(3) 資料保管

資料を保管する際には、ガス燻蒸、冷凍処理および二酸化炭素処理など、防虫・防黴対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態が保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行うほか、収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理、生物トラップ調査、定期的な清掃などの総合的有害生物防除管理(IPM)を行っている。

2014年度は、収蔵庫空間においてカビ防御のため、扇風機や除湿器の設置や外気の遮断など空気環境の改善も行った。特に映像収蔵庫の湿度が不安定であったため、7～9月に除湿器を用いて除湿を行った。収蔵環境のモニタリングとしては、きめ細かな空気環境の把握を行うため、温湿度記録計・データロガー等の数量と配置場所の現状把握なども行った。また、全館規模の空調設備のシステム更新工事に伴い、温湿度記録システムやデータ抽出方法の見直しと調整を行った。

## 1) 収蔵庫空間の管理

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 ・ 時間ごとに計測し、全データを保存。 ・ 温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。
定期清掃	・ 収蔵庫の清掃：月 1 回原則として第 1 金曜日に実施 ・ 収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週 1 回実施
特別清掃	年 5 回の特別清掃の実施(トラックヤード、前室等、害虫の増加場所を対象とした)
生物環境調査	年 3 回の生物環境調査 ・ 2014 年 6 月 13 日～6 月 27 日 昆虫トラップ調査 244 カ所(設置・回収・分析) ・ 2014 年 10 月 17 日～10 月 31 日 昆虫トラップ調査 244 カ所(設置・回収・分析) ・ 2015 年 2 月 13 日～2 月 27 日 昆虫トラップ調査 244 カ所(設置・回収・分析) * 当館の IPM 基準値 ・ 虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種 (チャタテムシ) の個体数 (捕獲指数) が 1

## 2) 燻蒸・処理

収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、収蔵庫内の温湿度管理、定期清掃、トラップ調査などといった、総合的有害生物防除管理 (IPM) と合わせ、必要に応じた燻蒸処理を行っている。

新たに収集した資料や、収蔵庫外で活用後の資料は、収蔵庫への搬入前に燻蒸処理を行っている。また、昆虫トラップ調査の結果等を踏まえ、収蔵庫内のチャタテムシ発生源になりやすい資料等の燻蒸を行っている。

大型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる燻蒸 3 回と酸化エチレン(エキヒューム S)による燻蒸 1 回を実施した。また、密閉テントを用いた二酸化炭素燻蒸を 1 回実施した。小型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる処理を随時行っている。その他、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

## 3) 資料収蔵環境改善プロジェクト

ここ数年、施設・設備の老朽化のためと思われる、収蔵庫の温湿度が安定しなかったり、収蔵庫空間に発生した虫の管理に苦慮することが増えてきている。それに対して、問題が発生するごとに関係担当者や業者が対症療法的な処理を行ってきたが、このままでは安定的な資料の維持管理に支障をきたすのではないかと強い問題意識が生じてきた。そこで、この問題に総合的に取り組むために、問題・対処を担当者だけでなく、広く情報提供・共有し、専門家を入れて、その改善提案を出していただき、今後の取り組みの礎にしようという「資料収蔵環境改善プロジェクト」を 2013 年 9 月に立ち上げた。

初年度にあたる平成 25 年度には、資料収蔵環境の調査・情報共有・対策の検討・改善提案のとりまとめを行った。そして現状における博物館資料の維持管理上の問題点を整理し、それを踏まえて改善提案を「すぐに出来ること」「数年で出来ること」「大規模な変更をとまなうこと」の 3 レベルに分けて整理した。この成果を踏まえて、2014 年度には特に喫緊の状態にあると考えられる排水環境について詳細な現状調査を行った。具体的には、設計図面や完工図面から読み取れる排水環境の構造や開館後の経年劣化や修繕によって変化した状況を、専門知識を有さない館職員にも理解できる形に整理したうえ、その機能を維持していくために今後必要となる管理業務を明らかにした。また、館内に 15 か所 30 台設置されている排水ポンプは法定定期点検の対象となっておらず設置してから点検したことが無いことから、分解検査を要さない電圧測定などの手段で可能な点検を実施し、劣化が進んでいるポンプ 3 台を特定することができた。

今後は、この成果を踏まえて、維持に必要な管理業務を着実に遂行すると共に、必要と考えられる設備の修理や交換を予算の制約下でいかにして進めて行くかが課題となる。

## 2 研究を進めて活かせる博物館

### 研究調査活動

琵琶湖博物館の事業は、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という5つを総合的に行ない、特にその中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果の発信として、交流、情報、資料、展示が行われ、研究の成果とその発信が魅力的であればあるほど、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

これまで琵琶湖博物館の研究事業では、「生命文化複合体」としての琵琶湖の「価値」を明らかにすることを目標に、学際的な総合研究やテーマをしばった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。総合研究と共同研究については、研究審査委員会に対して研究計画書を提出し、その審査を受けて、2014年度は、以下の研究課題が審査を通過して実施された。なお、専門研究については、申請金額の多い研究は申請専門研究として、同じく研究審査会での審査を受けた。

#### (1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、総合研究を行った。総合研究のテーマは次の2件であった。

- ・琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明  
代表者：高橋啓一，研究期間：2011～2015年度
- ・前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究  
代表者：橋本道範，研究期間：2014～2018年度

#### (2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマに従った研究として共同研究を以下のテーマで行った。共同研究のテーマは次の10件であった。

- ・太湖における水田の機能解明と民俗・考古資料整備  
代表者：楊平，研究期間：2011～2014年度
- ・2010年代の滋賀県のトンボ類の分布状況に関する研究  
代表者：河瀬直幹，研究期間：2012～2014年度
- ・古琵琶湖の置き土産～滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究～  
代表者：大塚泰介，研究期間：2012～2016年度
- ・「人をつなぐ人材」を軸とした戦略的博物館学への展開  
代表者：戸田孝，研究期間：2012～2015年度
- ・X線CT画像を使ったシガゾウの分類学的再検討  
代表者：高橋啓一，研究期間：2013～2015年度
- ・微小な生物の飼育技術開発および展示方法  
代表者：松田征也，研究期間：2013～2015年度
- ・スレ症を目的とした塩水浴の治療メカニズムの解明  
代表者：菅原和宏，研究期間：2013～2014年度
- ・琵琶湖を支える生命と物質の循環系に関する共同研究－I  
代表者：藤岡康弘，研究期間：2013～2016年度
- ・侵略的外来魚の生息抑制技術の新規開発・高度化に関する研究  
代表者：中井克樹，研究期間：2014～2016年度
- ・カワウと森と人との関係史に関する研究成果の統合と発信

代表者：亀田佳代子，研究期間：2014年度

### (3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究を行った。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとの区別している。

＜申請専門研究＞

- ・琵琶湖集水域における古墳時代首長の領域と地域性（用田政晴）
- ・過疎集落と他出先市街地における二地域居住の実態の解明（大久保美香）
- ・南湖の沈水植物分布の定量調査（芳賀裕樹）
- ・イバラモの生活史と多様性に関する研究（芦谷美奈子）
- ・琵琶湖地域における化石ヒシ属の果実形態からみた分類とその変遷（山川千代美）

＜専門研究＞

環境史研究領域担当

- ・古琵琶湖層群産から新しく発見された魚類頭骨化石の形態解析（高橋啓一）
- ・蒲生層堆積期の山城丘陵と琵琶湖地域の関係の検討（里口保文）
- ・日本中世史は「種」を問題とすることができるかー社会史から環境史への挑戦ー（橋本道範）
- ・住民の防災意識向上に繋げる教育プログラムに関する検討（井関明子）
- ・農村における生業をめぐる再生のありかた（楊 平）
- ・揚水機に関する基礎的研究ー既往研究および使用事例の整理ー（老 文子）
- ・琵琶湖周辺における縄文時代以降の定量的植性復元に向けた基礎的研究ー花粉分析データの収集とデータベースの構築ー（林 竜馬）

生態系研究領域担当

（基礎地域研究班）

- ・寄生性甲殻類および大型鰓脚類に関する研究（マーク ジョセフ グライガー）
- ・カワウの巣の昆虫相に関する研究（八尋克郎）
- ・希少淡水魚における性決定について（松田征也）
- ・水生双翅目昆虫アシナガバエ属*Dolichopus*の分類学的研究（柘永一宏）
- ・水田地帯の排水路における生態系保全の基礎的調査（水谷 智）
- ・県環境行政施策資料の整理と活用（浦山重雄）
- ・東アジアのカイミジンコデータベースの拡大（ロビン ジェームス スミス）

（応用地域研究班）

- ・魚類を中心とした琵琶湖固有種の生態等に関する研究（藤岡康弘）
- ・琵琶湖産魚類の遺伝的多様性と個体群構造の変化に関する基礎的研究（桑原雅之）
- ・生態系機能としての鳥類の養分輸送機能の検討（亀田佳代子）
- ・魚類・貝類の保全に関する基礎的研究（中井克樹）
- ・琵琶湖に繋がる森林環境学習の進め方（安福俊幸）
- ・ろ過槽等飼料器材の消毒に及ぼす阻害物質の影響（山本充孝）
- ・琵琶湖周辺域における水田利用魚類の生態・保全に関する研究（金尾滋史）
- ・草地利用の変化に伴う半自然草地の変容と草地性生物への影響（澤邊久美子）

博物館学研究領域担当

- ・中池見湿地の珪藻群集と環境指標性（大塚泰介）
- ・地球物理学を手がかりとする博物館学の展開（戸田 孝）
- ・マミズクラゲの性決定機構の解析（楠岡 泰）

- ・地域を応援する学芸員の役割と新しい博物館像（中藤容子）
- ・集落用水系をめぐる民俗儀礼の研究：近世湖南地域の虫送りと雨乞いを例に（渡部圭一）
- ・教員の専門性を支える博物館の役割について（間所忠昌）
- ・学校現場に伝える滋賀県の環境の基礎と実際（蜂屋正雄）

#### (4) 研究審査委員会

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏名	現職
竹村 恵二	京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設 教授
宮崎 信之	東京大学大気海洋研究所 名誉教授
西 源二郎	元東京都葛西臨海水族館 園長
濱崎 一志	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科 教授
遊磨 正秀	龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科 教授
水本 邦彦	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部 教授（2014年9月30日まで）
中村 正久	滋賀大学環境総合研究センター 特任教授
太田 義人	滋賀県総合教育センター 主査
瀬田 勝哉	武蔵大学 名誉教授（2015年1月1日から）
篠原 徹	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
中鹿 哲	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長
高橋 啓一	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

#### (5) 研究助成を受けた研究

学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものは以下のとおりである。

篠原 徹

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「日本の博物館総合調査研究」研究代表者（2013～2015年度）

高橋啓一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究代表者（2014～2016年度）

山川千代美

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究分担者（2014～2016年度）

里口保文

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「日本周辺の海域と陸域の鮮新-更新統を統合した標準年代モデルの確立」研究代表者（2013～2015年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究分担者（2014～2016年度）

橋本道範

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「日本中世における「水辺推移帯」の支配と生業をめぐる環境史的研究」研究代表者（2011～2014年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究-中・近世村落像の再検討」研究分担者（2012～2015年度）

・文部科学省科学研究費助成事業（研究成果公開促進費（学術図書））「日本中世の環境と村落」（2014年度）  
楊 平

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」研究代表者（2010～2014年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「貯蔵」と加工から見る東南アジア農耕導入期の野生植物食利用の実態とその変遷」研究分担者（2012～2014年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究のモデル構築」研究分担者（2013～2016年度）

林 竜馬

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手 B）「日本海堆積物の花粉分析からみる森林動態に対する海洋・モンスーン変動の影響評価」研究代表者（2013～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究分担者（2014～2016年度）

大久保実香

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手 B）「人工減少後の地域コミュニティとその資源管理」研究代表者（2014～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究分担者（2014～2016年度）

マーク ジョセフ グライガー

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「間隙性ファウナの種多様性評価と生息の制限要因－陰性環境の生物多様性に光を当てる－」研究分担者（2011～2015年度）

八尋克郎

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「ニッチ構築としての鳥の巣：未知の共生系の進化生態学的研究」研究分担者（2013～2015年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究分担者（2014～2016年度）

松田征也

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「日本の博物館総合調査研究」研究分担者（2013～2015年度）

榊永一宏

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「日本の博物館総合調査研究」研究分担者（2013～2015年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「インド洋における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」研究代表者（2014～2016年度）

ロビン ジェームス スミス

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「新たな生物進化モデルの展開：日本海多様化工場説とその世界的インパクト」研究分担者（2014～2017年度）

亀田佳代子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「ニッチ構築としての鳥の巣：未知の共生系の進化生態学的研究」研究分担者（2013～2015年度）

中井克樹

- ・笹川日仏財団助成金「魚類学から見た日仏交流史－明治期に渡った琵琶湖産魚類標本の調査研究」研究分担者（2014年10月～2015年3月）
- ・環境省地球環境研究総合推進費「特定外来生物の重点的防除対策のための手法開発」サブテーマ「琵琶湖におけるオオクチバス等の重点的防除対策」研究代表者（2014～2017年度）

- ・水産庁健全な内水面生態系復元等推進委託事業「外来種抑制技術高度化事業」研究分担者（2012～2015年度）

用田政晴

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」研究分担者（2010～2014年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究のモデル構築」研究代表者（2013～2016年度）

大塚泰介

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 A）「水田の生物がもたらす生態系サービスの賢い利用を導く技術と社会の総合研究」研究分担者（2012～2014年度）

戸田 孝

- ・文部科学省科学研究費助成事業（挑戦的萌芽）「『癒し』を手がかりとする博物館の副次的機能論の構築」研究代表者（2013～2015年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「日本の博物館総合調査研究」研究分担者（2013～2015年度）

芦谷美奈子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 S）「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」研究分担者（2012～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「学校教育における博物館利用を促進させるための教員支援ツールの開発」研究分担者（2013～2017年度）

渡部圭一

- ・一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会 社会貢献基金助成事業「冠婚葬祭における献立書・料理書の受容と『男性調理』に関する研究」研究代表者（2014年度）

#### <研究調査業務受託>

- ・水産庁 健全な内水面生態系復元等推進委託事業（外来魚抑制管理技術高度化事業）（2012～2015年度）
- ・環境省 地球環境研究総合推進費「特定外来生物の重点的防除対策のための手法開発」（2014～2016年度）
- ・農林水産省 平成25年度委託プロジェクト研究「気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクト 生物多様性を活用した安定的農業生産技術の開発」（2013～2017年度）

#### (6) 研究員の受け入れ

- ・朱 偉 2013年12月1日～2014年11月30日  
テーマ：細胞群集化現象に基づく*Microcystis*の表層集積メカニズム
- ・北村美香 2014年1月15日～2015年1月14日，2015年1月15日～2016年1月14日  
テーマ：博物館における「モノ資料」と「情報」の関連性について
- ・太田悠造 2014年3月14日～2015年3月13日，2015年3月14日～2016年3月13日  
テーマ：寄生性ワラジムシ類の分類学的研究と生態解明
- ・川瀬成吾 2014年4月1日～2015年3月31日  
テーマ：琵琶湖・淀川流域の魚類多様性をめぐる保全分類学的研究
- ・廣石伸互 2014年4月1日～2015年3月31日  
テーマ：アオコの溶藻細菌および溶藻酵素に関する研究
- ・天野一葉 2014年4月1日～2015年3月31日  
テーマ：外来種ソウシチョウの形態・遺伝学的研究
- ・鈴木隆仁 2014年4月1日～2015年3月31日

- テーマ：琵琶湖、水田およびその周辺地域における淡水腹毛動物の調査
- ・林 博通 2014年4月1日～2015年3月31日  
 テーマ：琵琶湖湖底遺跡の研究／大津京構造の研究
  - ・植田文雄 2014年4月1日～2015年3月31日  
 テーマ：琵琶湖地域における内水面漁業の史的研究—考古資料と民俗資料をもちいて
  - ・辻川智代 2014年4月1日～2015年3月31日  
 テーマ：考古学的手法を用いた民具の分類とその歴史の変遷を通じた地域文化研究
  - ・黒岩啓子 2014年4月1日～2015年3月31日  
 テーマ：博物館におけるコミュニケーションと学びについて：モノ、情報、人との相互関係に関する研究
  - ・中野聰志 2014年4月1日～2015年3月31日  
 テーマ：滋賀県琵琶湖周辺花崗岩類・国内外関連花崗岩類及びそれらに伴う鉱物類の地質学のおよび教育学的研究
  - ・矢田直樹 2014年4月1日～2015年3月31日  
 テーマ：滋賀県内の祭礼行事や民間信仰に関する歴史民俗学研究
  - ・高梨純次 2014年4月1日～2015年3月31日  
 テーマ：近江の仏像からみた仏教の展開と生活空間
  - ・瀬口眞司 2014年4月1日～2015年3月31日  
 テーマ：縄文時代を中心とする人類の資源利用と自然観の通時的変遷に関する研究
  - ・中野正俊 2014年4月1日～2015年3月31日  
 テーマ：児童の活用型学力と学びの有用感を高める理科・環境学習
  - ・柏尾珠紀 2014年4月1日～2015年3月31日  
 テーマ：琵琶湖周辺部農漁村におけるジェンダーの社会学的考察
  - ・池田 勝 2014年4月1日～2015年3月31日  
 テーマ：幼児期の自然体験型教育プログラムの開発とその実践研究
  - ・Olivier Schmit 2014年9月1日～2015年8月31日  
 テーマ：Rice fields ostracod diversity, ecology and biogeography
  - ・篠原耕平 2014年12月1日～2015年11月30日  
 テーマ：珪藻をマーカーとした藻食魚類の摂食場所の研究
  - ・川那部浩哉 2010年4月1日～2015年3月31日  
 テーマ：博物館における生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及
  - ・中島経夫 2010年4月1日～2015年3月31日  
 テーマ：コイ科魚類の咽頭歯からみた湖と人の関わりについての研究
  - ・前畑政善 2011年4月1日～2016年3月31日  
 テーマ：水田魚類の研究
  - ・布谷知夫 2014年4月1日～2019年3月31日  
 テーマ：住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究

## 研究発信

### (1) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ

(<http://www.lbm.go.jp/active/research/>) に掲載した。

#### <原著論文>

- Iwase, A., Takahashi, K. and Izuho, M. (2015) Further study on the Late Pleistocene megafaunal extinction in the Japanese Archipelago. *Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Paleolithic Asia*: 325-344.
- 橋本道範 (2015) 日本中世の環境と村落: 444p.
- 橋本道範 (2015) 戦後における歴史学の自然環境理解と村落論. *日本中世の環境と村落*: 3-46.
- 橋本道範 (2015) 一五世紀における魚類の首都消費と漁撈—琵琶湖のフナ属の旬をめぐる—. *日本中世の環境と村落*: 203-250.
- 橋本道範 (2015) 中世の「水辺」と村落—「生業の稠密化」をめぐる—. *日本中世の環境と村落*: 364-414.
- 楊 平 (2014) 人与自然关系的修复—日本琵琶湖治理与生活环境主义的应用 Restoration of the relationships between human beings and nature—the application of Lake Biwa mitigation and life environmentalism. *Journal of Lake Sciences (湖泊科学)*, 5(26): 807-812.
- Yang, P. (2014) Interpretation of river management in Lake Biwa Basin from the angle of living environmentalism. *Water Resources Protection*, 1(31): 16-21.
- Zhu, W., Yang, P., Gong, M. (2014) Japan's multi-natural river regulation and its enlightenment to China. *Water Resources Protection*, 31(1): 22-29.
- Zhu, W., Jiang, M., Cai, M., Yang, P. (2014) Advocate a “nature-friendly river” regulation model: reflection on the rural regulation in China. *Water Resources Protection*, 1(31): 1-7.
- Kigoshi, T., Kumon, F., Hayashi, R., Kuriyama, M., Yamada, K., Takemura, K. (2014) Climate changes for the past 52 ka clarified by total organic carbon concentrations and pollen composition in Lake Biwa, Japan. *Quaternary International*, 333: 2-12.
- 林 竜馬・槻木玲美・小田寛貴・大槻 朝・栗野 将・牧野 渡・占部城太郎 (2014) 山形県畑谷大沼堆積物の花粉分析に基づく過去 60 年間の植生とスギ花粉年間堆積量の変化. *日本花粉学会誌*, 60(1): 13-25.
- Takahara, H. and Hayashi, R. (2015) Paleovegetation during marine isotope stage 3 in East Asia. *Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Paleolithic Asia*: 314-324.
- Tomikawa, K., Kobayashi, N., Kyono, M., Ishimaru, S. and Grygier, M.J. (2014) Description of a new species of *Sternomoera* (Crustacea: Amphipoda: Pontogeneiidae) from Japan, with analysis of the phylogenetic relationships among the Japanese species based on the 28S rRNA gene. *Zoological Science*, 31(7): 475-490.
- Kitazima, J., Matsuda, M., Mori, S., Kokita, T. and Watanabe, K. (2014) Population structure and cryptic replacement of local populations in the endangered bitterling *Acheilognathus cyanostigma*. *Ichthyological Research*, 62: 122-130.
- 亀甲武志・岡本晴夫・氏家宗二・石崎大介・臼杵崇広・根本守仁・三枝 仁・甲斐嘉晃・藤岡康弘 (2014) 琵琶湖内湖の流入河川におけるホンモロコの産卵生態. *魚類学雑誌*, 61(1): 1-8.
- Fujioka, Y. and Ueno, S. (2014) Genetic contribution of parents in sex determination of honmoroko *Gnathopogon caeruleus*. *Fisheries Science*, DOI 10.1007/s12562-014-0766-2.
- Fujioka, Y., Nemoto, M., Kikko, T. and Isoda, T. (2014) Sex ratios of nigorobuna *Carassius auratus grandoculis* reared in paddy fields with fluctuating temperatures during larval and juvenile growth stages. *Fisheries Science*, DOI 10.1007/s12562-014-0783-1.
- Fujioka, Y., Kido, Y., Uenishi, M., Yoshioka, M. and Kashiwagi, M. (2014) Distribution of *Cottus reinii* and *Cottus pollux* in rivers around Lake Biwa, central Japan. *Biogeography*, 16: 93-99.

- Nakajima, T., Shimura, H., Yamazaki, M., Fujioka, Y., Ura, K., Hara, A. and Shimizu, M. (2014) Lack of hormonal stimulation prevents the landlocked Biwa salmon (*Oncorhynchus masou* subspecies) from adapting to seawater. *American Journal of Physiology - Regulatory, Integrative and Comparative Physiology*, 307:R414-R425. doi:10.1152/ajpregu.00474.2013.
- Kikko, T., Usuki, T., Ishizaki, D., Kai, Y. and Fujioka, Y. (2014) Relationship of egg and hatchling size to incubation temperature in the multiple-spawning fish *Gnathopogon caerulescens* (Honmoroko). *Environmental Biology of Fishes*, 98:1151-1161, DOI 10.1007/s10642-014-0348-2.
- Kikko, T., Ishizaki, D., Ninomiya, K., Kai, Y. and Fujioka, Y. (2014) Diel patterns of larval drift of honmoroko *Gnathopogon caerulescens* in an inlet of Ibanaike Lagoon, Lake Biwa, Japan. *Journal of Fish Biology*, 86:409-415, doi:10.1111/jfb.12570.
- Fujioka, Y. and Saegusa, J. (2014) Sex ratios in relation to age and body size in “Honmoroko”, *Gnathopogon caerulescens*. *Ichthyological Research*, DOI 10.1007/s10228-014-0452-5.
- Natsumeda, T., Sakano, H., Tsuruta, T., Kameda, K. and Iguchi, I. (2014) Immigration of the common cormorant *Phalacrocorax carbo hanedae* into inland areas of the northern part of Nagano Prefecture, eastern Japan, inferred from stable isotopes of carbon, nitrogen and sulphur. *Fisheries Science*, 81(1): 131-137.
- Smith, R. J., Lee, J. and Chang, C. Y. (2014) Nonmarine Ostracoda (Crustacea) from Jeju Island, South Korea, including descriptions of two new species. *Journal of Natural History*, 49:37-76, <http://dx.doi.org/10.1080/00222933.2014.946110>.
- Smith, R. J. and Kamiya, T. (2014) The freshwater ostracod (Crustacea) genus *Notodromas* Lilljeborg, 1853 (Notodromadidae) from Japan; taxonomy, ecology and lifecycle. *Zootaxa*, 3841(2): 239-256.
- Smith, R. J., Matzke-Karasz, R., Kamiya, T. and Deckker, P. D. (2015) Sperm lengths of non-marine cypridoidean ostracods (Crustacea). *Acta Zoologica*, doi:10.1111/azo.12099.
- Matzke-Karasz, R., Neil, J. V., Smith, R. J., Symonová, R., Mořkovský, L., Archer, M., Hand, S. J., Cloetens, P. and Tafforeau, P. (2014) Subcellular preservation in giant ostracod sperm from an early Miocene cave deposit in Australia. *Proceedings of the Royal Society*, B 281:20140394.
- 用田政晴 (2014) 首長墓の規格と墓道・正面一兜稻荷古墳の再検討一. *淡海文化財論叢*, 第6輯: 29-32.
- Maruyama, A., Shinohara, K., Sakurai, M., Ohtsuka, T. and Rusuwa, B. (2014) Microhabitat variations in diatom composition and stable isotope ratios of epilithic algae in Lake Malawi. *Hydrobiologia*, DOI 10.1007/s10750-014-1977-3.
- Ohtsuka, T. (2015) Nursery grounds for round crucian carp, *Carassius auratus grandoculis*, in rice paddies around Lake Biwa. *Social-Ecological Restoration in Paddy-Dominated Landscapes*, Ecological Research Monographs, 139-164, DOI 10.1007/978-4-431-55330-4\_10.
- 戸田 孝 (2014) 博物館教員に関する全国調査. *科学教育研究*, 38(4): 248-259.

#### <専門分野の著作>

- 高橋啓一 (2014) 書評「歯の比較解剖学 第2版」. *化石*, 96: 59-60.
- 井関明子 (2015) 伐採竹の家畜敷料としての利用実験および市場調査について. *平成26年度土木技術研究発表会論文集*.
- 楊 平 (2014) 水辺の生活を通して共通の「リズム」探る. *湖国と文化*, 148: 79-81.
- 楊 平 (2014) 暮らしが語る人と湖. *魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし*: 3.
- 楊 平 (2014) 水郷の暮らしと水文化. *魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし*: 26-29.
- 楊 平 (2014) 水とお茶. *魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし*: 28.

- 楊 平 (2014) 水辺の植物資源利用と工夫. *魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし*: 34-35.
- 楊 平 (2014) 家船漁民の暮らしと漁業. *魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし*: 38-40.
- 楊 平 (2014) 水田稲作から人と水辺との関係を読み解く. *魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし*: 55-57.
- 楊 平 (2014) 自然資源の力を生かした農耕. *魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし*: 58-61.
- 藤岡康弘・楊 平 (2014) 湖との距離—水辺で暮らす知恵をどう伝えていくのか—. *魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし*: 64-65.
- 林 竜馬・廣瀬孝太郎・長橋良隆 (2015) 猪苗代湖湖底堆積物の花粉分析に基づく過去1700年間の植生変遷. *福島大学理工学群共生システム理工学類 共生のシステム*, 15: 66-71.
- Okubo, M. (2015) Task-sharing, to the degree possible: Collaboration between out-migrants and remaining residents of a mountain community experiencing rural depopulation. *Collaborative Governance of Forests Towards Sustainable Forest Resource Utilization*: 135-162.
- Olesen, J. and Grygier, M. J. (2014) Spinicaudata. *Atlas of Crustacean Larvae*, 51-57.
- Høeg, J. T., Chan, B. K. K., Kolbaov, G. A. and Grygier, M. J. (2014) Ascothoracida. *Atlas of Crustacean Larvae*, 104-106.
- Høeg, J. T., Chan, B. K. K., Kolbaov, G. A. and Grygier, M. J. (2014) Facetotecta. *Atlas of Crustacean Larvae*: 100-103.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) (M. J. Grygier) OPINION 2336 (Case 3576). (その一部), *Oscinella* Becker, 1909 (Insecta, Diptera, CHLOROPIDAE): precedence reversed with *Melanochaeta* Bezzi, 1906 and *Pachychaetina* Hendel, 1907. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71(2): 141-143.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) (M. J. Grygier) OPINION 2335 (Case 3395). (その一部), *Geophilus linearis* C. L. Koch, 1835 (currently *Stenotaenia linearis*; Chilopoda): specific name conserved and *Geophilus sorrentinus* (currently *Stenotania sorrentina*; Chilopoda) Attems, 1903: specific name not conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71(2): 138-140.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) (M. J. Grygier) OPINION 2342 (Case 3585). (その一部), *Atomosia Macquari*, 1838 (Insecta, Diptera, ASICIDAE): proposed conservation of usage. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71(3): 199-200.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) (M. J. Grygier) OPINION 2340 (Case 3592). (その一部), *Dodecatoma* Westwood, 1849 (Insecta, Coleoptera): name conserved by suppression of *Dodecatoma* Dufour, 1843 (Insecta, Plecoptera). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71(3): 195-196.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) (M. J. Grygier) OPINION 2338 (Case 3580). (その一部), *Exechocentrus lancearius* Simon, 1889 (Arachnida, Araneae, ARANEIDAE): a neotype designated. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71(3): 189-190.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) (M. J. Grygier) OPINION 2343 (Case 3586). (その一部), *Glossina* Wiedemann, 1830 (Insecta, Diptera, GLOSSINIDAE): precedence given over *Nemorhina* Robineau-Desvoidy, 1830. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71(3): 201-202.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) (M. J. Grygier) OPINION 2350 (Case 3566). *Tropidolaemus* Wagler, 1830 and *Cophias wagleri* F. Boie, 1827 (currently *Tropidolaemus wagleri*) (Reptilia, Squamata, VIPERIDAE): usage conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71(4): 271-272.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) (M. J. Grygier) OPINION 2349 (Case 3595).

- Ocydromia* Meigen, 1820 (Insecta, Diptera, HYBOTIDAE): usage conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71(4): 269-270.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) (M. J. Grygier) OPINION 2348 (Case 3591).  
*Argyra* Macquart, 1834 (Insecta, Diptera, DOLICHOPODIDAE): the name conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71(4): 267-268.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) (M. J. Grygier) OPINION 2346 (Case 3588).  
*Brachystoma* Meigen, 1822 (Insecta, Diptera, BRACHYSTOMATIDAE): usage conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71(4): 262-264.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) (M. J. Grygier) OPINION 2345 (Case 3579)  
*Scarabaeus fimetarius* Linnaeus, 1758 (currently *Aphodius fimetarius*; Insecta, Coleoptera, SCARABAEIDAE): neotype designated. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71(4): 259-261.
- Grygier, M. J. (2014) Comment on STENODERINI Selander, 1991 (Insecta, Coleoptera): proposed emendation of spelling to STENODERAINI to remove homonymy with STENODERINI Pascoe, 1867 (Insecta, Coleoptera); and STENODERINI Pascoe, 1867: proposed precedence over SYLLITINI Thomson, 1864. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71(4): 250-251.
- Grygier, M. J. (2014) Comment on *Siphonichnus* Stanistreet, le Blanc Smith & Cadle, 1980 (trace fossil): proposed conservation by granting precedence over the senior subjective synonym *Ophthalmichium* Pfeiffer, 1968 (Case 3662; see BZN 71:147-152). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71(4): 250.
- 八尋克郎 (2014) 博物館だより (9) 滋賀県立琵琶湖博物館における陸前高田市立博物館の被災した昆虫標本の修復. *昆虫 (ニューシリーズ)*, 17(2): 1-6.
- 河瀬直幹・澤田弘行・吉田雅澄・八尋克郎 (2014) 滋賀トンボ調査グループの活動と現在までの成果. *Aeschna*, 50: 27-31.
- 柗永一宏 (2014) Family Stratiomyidae ミズアブ科, *Catalogue of the Insects of Japan Volume 8 Diptera (Part 1) 日本産昆虫目録 第8巻 双翅目 第1部*, 8(1): 365-371.
- 柗永一宏 (2014) Family Pelecorhynchidae タマユラアブ科, *Catalogue of the Insects of Japan Volume 8 Diptera (Part 1) 日本産昆虫目録 第8巻 双翅目 第1部*, 8(1): 373.
- 柗永一宏 (2014) Family Rhagionidae シギアブ科, *Catalogue of the Insects of Japan Volume 8 Diptera (Part 1) 日本産昆虫目録 第8巻 双翅目 第1部*, 8(1): 374-378.
- 柗永一宏 (2014) Family Acroceridae コガアシラアブ科, *Catalogue of the Insects of Japan Volume 8 Diptera (Part 1) 日本産昆虫目録 第8巻 双翅目 第1部*, 8(1): 391-392.
- 柗永一宏 (2014) Family Bombyliidae ツリアブ科, *Catalogue of the Insects of Japan Volume 8 Diptera (Part 1) 日本産昆虫目録 第8巻 双翅目 第1部*, 8(1): 392-394.
- 柗永一宏 (2014) Family Dolichopodidae アシナガバエ科, *Catalogue of the Insects of Japan Volume 8 Diptera (Part 1) 日本産昆虫目録 第8巻 双翅目 第1部*, 8(1): 439-447.
- 亀田佳代子 (2014) 鶺鴒の山のカワウ. *BIOSTORY (生き物文化誌学会誌)*, 21: 88-89.
- Smith, R. J. (2014) Introduction to the Ostracoda, *Atlas of Crustacean Larvae*: 164.
- Smith, R. J. (2014) Ostracoda: Podocopa, *Atlas of Crustacean Larvae*: 165-168.
- 藤野勇馬・金尾滋史 (2014) 中池見湿地で確認されたナタネキバサナギガイ *Vertigo eogea eogea* Pilsbry, 1919 について. *福井市自然史博物館研究報告*, 61: 71-72.
- 金尾滋史 (2014) オオガタスジシマドジョウ. *Red Data Book 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類*: 180-181.
- 金尾滋史 (2014) ビワコガタスジシマドジョウ (ヨドコガタスジシマドジョウを含む). *Red Data Book 2014-*

日本の絶滅のおそれのある野生生物- 4 汽水・淡水魚類：186-187.

用田政晴 (2014) 博物館学芸員の役割. *考古学研究会 60 周年記念誌 考古学研究 60 の論点*：221-222.

用田政晴 (2014) 展示紹介 滋賀県立琵琶湖博物館企画展示『魚米之郷-太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし-』. *民具研究*, 150：100-103.

大塚泰介 (2015) 「人間と湖のよりよい共存関係」へと向かう博物館の学習と研究. *Museum 2015 Papers*, CD-ROM file 11-2.

蜂屋正雄 (2014) 環境学習の学習感想～リン酸は毒じゃない～. *さざなみ国語教室*, 385：4.

蜂屋正雄 (2015) 琵琶湖博物館と学校. *さざなみ国語教室*, 391：4.

蜂屋正雄 (2015) 滋賀県の環境学習と言語活動①. *さざなみ国語教室*, 393：3.

蜂屋正雄 (2015) 滋賀県の環境学習と言語活動②. *さざなみ国語教室*, 395：3.

## (2) 新琵琶湖学セミナー

琵琶湖博物館では、「湖と人間」をテーマに、過去から現在にかけて湖と人間との関係を明らかにし、未来に向けてよりよい関係を考えていくために、研究調査を進めている。この研究成果発信の一環として2008年度から3年にわたって開催した、「新琵琶湖学入門セミナー」「新琵琶湖学専門セミナー」「新琵琶湖学創造セミナー」が幸いにも好評を得たため、2011年度からも引き続き、同形式の「新琵琶湖学セミナー」を開催することになった。

4年目にあたる2014年度は、「研究の種(タネ)－新琵琶湖博物館を創造する－」をテーマに掲げ、当館学芸員を中心に県内外の研究機関等に所属する講師が、現在計画中の博物館展示リニューアルに関連して、各展示室で取り上げる新たなトピックの元になる最新の研究成果について講義を行った。各回ともに多くの参加者があり、延べ233名の参加者があった。

開講日：2015年1月17日・2月21日・3月21日の土曜日（計3日間）

開講時間：13:30～16:00 1日2講演

会場：琵琶湖博物館セミナー室

第1回 1月17日（土） 参加者80名

「琵琶湖地域の気候変動と自然」

「琵琶湖地域の気候と森の移り変わり」

林 竜馬（滋賀県立琵琶湖博物館）

「樹木年輪からみた歴史時代の近畿・中部地方の気候変動と社会応答」

中塚 武（総合地球環境学研究所）

第2回 2月21日（土） 参加者74名

「身近な自然と暮らしの歴史」

「地域環境史に向けて－総合研究『自然観』の挑戦－」

橋本道範（滋賀県立琵琶湖博物館）

「古絵図、古写真などからみえる植生景観の歴史」

小椋純一（京都精華大学）

第3回 3月21日（土） 参加者79名

「琵琶湖の魚類研究の進展と課題」

「魚類標本から見た琵琶湖の原風景」

細谷和海（近畿大学大学院農学研究科）

「琵琶湖の魚類研究の進展と課題」

藤岡康弘（滋賀県立琵琶湖博物館）

### (3) 研究セミナー・特別研究セミナー

毎月第3金曜日 13:15~15:15 に以下の研究セミナーを開催した。(場所：琵琶湖博物館会議室)

- 第1回 2014年4月18日(金) 参加者31名  
澤邊久美子 カヤネズミが棲みやすい景観と草地環境とは？  
林 竜馬 滋賀県の考古遺跡における古生態学データベースの構築と周辺植生環境の復元  
藤岡康弘 ホンモロコにおける温度依存的性決定について
- 第2回 2014年5月16日(金) 参加者33名  
マーク ジョセフ グライガー 滋賀県におけるワラジムシ・ダンゴムシ相(陸生等脚類)について  
ロビン ジェームス スミス オーストラリアのクイーンズランド州リバーズレー世界遺産で発見された中新世時代のカイミジンコの巨大精子の化石について  
高橋啓一・馬場理香・米山明男・里口保文・北田 稔 古琵琶湖層群から発見された新種のレッサーパンダ類化石
- 第3回 2014年6月20日(金) 参加者32名  
金尾滋史 魚のゆりかご水田にはどのような効果があったのか？  
松田征也 滋賀県内に生息する5種類の小型貝類について  
戸田 孝 「癒し」機能の位置づけを手がかりとする博物館の副次的機能論に向けた試み
- 第4回 2014年7月18日(金) 参加者33名  
大久保実香 「消滅」しなかった集落  
芦谷美奈子 水生植物の雌雄と花粉媒介～文献レビュー～  
篠原 徹 アフリカの伝統的集約農業－エチオピア・コンソの事例－
- 第5回 2014年8月15日(金) 参加者26名  
川瀬成吾 ゼゼラ類の保全分類学的研究－琵琶湖・淀川流域の魚類多様性解析と保全を目指して－  
大塚泰介・木原靖郎・有田重彦・片山慈敏・打越崇子 中間湿原の水質と珪藻
- 第6回 2014年9月19日(金) 参加者32名  
亀田佳代子・藤田素子 鳥類による養分輸送と物質循環－東アジアの事例から生態系サービスを考える－  
用田政晴 最近語られる歴史のウソとホント－歴史教科書の間違いと評価点－  
里口保文 古琵琶湖層群の火山灰はどこからきたか？
- 第7回 2014年10月17日(金) 参加者32名  
桑原雅之 琵琶湖流入河川に生息するアマゴの遺伝的状況  
楊 平 展示で見る湖と人々の暮らし  
山本充孝・三輪 理 琵琶湖におけるコイヘルペスウイルスの現状
- 第8回 2014年11月21日(金) 参加者36名  
山川千代美 化石林から見た鮮新世と更新世の境界イベント  
芳賀裕樹 水草大繁茂！いったいなにが増えたのか？  
浦山重雄 環境行政施策の成り立ちと概要について
- 第9回 2014年12月19日(金) 参加者32名  
八尋克郎・亀田佳代子・那須義次・村濱史郎 鳥類の巢内共生系－カワウの巢の昆虫類を例にして－  
辻川智代 民具名称から近江の地域文化圏を探る  
渡部圭一 村の祭りの長期変動をどうとらえるか：宮座儀礼における食と消費を例に
- 第10回 2015年1月16日(金) 参加者24名  
榊永一宏 アシナガバエ科 *Abatetia* 属の分類と系統関係  
天野一葉 外来鳥類ソウシチョウの現状と地域集団の遺伝的關係  
間所忠昌 教員の専門性を支える博物館の役割について

第11回 2015年2月20日(金) 参加者30名

蜂屋正雄 博物館の学校利用の高度化を目指す試み

橋本道範 地域環境史の課題—総合研究『前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究』に向けて—

水谷 智 琵琶湖周辺の水収支における逆水かんがいについて

第12回 2015年3月20日(金) 参加者34名

楠岡 泰 琵琶湖周辺の共生藻をもつ繊毛虫とその共生藻

黒岩啓子 展示企画開発段階における展示評価

植田文雄 先史時代の漁撈民—あまとやな—

なお、2014年度の特別研究セミナーは開催しなかった。

## 研究交流

### (1) 国際協定

琵琶湖博物館では、地域に根ざしながら広く世界を視野に入れ、研究・交流の国際的ネットワークを確立し、海外関係機関との連携を強化して研究活動および展示の国際化を推進するため、これまでの海外博物館との関係を維持するとともに、必要に応じて新たな関係を構築している。締結内容としては、次の5項目である。そのほか、研究および資料、展示についての協力内容が特定される場合は、別途協議して契約を結ぶものとされる。

- ①研究者等博物館職員の交流
- ②共同研究プロジェクト、シンポジウム、展示等に関する交流
- ③専門技術や方法論に関する情報交換
- ④出版物、資料、標本等の交換（生きた生物を含む）
- ⑤両館で合意を得た博物館活動に関する他の事柄の交流

2014年度は2件の国際協定を締結した。1つは、ロシア科学アカデミー シベリア支部バイカル博物館との相互協力の合意書である。これまでにバイカル博物館とは、1997年6月に世界古代湖会議および企画展「古代湖の世界」を琵琶湖博物館で開催するため、「琵琶湖博物館とバイカル博物館との学术交流に関する合意書」（1996年10月24日）を締結していた。有効期限である5年後の2001年10月に、現地での一定の調査・研究が終了し、その後、継続・発展という計画がなかったため、この学术交流に関する合意書は更新しない結果となっていた。今回、現在進めている展示のリニューアルにおいて、世界最大の古代湖であるバイカル湖を展示紹介する計画となっている。当館はバイカル湖を研究しているバイカル博物館と相互の友好を深め、研究や展示等博物館活動に関する交流を促進する意図のもと、2014年9月25日にバイカル博物館にて、バイカル博物館長（ウラジミール・フィアルコフ氏）と琵琶湖博物館長（篠原 徹氏）が協力協定を再度締結した。

もう1つは、研究者数300名におよぶ国際的な淡水生物の研究センターである中国科学院水生生物研究所との相互協力の同意書を交わした。

当館は当研究所との交流を通じて、東アジアに関する研究活動（総合研究）、展示活動、資料整備活動を行うため、2002年9月22日（ハートピア京都：第3回世界水フォーラム・プレ・シンポジウム）に締結し、2009年9月3日（琵琶湖博物館）の更新を行ってきた。最後の更新から2014年9月3日に満了日をむかえ、今回継続合意を得られたことより、2015年3月24日に中国科学院水生生物研究所（湖北省武漢市）にて、中国科学院水生生物研究所長（陳 宜諱氏）と琵琶湖博物館長（篠原 徹氏）が調印を行った。

なお、バイカル博物館および中国科学院水生生物研究所との相互協力の同意書の有効期日は、署名日から5年間、ただし、撤回しない限り自動更新するとしている。



バイカル博物館との協力協定の調印



中国科学院水生生物研究所との相互協力の調印

## (2) 海外活動

### 1) 研究に関する国際用務

篠原 徹

- ・2014年9月21日～29日，ロシア連邦イルクーツク州リストビャンカ村・沿海地方ウラジオストク市，大韓民国ソウル特別市・京畿道高陽市，科研費助成事業「日本の博物館総合調査研究」にかかる海外先進事例調査および琵琶湖博物館リニューアルにかかるバイカル湖状況調査

高橋啓一

- ・2014年7月15日～18日，中華人民共和国北京市（中国科学院古脊椎動物古人類研究所），科研費助成事業「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」に係る魚類化石標本調査
- ・2014年9月21日～27日，ロシア連邦イルクーツク州イルクーツク市，科研費助成事業「日本の博物館総合調査研究」に係る海外博物館調査およびバイカル博物館との協力協定の調印

用田政晴

- ・2014年12月9日～12月12日，中華人民共和国江蘇省南京市（河海大学ほか），科研費助成事業「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究のモデル構築」研究調査にかかる打合せ会議、研究成果発表講演会・討論会および太湖・長江周辺水環境資料調査

楊 平

- ・2014年9月9日～9月20日，中華人民共和国浙江省・江蘇省の長江下流域（上海市・南京市・無錫市・蘇州市ほか），科研費助成事業「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究のモデル事業」に向けて実施する民俗資料を中心とした博物館・現地調査への予備的調査
- ・2014年12月9日～12月12日，中華人民共和国江蘇省南京市（河海大学ほか），科研費助成事業「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究のモデル構築」研究調査にかかる打合せ会議、研究成果発表講演会・討論会および太湖・長江周辺水環境資料調査
- ・2015年1月6日～1月15日，中華人民共和国遼寧省瀋陽市・江蘇省南京市（河海大学ほか），科研費助成事業「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」研究調査にかかる打合せ会議、研究成果発表講演会・討論会および太湖・長江周辺水環境資料調査

林 竜馬

- ・2014年8月25日～9月2日，イタリア共和国ベニス・パドバ，第9回欧州古植物学花粉学会議発表参加
- ・2015年2月16日～2月21日，フランス共和国・パリ，PAGES(Past Global Chaneges)のワーキンググループLandCover6K第1回ワークショップへの参加およびフランス国立自然史博物館視察

大久保実香

- ・2014年8月8日～9月8日，エチオピア連邦民主共和国（アディスアベバ・アワサ・アルバミンチ・ジン

カ), 科研費助成事業「アフリカ在来種の生成と共有の場における実践的地域研究: 新たなコミュニティ像の探求」に関するフィールド調査

榎永一宏

・2014年8月11日, ドイツ連邦共和国ポツダム市, Biogeography of the tribe Aphrosylini (Diptera: Dolichopodidae), 8th International Congress of Dipterology への参加・口頭発表

中井克樹

・2014年8月17日~8月23日, カナダケベック市・トロワリヴィエール市, 第144回アメリカ水産学会ケベック大会への参加・成果発表および情報収集

戸田 孝

・2014年9月21日~29日, ロシア連邦イルクーツク州リストヴィヤンカ村・沿海地方ウラジオストク市, 大韓民国ソウル特別市・京畿道高陽市, 科研費助成事業「日本の博物館総合調査研究」にかかる海外先進事例調査および琵琶湖博物館リニューアルにかかるバイカル湖状況調査

楠岡 泰

・2014年8月24日~8月28日, タイ王国バンコク (タイ国立博物館), 博物館学国際研究会出席

## 2) 事業に関する国際用務

篠原 徹

・2015年3月23日~3月25日, 中華人民共和国湖北省武漢市 (中国科学院水生生物研究所), 中国科学院水生生物研究所との協力協定の調印

高橋啓一

・2015年3月23日~3月25日, 中華人民共和国湖北省武漢市 (中国科学院水生生物研究所および湖北省博物館), 科研費に係る海外博物館調査および中国科学院水生生物研究所との協力協定の調印

楊 平

・2014年6月3日~6月9日, 中国, 企画展関連の資料収集

・2015年3月23日~3月25日, 中華人民共和国湖北省武漢市 (中国科学院水生生物研究所), 中国科学院水生生物研究所との協力協定の調印

藤岡康弘

・2014年5月6日~5月12日, ロシア連邦イルクーツク・リストヴィヤンカ (バイカル博物館), 水族展示リニューアル用務

マーク ジョセフ グライガー

・2014年5月6日~5月12日, ロシア連邦イルクーツク・リストヴィヤンカ (バイカル博物館), 水族展示リニューアル用務

桑原雅之

・2014年5月6日~5月12日, ロシア連邦イルクーツク・リストヴィヤンカ (バイカル博物館), 水族展示リニューアル用務

・2014年10月3日~10月11日, ロシア連邦イルクーツク・リストヴィヤンカ (バイカル博物館), 水族展示リニューアル用務

金尾滋史

・2015年3月23日~3月25日, 中華人民共和国湖北省武漢市 (中国科学院水生生物研究所), 中国科学院水生生物研究所との協力協定の調印

楠岡 泰

・2014年10月3日~10月11日, ロシア連邦イルクーツク・リストヴィヤンカ (バイカル博物館), 水族展示リニューアル用務

### (3) 試験研究機関の連絡活動

琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議は、県立の9つの試験研究機関が、相互の試験研究の円滑な推進や情報の発信を図ることを目的として設置運営している。

2014年度は、2015年1月12日に琵琶湖博物館ホールにおいて「平成26年度 滋賀県試験研究機関研究発表会 淡海の未来を拓く～試験研究機関の挑戦～」を開催した。同日には試験研究機関のワークショップを開催した。また、2014年12月20日～2015年1月12日まで琵琶湖博物館企画展示室において試験研究機関の紹介展示を行った(詳細は **3 展示活動 (3) ギャラリー展示・トピック展示等** P. 40参照)。

### 3 新たな参加と発見ができる博物館

#### 展示活動

##### (1) 常設展示の主な更新

##### 1) A 展示室

- ・地域の人々による展示コーナー（コレクションギャラリー内）

『琵琶湖の生い立ち』展示室にあり、「琵琶湖の生い立ち」や「地盤の成り立ち」に関係する事柄で、琵琶湖地域のおもしろさや、展示する人の想いや興味が伝わるような展示を目指している。展示関係者による展示室での解説や交流を不定期に開催している。

##### 1. 「足跡化石はおもしろい？ー石になった足跡を調べるー」

期間：2014年4月4日(金)～2015年2月15日(日)

展示した人：滋賀県足跡化石研究会（代表：岡村喜明）

##### 2. 「私と化石、10年の足跡」

期間：2015年2月17日(火)～（未定）

展示した人：橋本重四郎さん・橋本悦子さん

- ・最近寄贈された標本

コレクションギャラリーのコーナーの一角にある展示で、寄贈いただいた標本を紹介するコーナーとして行っている。

2014年5月28日(水)：県内産鉱物標本3点

2014年8月31日(日)：県内産鉱石標本1点

##### 2) B 展示室

- ・収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」

博物館の収蔵庫で大切に保管している琵琶湖地域関連の古い文書や絵図などを、B展示室奥の壁面展示ケースで順番に紹介している。2014年度の展示は次の通り。

期間	展示資料名
4月15日(火)～5月18日(日)	延喜式 卷十、小謡獨稽古 全、 竹生嶋御開帳参拝案内、和漢三才図会 卷七十一
5月20日(火)～6月22日(日)	近江名所図会 卷四、広益国産考 卷四 和漢三才図会 卷三十六、近江商人事績写真帖 下巻
6月24日(火)～8月3日(日)	伊勢参宮名所図会 卷二、日本山海名物図会 卷五 大津繪のはなし、東海道名所図会 卷二
8月5日(火)～9月7日(日)	伊勢参宮名所図会 附録卷一、 近江八景之図
<テーマ> 企画展示関連展示Ⅰ 日本の魚米之郷 琵琶湖	近江米、滋賀県水産関係史料
9月9日(火)～10月5日(日)	干鯛問屋鑑札、農具便利論 卷下 乍恐以書附奉願上候下書
<テーマ> 企画展示関連展示Ⅱ 日本の魚米之郷 琵琶湖	琵琶湖定置網えり漁業細目及び漁業図
10月7日(火)～11月16日(日)	
<テーマ> トピック展示 献上された奥嶋のムベ	(詳細は展示活動(3)ギャラリー展示・トピック展示参照)

期間	展示資料名
11月18日(火)～12月28日(日)	和名類聚抄 卷十一、和漢三才図会 卷三十三
	源平盛衰記 卷三十七、近江国滋賀郡中浜村絵図
2015年1月2日(金)～2月8日(日)	農業全書 卷十、和漢三才図会 卷三十七
	大和本草 卷八、雲根志 前編二之下
2月10日(火)～3月15日(日)	小学校用 近江史談、新版 蒲生軍記 卷一
	淡海志 卷三、蒲生一郡記 第一号
3月17日(火)～4月19日(日)	近江名所図会 卷三、天台宗総本山比叡山延暦寺略絵図
	源平盛衰記 卷九、比叡山登山の栞

### 3) C 展示室

- ・更新なし

### 4) 水族展示室

- ・よみがえれ！日本の淡水魚 展示更新  
「オヤニラミ」と「アオバラヨシノボリとタナゴモドキ」を季節的に交互展示

### 5) ディスカバリールーム

季節に合わせた展示物の入れ替えを行い、下記一覧の通り季節展示を行った。今年度は常設展示コーナーの老朽化が目立つため、展示物の更新、展示内容の変更を行った。また博物館実習生の成果物であるディスカバリーボックスの期間展示を行った。

#### 常設展示

- ・「いきものつながり」コーナー：歯車の新規製作およびサイズ変更
- ・「人形げきじょう」コーナー：「にんげん」の人形6体を新規製作
- ・「土の中のいきもの」コーナー：「モグラ」のレプリカを「ヒミズ」に変更、「ムカデ」を新規製作
- ・博物館実習生期間展示「大学生のお兄さん・お姉さんが作ったディスカバリーボックス」

2015年2月24日(火)～3月22日(日)

#### 季節展示

展示場所	展示内容	展示期間
音のへや	アフリカの楽器	4月1日～7月19日
	南米の楽器	7月20日～11月30日
	日本の楽器	12月2日～2015年3月31日
おばあちゃんの台所	春version	4月1日～5月31日
	こどもの日	4月20日～5月5日
	夏version①	6月1日～7月20日
	七夕	6月24日～7月6日
	夏version②	7月21日～8月31日
	秋version	9月6日～11月30日
	お月見	9月6日～9月15日
	冬version	12月2日～2015年2月28日
	冬至	12月20日～21日
	お正月	2015年1月2日～1月14日
	節分	1月24日～2月3日

展示場所	展示内容	展示期間
おばあちゃんの台所	ひな祭り	2月19日～3月3日
	春version	3月1日～3月31日
ブックコーナー	春version	4月1日～7月26日
	夏version	7月27日～9月7日
	秋version	9月9日～11月6日
	冬version	11月7日～2015年2月28日
	春version	3月 1日～3月31日
石の下／水の中	春version	4月1日～5月31日
	初夏version	6月1日～7月16日
	夏version	7月17日～9月9日
石の下／水の中	初秋version	9月10日～10月8日
	秋version①	10月9日～11月11日
	秋version②	11月12日～11月30日
	冬version	12月2日～2015年3月31日
	春version	3月1日～3月31日
人形劇	春version	4月1日～7月26日
	夏version①	7月27日～8月31日
	夏version②	9月6日～10月8日
	秋version	10月9日～12月2日
	冬version	12月3日～2015年2月28日
	春version	3月3日～3月31日
ディスカバリーカウンター (生きものの展示)	ナマズ	4月1日～
	アカハライモリ	4月1日～
	コクワガタ	4月1日～11月7日
	カスミサンショウウオ	4月1日～5月7日
	チビクワガタ	6月25日～11月7日
	ヒラタクワガタ	6月27日～11月7日
	ノコギリクワガタ①	6月27日～8月9日
	カイコ	7月1日～8月31日
	コカブトムシ	7月8日～8月13日
	タマムシ	7月17日～7月19日
	ノコギリクワガタ②	8月10日～9月27日

## 6) 屋外展示

- ・「はしかけ」さんによる見どころマップおよび掲示板の設置

はしかけ事業の一環として、屋外展示の有効活用を目指した、はしかけミーティングを年6回開催して、その中で出た意見を基にした屋外展示の見どころマップを作成した。見どころマップは9月のびわ博フェスティバルで仮設置を行い、3月に見どころマップ看板の本設置と見どころ掲示板7カ所の設置を行った。

## 7) その他

- ・アール・ブリュット 展示替え

滋賀県の「ふらっと美の間事業」の一環として、2013年10月22日よりアール・ブリュット作品をA展示室とB展示室の間の空間で展示している。10月7日に旧作品を一旦撤収し、2015年1月20日より新作品を展示したが、そのうち一作品を3月27日に撤収した。

## (2) 企画展示・水族企画展示

### 1) 第22回企画展示 『魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—』

#### ① 主旨

東アジアにおける湖沼のつながりを探り、農・漁・水を通じて湖との暮らしのあり方を見つめなおしながら湖の環境保全へのヒントを探った。

具体的には、世界の稲作起源地ともいわれる中国・長江下・中流域の太湖・洞庭湖における水稲耕作とエリを軸にして、淡水漁労および船・井戸・水路などの水環境を対象にしながら、湖とともに生きる家船民を中心とする人々の生活・生業を眺める中で、それぞれの地域社会の固有性と普遍性の一部を琵琶湖との比較によって明らかにした。また、このことをきっかけにして、湖沼を含めた身のまわりの水環境での生活・生業のあり方を見つめなおし、同じアジアモンスーン地域にある湖沼とかかわる関係機関や地域住民同士の対話と交流を進め、国際的な研究調査・博物館活動の連携事業の確立に向けて寄与したところである。

そして、自然と人間が絡み合う水田などの水辺での環境を事例に、東アジア社会における湖沼環境の保全を考える際の有効で普遍的な生活・生業面からの方策・手だてを得ることを目指しながら、「湖と人間」をテーマにする琵琶湖博物館からそのヒントを発信した。

#### ② 概要

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館

期 間：2015年7月19日～11月24日 ※実開催（115日間）

場 所：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室

観 覧 料：小・中学生 100円（80円） 高・大学生 160円（120円） 一般 200円（160円）

(( ) 内は20名以上の 団体料金)

観覧者数：37,227人

展示担当：楊 平（滋賀県立琵琶湖博物館／主担当）

用田政晴（滋賀県立琵琶湖博物館／副担当）、藤岡康弘（滋賀県立琵琶湖博物館／副担当）

松田征也（滋賀県立琵琶湖博物館／総括）、浦山重雄（滋賀県立琵琶湖博物館／展示協力）

展示施工：株式会社フジヤ

後 援：中国人民共和国大阪領事館、NHK天津放送局、毎日新聞天津支局

展示スタッフ・協力者：橋本道範・渡邊潤子（滋賀県立琵琶湖博物館／歴史資料展示協力）

出口武洋（滋賀県立琵琶湖博物館／美術・デザイン）

辻川智代（滋賀県立琵琶湖博物館／図録編集・レイアウト）

瀬川也寸子（滋賀県立琵琶湖博物館／絵・キャラクター）

図録執筆：（執筆順）篠原 徹、楊 平、用田政晴、藤岡康弘、朱 偉、植田文雄、細谷 葵、楨林啓介

#### ③ 展示内容

##### 第1部「湖と暮らし—長江文化と日本列島—」

- ・湖と生きる人々
- ・長江と太湖・洞庭湖
- ・長江文化と日本列島

##### 第2部 「米と湖—農にみる湖との暮らし—」

- ・水田開発と湖辺の環境変化
- ・稲作と水田養魚
- ・家船生活と湖辺の田畑の利用

##### 第3部「魚と湖—漁にみる湖との暮らし—」

- ・琵琶湖漁業の変遷
- ・家船漁師の暮らしと漁業
- ・漁をめぐる食文化

#### 第4部 「水環境と知恵—水利用にみる湖との暮らし—」

- ・水質と湖の環境変化
- ・水郷の暮らしと水文化
- ・水辺の多様な利用と工夫

#### 第5部 湖と暮らしの未来へ

- ・湖南省友好提携30周年と湖南省博物館との協力関係

### ④ 関係事業

#### 企画展関連の行事（主な行事）

##### i) オープニングセレモニー

地域の水環境の保全と活用を図る住民団体の代表、研究協力を得た大学研究者、それに中国駐大阪総領事館領事・滋賀県国際室関係者らをお招きして7月19日に開催した。

##### ii) 関連イベント

『魚米之郷』を楽しむ」と題した関連行事を11月1日に実施した。これは企画展示解説ツアーに加えて、中国楽器によるコンサートと魚米之郷オリジナル料理を楽しみながらの中国人研究者らによる関連講演会で、琵琶湖博物館として初めての試みであった。

企画展示関連イベントとしては、これまでにシンポジウム等を実施していたが、2013年度末（2014年3月）にすでに実施したこともあり、展示会開催年には行わないこととなった。そのため、4ヶ月の開催期間中に話題提供も兼ねて、新たな関連イベントを計画した。企画展示「魚米之郷」は、農・漁・水を通じて、東アジアにおける湖沼のつながりを探り、湖の暮らしのあり方を見つめ直すことを目的とした。企画展示で対象としている中国の洞庭湖・太湖と日本の琵琶湖について、食や音楽などの文化にまつわるイベントを行なうことで、タイトル『魚米之郷』のとおり、魚米を楽しむ機会を提供すること、また、人の暮らしにより具体的に体感できる内容として、コンサートと食事会を設定した。

名称：企画展示関連イベント 「魚米之郷」を楽しむ

開催日：2014年11月1日（土）

会場：琵琶湖博物館 アトリウム、レストラン「にほのうみ」

協力：しがぎん経済文化センター

実施内容：第1部コンサートと第2部のプレミアムレストランの2部構成

第1部は、約80名の当日参加（参加無料）で、コンサートの40分間、席を立たれる参加者はほとんどなく、設置した座席はほぼ満席状態で、大変好評だった。演奏後の楽器体験には参加者が数名ではあったが、熱心に演奏者の方と会話をされていて、記念写真も撮影されていた。

第2部は、参加有料と事前申込制の募集とし、30名の参加開催であった。そのうち、内部関係者が10名程度3分の1であったことを考慮すると、決して好評だったとはいえない結果となった。内容的には、展示解説、生演奏、専門家のトークと盛りだくさんのメニューで、司会も特別にお願いしたこともあり、かなり充実したものだった。参加者のご意見やご感想は伺っていないが、クレームや批判的なご意見はその後寄せられていない。

今回、企画立案から交渉、広報（チラシ制作と配布）活動、参加者の募集、実施にいたるまで、1-2名で担当するには作業量にボリュームがあった。イベントを実施するにあたり、演奏のリハーサルを1ヶ月前に、

食材の交渉、確保やメニューの相談を数ヶ月かけて準備を行うなど、半日ほどのイベントに時間や労力をかなり掛けたことになる。また、アトリウムのステージ設営や屋外通路の照明設置、レストランのセッティングは人数をかけての対応となった。大掛かりなイベント実施は、委託でできるようにするか、内部の体制を考える必要がある。

また、第2部の参加が少なかったことは、イベント開催の広報がうまくいかなかった要因も考えられる。しがぎん経済文化センターの情報誌に掲載できなかったことが大きく、タイミングを外さないためにも、対応できるチーム体制をつくるべきだと思われる。30名と比較的少人数の募集だったため、応募が多いと断ることになり印象が悪くなるという危惧もあったことから、中途半端な宣伝となってしまった。宣伝はできる限り行う姿勢が大事と思われる。また、シェフがフランス料理の職人であることに対し、中華と和風のオリジナル料理であったことも当初の条件設定として難しかったと言える。

### iii) 展示イベント

会期中、担当学芸員や館長によるフロアトークを20回開催し、企画展示マスコットキャラクター「愛湖（あいこ）ちゃん」とのじゃんけん大会を3日間にわたって行った。また、展示学習シートを2種類作成して正解者にはプレゼントを用意した催しや、企画展示入場者3万人目を記念する記念行事も実施した。

2014年 9月27日	アジアの水辺の絶景を探検，企画展示説明・案内等，企画展示室
2014年10月 5日	愛子ちゃんとじゃんけんイベント（3回実施），企画展示室
2014年10月11日	愛子ちゃんとじゃんけんイベント，琵琶湖博物館・企画展示室
2014年10月11日	「クイズで楽しむ「魚米之郷」の魅力」，企画展示室
2014年10月12日	「クイズで楽しむ「魚米之郷」の魅力」，企画展示室
2014年10月18日	企画展示関連の学習（2回実施），琵琶湖博物館・企画展示室
2014年10月18日	「クイズで楽しむ「魚米之郷」の魅力」，企画展示室
2014年10月19日	「「魚米之郷」で楽しく学ぶ！楽しく探検！」，企画展示室
2014年10月23日	企画展示の解説，中国湖南省研修団，企画展示室
2014年10月25日	「クイズで楽しむ「魚米之郷」の魅力」，企画展示室
2014年10月26日	「クイズで楽しむ「魚米之郷」の魅力」，企画展示室
2014年10月26日	企画展示の解説，中国博物館視察団，企画展示室
2014年10月28日	企画展示入館3万人イベント，企画展示室
2014年11月 3日	企画展示解説・博物館展示解説，高島市針江区，琵琶湖博物館・企画展示室
2014年11月16日	企画展示解説，愛媛大学研究視察，企画展示室
2014年11月16日	企画展示解説，早稲田大学・大阪産業大学研究視察，企画展示室
2014年11月20日	クイズラリーⅠ，企画展示「魚米之郷」学習ワーク，企画展示室
2014年11月21日	クイズラリーⅡ，企画展示「魚米之郷」学習ワーク，企画展示室
2014年11月22日	クイズラリー1，企画展示「魚米之郷」学習ワーク，企画展示室
2014年11月22日	クイズラリー2，企画展示「魚米之郷」学習ワーク，企画展示室

### ⑤ 「湖と人々の暮らし」に関する理解を進める工夫

- 琵琶湖との比較対象として、中国の太湖・洞庭湖を取上げ、湖辺の水田、水環境、水上住民で漁民でもある家船などを事例に、湖沼環境の固有性と普遍性を展示資料とパネルで追求した
- 家船は、太湖の無錫市郊外で今も使用されている船の実物大モデルを用意して、そこでの生活をダイレクトに紹介・再現した
- 太湖・洞庭湖の伝統的な木造船と琵琶湖の丸子船などの模型を対比的に紹介展示した
- 湖沼環境における水利用の在り方を生活・生業面から追究し、今後の水質環境の保全につながる展示を試

みた

- ・低学年などを対象に学習シートの作成やわかりやすく展示解説などを行った（別添資料）
- ・県内外の大学生を中心に「湖と人」に関する学習や講義などを行った（別添資料）
- ・地元住民を主な対象として、研究成果の一般公開や湖と暮らしに関する交流会などを積極的に実施した

#### ⑥ 博物館・地域などとの連携

- ・展示資料の選択・実現に向けては、中国・湖南省博物館や大学、研究所などの指導を得て関連資料の提示を受けた
- ・安土城考古博物館、中江藤樹記念館、伊吹山文化資料館、天津市歴史博物館からは、展示資料の借用を受けて、展示解説書等への掲載の許可を得たところでもある
- ・針江生水の郷委員会など地域の水環境保全を図る団体の協力と指導を得たり、滋賀県庁国際室、中国駐大阪総領事館、NHK 天津放送局、毎日新聞天津支局の後援等もいただいた
- ・中国河海大学環境学院、中国科学院地理湖沼研究所、追手門学院大学、お茶の水女子大学の指導と関連行事への全面的な参加協力もいただいた

#### ⑦ 目標達成状況

<達成度>

企画展示入館者数は 37,000 人を超え、過去に実施した東アジア展示をテーマにした企画展示を大きく上回り、難しいタイトル名や縁遠いフィールドを取り上げたにもかかわらず多くの人々にご観覧いただいた。また、来館者には大変好評であったことも感想アンケートによって裏付けられ、後ろ向きの意見などは全く聞くことがなかった。

さらに、遠足などによる小学生団体の入場機会が多く、明日を担う若い世代にもご観覧いただき、湖や水環境への興味を持っていただいたことは特筆すべきことであった。

湖沼間の対話、国際的な研究調査・博物館活動の連携については、湖南省博物館・河海大学など関係機関の全面的な協力が得られたところである。さらに今後の湖沼関係の保全を考える手だての考察については、特に琵琶湖と太湖の人々の暮らしと対照的に展示することによって、多くの来館者の関心も引いたところであった。こうしたことから、おおむね当初の目標は達成されたと思慮される。

#### ⑧ 企画展関連の研究発表（企画展担当者による展示内容関連の主なもの）

<新聞記事・一般向け>

楊 平（2014）水辺の生活を通して共通の「リズム」探る。湖国と文化，2014年7月，滋賀県文化振興事業団：79-81.

楊 平（2014）湖岸より 水が水郷の「リズム」育てる。中日新聞，8月9日。

楊 平（2014）湖岸より 水辺ならではの知恵。中日新聞，8月23日。

楊 平（2014）水を介した人々の暮らしと湖。琵琶博だより，17：1-2.

楊 平・細谷 葵（2014）湖岸より 水辺の植物資源利用と工夫。中日新聞，8月30日。

藤岡康弘（2014）湖岸より コイと四大家魚。中日新聞，6月14日。

藤岡康弘（2014）湖岸より 鵜と漁業。中日新聞，6月28日。

藤岡康弘（2014）湖岸より 湖魚の漁獲量について。中日新聞，9月27日。

用田政晴（2014）展示紹介 滋賀県立琵琶湖博物館企画展示『魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—』。民具研究，150：100-103.

用田政晴（2014）中国で生まれた景色を滋賀で楽しむ～彦根城・玄宮園～。琵琶博だより，17：3.

用田政晴（2014）資料裏話「洞庭秋月」と「石山秋月」の絵皿。琵琶博だより，17：4.

- 用田政晴 (2014) 湖岸より 友好の懸け橋～日中講演会～. *中日新聞*, 4月12日.
- 用田政晴 (2014) 湖岸より 中国・長江と太湖・洞庭湖～企画展『魚米之郷』を前に. *中日新聞*, 4月26日.
- 用田政晴 (2014) 湖岸より 企画展『魚米之郷』を前に. *中日新聞*, 5月10日.
- 用田政晴 (2014) 湖岸より エリのルーツを探る. *中日新聞*, 5月24日.
- 用田政晴 (2014) 湖岸より 中国の琵琶湖と日本の太湖・洞庭湖. *中日新聞*, 5月31日.
- 用田政晴 (2014) 湖岸より 湖南省との友好推進. *中日新聞*, 7月12日.
- 用田政晴 (2014) 湖岸より 洞庭湖の史跡を訪ねる. *中日新聞*, 7月26日.
- 用田政晴 (2014) 湖岸より 湖上に住む漁民－太湖の家船－. *中日新聞*, 9月13日.
- 用田政晴 (2014) 湖岸より 琵琶湖に家船はあったのか. *中日新聞*, 10月11日.
- 用田政晴 (2014) 湖岸より 陽澄湖と上海ガニ. *中日新聞*, 10月25日.
- 用田政晴 (2014) 湖岸より 犁と唐箕 農具に見る中国との関係. *中日新聞*, 11月1日.

#### <学会発表・講演>

- 楊 平 (2014年10月17日) 企画展示からみた湖と人の暮らし. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館.
- 楊 平 (2014年12月6日) 「水田養魚」にみる稲作農業. 第3回生物多様性を育む農業国際会議, 宮城県大崎市.
- 楊 平 (2014年12月11日) 太湖と琵琶湖. 講演シンポジウム (研究討論), 南京河海大学, 中国南京市.

#### ⑨ 事業成果物

- |                          |          |
|--------------------------|----------|
| 1. ポスター A1 版             | 1,000 枚  |
| 2. チラシ A4 版              | 50,000 枚 |
| 3. 展示解説書 A4 版 (112 頁)    | 2,000 部  |
| 4. 展示学習ワークシート A4 版 (2 種) | 1,000 枚  |
| 5. 企画展イベントチラシ A4 版       | 5,000 枚  |

#### ⑩ ラジオ・テレビなどの取材対応 (企画展示内容の紹介)

- 2014年6月22日, 企画展示関連のインタビュー・取材対応, サンライズ
- 2014年7月12日, 企画展示関連の写真撮影・取材対応, サンライズ
- 2014年8月2日, 京都新聞, 取材対応, 琵琶湖博物館・企画展示室
- 2014年8月11日, BBC テレビ, 写真撮影・取材対応, 琵琶湖博物館・企画展示室
- 2014年8月12日, FM 滋賀, インタビュー・取材対応, 琵琶湖博物館・企画展示室
- 2014年8月18日, NHK, インタビュー対応, 琵琶湖博物館・企画展示室
- 2014年8月22日, 滋賀日報, インタビュー対応, 琵琶湖博物館・企画展示室
- 2014年8月29日, BBC テレビ生出演, BBC テレビ局, 大津市
- 2014年9月6日, 毎日新聞, インタビュー対応, 琵琶湖博物館・企画展示室
- 2014年10月17日, 企画展示解説・インタビュー対応, FM 奈良, 琵琶湖博物館
- 2014年11月12日, 企画展示解説・インタビュー対応, 香港雑誌社, 琵琶湖博物館

#### ⑪ 企画展示解説書

「魚米之郷－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし－」

執筆者：楊 平・藤岡康弘・用田政晴・朱 偉・細谷 葵・植田文雄・榎林啓介  
サイズ：A4 版 112 ページ

価 格：300 円

印 刷：株式会社デジ・プリント滋賀

発 行：2014 年 7 月



『魚米之郷』企画展示室の入り口



太湖の連家船の展示



琵琶湖の丸子船の展示



滋賀と江南の水環境の比較展

## 2) 第 27 回水族企画展示「びわ湖のふるさと『ヨシ原』－ヨシ原を利用するいきものたち－」

### ① 主旨

琵琶湖の岸边や内湖には、広大なヨシ原が発達していた。このヨシ原は、琵琶湖やその周辺にすむ生き物にとって、産卵や子育てなど繁殖の場として重要な役割を果たしてきた。しかし、残念ながら多くの人間活動によって琵琶湖や内湖のヨシ原は減少し、さらに残されたヨシ原には外来生物も増加してきた。一方で、近年では人の手によって、生き物にとって大切なヨシ原を復活させようとする活動も盛んに行われるようになってきた。今回の水族企画展示では、ヨシ原で見られる生き物の生活を通して、改めてヨシ原の価値を見直す機会としてヨシ原を利用する様々な生物とその現状について紹介した。

### ② 概要

開催期間：2013 年 7 月 19 日(土)～8 月 31 日(日)

開催場所：滋賀県立琵琶湖博物館 水族企画展示室

入場者数：71,703 人(電子カウンターによる)

担当者：主担当 桑原雅之

副担当 金尾滋史・山本充孝

主催：滋賀県立琵琶湖博物館

### ③ 展示内容

琵琶湖や内湖のヨシ原に生息する魚類、エビ類を中心とした生体展示を行った。さらに当館では初めての展示となるカヤネズミの生体展示を行った。このほか、ヨシ原を利用する鳥類の資料展示を行った。

展示生物

(生体展示)：ニゴロブナ、ホンモロコ、カネヒラ、シロヒレタビラ、ヤリタナゴ、モツゴ、スジエビ、テナガエビ、カヤネズミ、オオクチバス、ブルーギル、アメリカザリガニ、ウシガエル、ヨシ、

## オオバナミズキンバイ

(資料展示) : カイツブリ、チュウヒ、オオヨシキリ



### ④ 協力機関・個人 (敬称略)

東京都恩賜上野動物園、滋賀県水産試験場、公益財団法人滋賀県水産振興協会、  
公益財団法人淡海環境保全財団

### (3) ギャラリー展示・トピック展示等

#### 1) ギャラリー展示

#### ① 平成 26 年度滋賀県試験研究機関研究発表会

「淡海の未来を拓く ～試験研究機関の挑戦～」

期 間：2014年12月20日(土)～2015年1月12日(月・祝)

館内担当：芳賀裕樹

場 所：琵琶湖博物館 企画展示室

観 覧 料：無料 \*常設展示は別途観覧券が必要です

主 催：琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター、滋賀県立琵琶湖博物館、滋賀県衛生科学センター、  
滋賀県工業技術総合センター、滋賀県東北部工業技術センター、滋賀県農業技術振興センター、  
滋賀県畜産技術振興センター、滋賀県水産試験場

内 容：滋賀県の試験研究機関が一堂に会し、環境に関するそれぞれの研究内容を、わかりやすく伝えた。

1月12日(月・祝)の午前中は各期間によるワークショップを開催し、午後には研究発表会「淡海の未来を拓く～試験研究機関の挑戦～」を実施した。

**\*ワークショップ** 2015年1月12日(月・祝) 10:00～12:00

・メニュー

琵琶湖環境科学研究センター 「プランクトンの観察」

琵琶湖博物館 「古文書から考える環境史 ～エリの裁許状を読む～」

衛生科学センター 「正しくきれいに手を洗おう！・学校欠席者情報収集システム演示」

工業技術総合センター 「新開発品の紹介」

東北部工業技術センター 「新開発品の紹介・サーモグラフの実演」

農業技術振興センター 「ブランド米『みずかがみ』の試食とアンケート」

水産試験場 「試験場の歴史紹介」

畜産技術振興センター 「ふれあい動物園・羊毛クラフト教室」

**\*研究発表会** 2015年1月12日(月・祝) 13:30～15:35

・プログラム

- 13:30 開会あいさつ 琵琶湖博物館長 篠原 徹
- 13:35 琵琶湖環境研究推進機構について 環境政策課副主幹 奥田 一臣  
琵琶湖の生き物回復への道 琵琶湖博物館上席総括研究員 藤岡 康弘  
アユの好む土砂の特徴から見る河川環境評価 琵琶湖環境科学研究センター研究員 水野 敏明
- 14:35 休憩
- 14:45 西の湖を活用したホンモロコの増殖研究 水産試験場主査 亀甲 武志  
底質と貝類を指標とした南湖の湖底環境評価 琵琶湖環境科学研究センター主任研究員 井上 栄壮
- 15:35 終了



ワークショップの様子



ふれあい動物園

**2) トピック展示**

**① アトリウム**

- ・「よしGoodプロジェクト」よしの絵画募集(エコ書き初めコンクール)応募作品の展示  
期間:2015年3月17日(火)～3月29日(日)
- ・第39回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの図画作品の展示  
期間:2015年3月31日(火)～4月9日(木)

**② B展示室**

- ・トピック展示 『献上された奥嶋のムベ』

期間:2014年10月7日(火)～11月16日(日)

内容:ムベは、アケビ科の常緑のつるになる木で、関東地方以西の本州、四国、九州、沖縄、朝鮮半島南部、台湾の暖かいところの山や林に分布している。卵に似ただ円形の5センチから8センチの光沢のある暗い紫色の実が11月頃に熟すが、奥嶋(近江八幡市)のムベは、かつて毎年旧暦11月1日に天皇に献上されていた。今回のトピック展示では、江戸時代に長澤蘆洲が描いた献上されるムベの図を中心に、琵琶湖博物館が所蔵するムベに関する資料を紹介した。

展示資料:奥嶋のムベ標本 現代/本館蔵(村瀬忠義氏収集)

奥嶋のムベ(レプリカ) 現代/本館蔵

『延喜式』卷第三十三 大膳下 江戸時代中期・享保8年(1723年)刊/本館蔵

『淡海志』二 江戸時代・18～19世紀/本館蔵

『奠の記文』(『郁子図』添書) 江戸時代後期・寛政13年(1801年)/本館蔵

長澤蘆洲作『郁子図』 江戸時代後期・18世紀～19世紀/本館蔵

### ③ 水族展示

水族展示室内のふれあい体験室前または水族企画展前に設置した小型展示水槽を使って、生まれたばかりの稚魚や季節ごとに話題性のある魚、常設展示では観察することの難しい水生生物を展示した。内容と期間は以下のとおりであった。

期間	内容	特記事項
3月11日(火)～4月13日(日)	ビワオオウズムシ	琵琶湖固有種
4月15日(火)～5月11日(日)	イサザ(ハゼ科)	琵琶湖固有種・絶滅危惧 I A類
5月13日(火)～6月1日(日)	絶滅危惧種「カゼトゲタナゴの稚魚」	絶滅危惧 I B類
4月15日(火)～6月1日(日)	旬の魚たち：ウグイ	
6月3日(火)～6月22日(日)	絶滅危惧種「ゼニタナゴの稚魚」	絶滅危惧 I A類
6月3日(火)～7月6日(日)	旬の魚たち：湖魚を美味しく食べてみよう「ニゴイ」	
6月24日(火)～7月13日(日)	絶滅危惧種「ホンモロコの稚魚」	琵琶湖固有種・絶滅危惧 I A類
7月15日(火)～8月3日(日)	天然記念物「アユモドキ」の幼魚	絶滅危惧 I A類
8月5日(火)～8月31日(日)	絶滅危惧IB類「ツチフキ」の稚魚	絶滅危惧 I B類
9月6日(土)～9月28日(日)	絶滅危惧種「ウンモツゴ」の稚魚	絶滅危惧 I A類
9月30日(火)～10月19日(日)	絶滅危惧種 スイゲンゼニタナゴの未成魚	絶滅危惧 I A類
10月7日(火)～11月9日(日)	黄色いイワトコナマズ	琵琶湖固有種・準絶滅危惧
10月21日(火)～11月9日(日)	産卵期を迎えたカネヒラ	産卵期の成魚を展示
11月4日(火)～11月27日(木)	旬の魚たち：アメノウオ(ビワマス)	琵琶湖固有種・準絶滅危惧
11月18日(火)～12月14日(日)	アカヒレタビラの未成魚	絶滅危惧 I B類
12月2日(火)～12月14日(日)	旬の魚たち：アメノウオ(ビワマス)	琵琶湖固有種・準絶滅危惧
12月20日(土)～ 2015年2月8日(日)	ビワマスの卵	琵琶湖固有種・準絶滅危惧
12月20日(土)～ 2015年2月15日(日)	旬のさかなたち：ヒウオ	
2月10日(火)～3月1日(日)	アナンデルヨコエビ	琵琶湖固有種
2月17日(火)～3月22日(日)	旬のさかなたち：ヒワラ(寒鮒)	
3月3日(火)～3月22日(日)	ビワオオウズムシ	琵琶湖固有種
3月30日(月)～5月10日(日)	イサザ(ハゼ科)	琵琶湖固有種・絶滅危惧 I A類

#### ・水族トピック展示「鯉についての四方山話」

人との関わりの深い淡水魚である「鯉」をテーマに、歴史系博物館と自然史系の展示を得意とする当館が連携した展示を開催した。安土城考古博物館では「鯉に恋して」を展示タイトルとして、県内に所在する文化財の展示を行った。当館では実際に生きたコイを観察しながら、「鯉」に関する歴史的逸話や湖国のお祭りをはじめ、ユニークな生体などをパネルで紹介した。開催期間中の企画展示室入室者数は27,523人であった。

なお、展示に用いたコイは、コイヘルペスの感染を防ぐ必要から、三重県にある独立行政法人 水産総合研究センター 増養殖研究所から、ウィルスに感染していない個体を譲り受けたが、このコイはコイヘルペスの研究のために、当館から同研究所へ分譲されたコイの子孫であったことから、その由来に興味を持ったマスコミから多くの取材があった。

#### (4) 集う・使う・創る 新空間

2014年度は13件の利用があった。

期間	タイトル	主催者
2014年3月25日(火) ～4月6日(日)	第38回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール入賞図画作品展	JA 滋賀中央会
4月8日(火)～ 4月30日(水)	はったんぼぼみみず～いきもの調査へのお誘い～	ハッタミミズ・ダービー実行委員会(共催:タンポポ調査・西日本2015実行委員会)
5月1日(木)～ 5月31日(土)	全校児童で描く「渋川生き物絵図」～生き物とのかかわりを通して、ふるさとの環境について考えよう～	草津市立渋川小学校
6月3日(火)～ 7月1日(火)	近江水の宝64選 ー琵琶湖と水にまつわる歴史遺産ーパネル展	滋賀県教育委員会事務局 文化財保護課
7月3日(木)～ 8月6日(水)	西の湖熱視線!!展	西の湖ヨシ灯り展実行委員会・西の湖ちよっと気になる研究所(あづちツバメ探偵団)・株式会社コクヨ工業滋賀(ヨシでびわ湖を守るネットワーク)・商工会西の湖プロジェクト
8月8日(金)～ 8月27日(水)	ホテル・生きもの観察記録 ー地域の中で活躍する子どもたちー	ホテルの学校
9月9日(火)～ 10月5日(日)	大雨でどうなる?あなたのおうち ～しらべてみよう!水害リスク～	滋賀県流域政策局
10月7日(火)～ 11月3日(月)	写真展「世界の湖・日本の湖」	三田崇博
11月6日(木)～ 11月28日(金)	企業が取り組むヨシ原保全プロジェクト	株式会社コクヨ工業滋賀
12月2日(火)～ 12月28日(日)	冬の使者「コハクチョウと仲間たち」環境展	環境ボランティア 草津湖岸コハクチョウを愛する会
2015年1月2日(金) ～1月18日(日)	淡海こどもエコクラブ 活動ポスター展	淡海こどもエコクラブ事務局
1月24日(土) ～2月1日(日)	京都市の川にすむ生き物たち	同志社小学校
2月3日(火)～ 3月1日(日)	滋賀の石橋・日本の石橋	森野 秀三
3月3日(火)～ 3月30日(月)	ネイチャーイラストレーション教室作品展	ネイチャーイラストレーション教室

#### 展示交流

##### (1) フロアートーク

開館以来、展示室内での交流活動の1つとして、学芸職員による展示解説「フロアートーク」を行っている。学芸職員が日替わりで担当する「質問コーナー」の当日担当学芸職員がフロアートークを行う。学芸職員は、基本的には月1回の学芸会議が行われる第3金曜日を除く開館日に、1日1回、午前11時から展示を使ってレクチャーを実施する。フロアートークの場所や内容は当日担当の学芸職員が決定し、場合によっては実施時間が変更されることがあり、玄関入口にある催し物ボードにも、当日のフロアートークの案内を掲示している。

また、通常フロアートークとは別に、9月に実施した琵琶湖博物館イベント「発見!びわ博フェスティバル」では、アトリウムステージで学芸員がとっておきのフロアートークを開催した。

期間	2014年4月1日～2015年3月31日
実施回数	286回
総参加人数	2,138名

## (2) ディスカバリー・ルームのイベント

ディスカバリー・ルームでは、展示を利用するだけでなく、教育プログラムを通じて様々な視点から積極的な働きかけを大切にしている。季節展示に効果を加える参加型のイベントを計画し、ザ！ディスカバはしかけによる共催イベント（4件）も含めて13件のプログラムを実施した。さらに学芸員実習生の制作したディスカバリーボックスの展示に対してアンケートを行い、今後のボックス更新の資料としてまとめた。

開催日	タイトル	参加者数
4月12日(土)	ディスカバ紙芝居☆「ゲンタのたんじょうものがたり」 春、土にもぐるホタルたち(ザ！ディスカバはしかけ)	20名
4月19日(土)・26日(日)	飛び出せ☆「フナのぼりカードをつくろう！」	19名、23名
5月3日(土)～5日(月)	カブトをつくろう！	約50名
5月11日(日)	母の日☆折り紙をおって感謝の気持ちを伝えよう	約10名
6月15日(火)	①ディスカバ紙芝居☆ホタルの季節がやってきた！「ゲンタのたんじょうものがたり」(ザ！ディスカバはしかけ) ②はくぶつかんで、おはなし会！(ザ！ディスカバはしかけ・草津おはなし研究会 共催)	21名 33名
6月24日(火)～7月6日(日)	七夕☆短冊に願いをかこう！	約500名
7月1日(火)～8月31日(日)	みんなでかいこ絵日記をつくろう！	60名
9月6日(土)	はしかけオープンハウス 木の枝すりすり(ザ！ディスカバはしかけ)	34名
9月15日(月祝)	敬老の日☆おじいちゃん、おばあちゃんに感謝の気持ちを贈ろう	27名
12月7日(日)・1月10日(土)	ジュズダマでお手玉を作ろう！(ザ！ディスカバはしかけ)	19名・19名
12月20日(土)～25日(木)	クリスマスツリーをかざろう	約50名
12月28日(日)	はたきを作ろう！	計30名
1月24日(土)～2月3日(火)	節分☆オニのお面をつくろう	約30名
2月28日(土)～3月3日(火)	おひなさまをつくろう	約50名
2月24日(火)～3月22日(日)	「大学生のお兄さん・お姉さんが作ったディスカバリーボックス」アンケート 2月22日～3月1日：なまずのごはん 21名 3月3日～8日：ばらばら絵あわせ 6名 3月10日～15日：びわこ釣り名人 10名 3月17日～22日：おさかなふくわらい 15名	計52名

## (3) 展示交流員と話そう

展示交流員は、展示室における 1)安全確保、2)快適な環境の提供、3)展示室での発見のサポート（展示交流）の3つの働きをしている。特に3)の展示交流は、コミュニケーションを通じて来館者に身近な自然や生活へ目を向けていただくための重要な働きである。展示交流のいっそうの充実をはかるための手段として、2014年度も「展示交流員と話そう」を実施した。

本事業では、展示交流員が普段の交流からつかんだ「きっかけ」を生かし、できるだけ自然なスタイルで臨むようにしている。各自でテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受けながら、知識の習得、交流方法の検討、資料作成等の準備を行う。

展示交流員は各自のテーマに沿って、資料に触ってもらい、自作の資料を見てもらい、複数の実施コーナーを柔軟に活用する等、テーマに即して来館者の興味を引き出す様々な工夫を行った。

本事業の詳細は以下のとおりである。

- ① 実施期間：2014年12月2日（火）～2015年3月31日（火）（期間内で各自のシフトにより実施）
- ② 実施人数：展示交流員 20名
- ③ 実施回数：来館者の状況を見ながら随時実施
- ④ 実施内容

展示室	氏名	実施テーマ	実施コーナー
A	板垣真由美	あしあと化石	コレクションギャラリー
	柳原徳子	地球46億年の「長さ」	コレクションギャラリー前
	斎藤文子	滋賀の石	コレクションギャラリー
B	井出範子	琵琶湖疏水をゆく	治水・利水コーナー
	木下睦司	ムカデ退治伝説からみえること	勢多唐橋
	奥村恵子	むべなるかな。	朝廷におくられた近江の産物
C	芦田弘美	近江の中山道 どこからどこまで？	空から見た琵琶湖
	酒井紀美恵	空から見た名将たちの夢のあと	空から見た琵琶湖
	森みさと	交流員が行く近江八景	空から見た琵琶湖
	久保瞳美	マイマイカブリ	オサムシのコーナー
	笹山恵里奈	モス等部	生き物コレクション
	林 克子	水鳥	生き物コレクション
	本田幸子	「みみず」	水をはぐくむ森林
	野口千晴	沖島のくらし	沖島のくらし
	今泉美保	地域の宝を活かす“近江八幡”	沖島のくらし
水族	坂上麻理	ビワコのナマズ	ビワコオオナマズの水槽
	岩見 勉	アユの水槽	コアユの水槽
	飯田彩子	オオサンショウウオ	中流の水槽
	杉本和子	カイツブリとユリカモメ	水鳥の水槽
ディスカバリー ルーム	北田昌子	<身近ないきもの>カヤネズミの紙フィギュアを作ろう	ディスカバリーコーナー

## 博物館連携

### (1) 滋賀県ミュージアム活性化事業

文化庁の助成事業である、平成26年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業の助成を受け、滋賀県ミュージアム活性化推進委員会の加盟館として、滋賀県の歴史文化形成の基礎を形成する琵琶湖に関する文化資源の顕在化とその価値の定着化を図るためのライブミュージアム琵琶湖の発信事業を実施した。その中で当館が中心となり実施した事業として、湖国の伝統食であるフナズシに焦点をあてた湖上でのフォーラムを開催した。また、ライブミュージアム琵琶湖の定着を促進する事業として、安土城考古博物館と連携した「鯉」をテーマとした展示会を開催した。

#### 1) 湖上フォーラム みんなで語る「ふなずし」の歴史 の開催

滋賀県民にとって誇りである伝統文化の一つ、フナズシの歴史については、滋賀県の現在のフナズシこそがスシの最も古い形態であるとされており、これまで多くの県民が興味を持ってはきたものの、資料的に敷居が高く、十分な理解が進んでいるとは言えなかった。また、近年専門家の間で活発な議論が行われている

が、そのことは県民に十分に伝わっていなかった。

本事業では、各分野の専門家を招き、博物館の学芸員が中心となって、琵琶湖上で市民と語り合い、フナズシなどを食しながらフナズシの歴史を語り合った。その結果、フナズシの歴史的展開について従来の通説を覆す新たな見通しを得ることができるなど大きな成果を挙げる事ができた。

## 2) 水族トピック展示「鯉についての四方山話」の開催

(詳細は 3 展示活動 (3) ギャラリー展示・トピック展示等 P. 42参照)。

### (2) 滋賀県博物館協議会

開館以来、滋賀県博物館協議会(71 加盟館)の事務局を担当している。主な活動として、理事会と総会の開催、広報、研修、記念事業、ガイドブック制作委員会の運営のほか、ウェブページや新聞の連載コラム等を活用した広報活動、研修・情報交換会等を3回、会員館や外部の団体が連携して行う事業への後援等の活動を展開した。特に今年度は、昨年度制作された英語版ガイドブックに続き、日本語版ガイドブック「滋賀ミュージアムガイド」を発行することができた。

また、昨年度に連携協力を締結した環びわ湖大学・地域コンソーシアムと共に滋賀県博物館地域連携人材育成委員会を立ち上げ、平成26年度文化芸術振興費補助金(地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業)「滋賀県の博物館・美術館における大学生のための地域人材育成プロジェクト」を実施した。具体的には、(1) 大学生向けの博物館・美術館紹介ミニパンフレットの無料配布と各館一押しの展示物を紹介する「いちおし展示」の開催、(2) 大学生の意見を取り入れたスマートフォン対応Webページの作成、(3) 大学生自らが企画した体験型博物館・美術館ツアーの実施とWebへの体験記の掲載を行った。

### (3) 烏丸半島活性化連携事業

烏丸半島全体を対象として、認知度や施設利用の向上のため、琵琶湖博物館と草津市立水生植物公園みずの森が連携して事業を行う取り組みを行っている。2014年度は、次の2つの事業を行った。

#### 1) 烏丸半島スタンプラリー開催

烏丸半島への集客を図るため、琵琶湖博物館と草津市立水生植物公園みずの森が連携して、スタンプラリーを年2回、春と秋の連休行楽シーズンに実施した。

実施期間：2014年5月3日(土)～5月6日(火)4日間

2014年11月1日(土)～11月3日(月)3日間

実施時間：両期間9時00分～17時00分までの開館・開園中

主催：草津市立水生植物公園みずの森、滋賀県立琵琶湖博物館

実施場所：滋賀県立琵琶湖博物館 エントランス

草津市立水生植物公園みずの森 緑化相談コーナー(ロータス館内)

実施内容：琵琶湖博物館と水生植物公園みずの森に設置されているスタンプをからすま半島スタンプラリー専用台紙に押印してもらい、台紙と引き換えにオリジナルポスター・絵葉書をプレゼントする

参加費：琵琶湖博物館は無料、水生植物公園みずの森は入園料金が必要

プレゼント：先着100名分

琵琶湖博物館オリジナル魚ポスター 1枚

みずの森絵葉書 4枚セット 1組

交換期間：5月3日(土・祝)～5月6日(火)

11月1日(土)～11月3日(月)の開館、開園時間のみ

ただし、なくなり次第、スタンプラリーは終了とする。

交換場所：琵琶湖博物館事務学芸室・水生植物園みずの緑化相談コーナー

広報等：ポスターおよび資料提供、両施設のホームページ

## 2) 草津市転入居者への紹介事業

年間約 8,000 人の草津市への転入居者に対して、烏丸半島にある草津市立水生植物公園みずの森と琵琶湖博物館を知ってもらうために、両施設が紹介された烏丸半島マップを作成し、11 月から草津市役所の窓口で配布を行った。

## 4 体験と交流を促す博物館

### 一般利用者へのサービス

#### (1) 観察会・見学会等

2014年度は、博物館周辺や県内各地で行う博物館観察会等20件の事業を企画、実施した。特にリニューアルを見据えて、博物館の周辺や屋外展示、展示室を活用した体験と交流をとおして、フィールドを感じてもらえる観察会・見学会を多く実施した。また、地域での観察会・見学会については、5件全てで他団体と協働して実施することができた。

観察会・見学会に対する参加者の評判はおおむねよかった。各事業のタイトル、開催日、定員、参加者数等を下表に示した。

	開催日		曜日	事業名	定員	参加者数	共催関係
	月	日					
1	4	26	土	からすま半島たんぼぼ調査	20	11	はしかけタンポポ調査はしかけ
2	4	27	日	植物化石で太古の森を学ぼう	10	7	
3	5	24	土	滋賀のカタツムリを調べよう	20	18	琵琶湖博物館フィールドレポーター
4	7	19	土	プランクトンでアート	20	31	成安造形大 はしかけびわたん
5	7	26	土	漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう	20	15	朝日漁業協同組合
6	7	26	土	初心者のためのふなずし作り体験	20	22	
7	7	27	日	初心者のためのふなずし作り体験	20	22	
8	8	2	土	夜の屋外展示を探検しよう!!	20	24	
9	8	3	日	びわ湖バレイでアキアカネ調査に参加しよう	15	17	琵琶湖博物館フィールドレポーター
10	8	23	土	竹筒トラップでハチを観察しよう	20	31	はしかけミーティング
11	9	27	土	企画展関連イベント： アジアの水辺の絶景を探検!	20	6	
12	10	25	土	ビワマスの採卵現場を見学してみませんか	20	33	百瀬漁協、 滋賀県漁連高島事業場
13	11	1	土	朽木の秋 五感をつかって楽しもう	30	中止	くつきの森 はしかけ緑のくすり箱
14	11	8	土	秋の里山を歩こう	30	5	かわせみ自然の会
15	11	22	土	からすま半島のどうぶつ探偵団	20	13	
16	12	21	日	からすま半島の冬鳥を観察してみよう	30	31	日本野鳥の会滋賀支部、 はしかけびわたん
17	1	24	土	はじめてのたんさいぼう	20	15	はしかけたんさいぼうの会
18	1	25	日	水族バックヤード探検	100	109	
19	2	22	日	水族バックヤード探検	100	119	
20	3	28	土	春の大敵! スギ花粉を学ぼう	20	15	

## (2) 講座

講座は、研究部が主体となって実施する講座、学芸員が専門テーマについて解説する講座（各種講座）、教員や地域の指導者等を対象とした講座（指導者向け講座）、子どもたちを対象に行う夏休み自由研究講座等に区分できる。2014 年度に開催した講座の実績を以下に記した。

### 1) 各種講座

	内 容	開催日	曜日	募集数	参加者	担当者
1	回転実験室で水槽実験を！	8 月 5 日	火	20	37	戸田 孝
2	はしかけ登録講座（全3回）	5 月 11 日 10 月 19 日 3 月 15 日	日		233	林 竜馬・水谷 智
3	新琵琶湖学セミナー（全3回） （詳細は研究発信(2)新琵琶湖学セミナー参照）	1 月 17 日 2 月 21 日 3 月 21 日	土	各回 70	146	

### 2) 指導者向け講座

2014 年度は 2 件の指導者のための博物館活用講座を開催した。

開催日	内 容	受講者数	担当者	共催・後援
7 月 29 日	生き物飼い方	12	中井克樹・山本充孝・ 蜂屋正雄・間所忠昌	滋賀県総合教育センター
11 月 20 日	土の中の生き物	8	蜂屋正雄・間所忠昌	滋賀県総合教育センター

### 3) 夏休み自由研究講座

小学校 3 年生から 6 年生までの子どもたちを対象に、夏休みに入って間もない 7 月下旬に実施した。テーマの決め方や研究の進め方など、基本的には家庭に戻ってから本格的な研究ができるように基本的な考え方や実際の作業などを中心に指導した。日程、参加者数、講師等は下記のとおり。今年度は、コースに分かれる前に自由研究の進め方について講義を行った。プランクトン、魚、昆虫のコースで合計 66 名の応募があり、当日の参加者は 60 名だった。

開催日	コース名	開催時刻	定員	参加数	会場	講師
7 月 20 日	プランクトン	10:00～15:00	各コース 約 30 名	20	実習室 1	楠岡 泰
	魚	10:00～15:00		23	実習室 2	桑原雅之
	昆虫	10:00～15:00		17	会議室	武田 滋*、南 尊円* 八尋克郎、柘永一宏

\*は外部講師

#### ■夏休み自由研究講座のようす



### (3) 体験教室

2014年度は野州市大篠原の里山林周辺で里山体験教室と、琵琶湖博物館の屋外展示と生活実験工房において田んぼ体験を開催した。

#### 1) 里山体験教室 (担当：安福俊幸、草加伸吾)

『「里山」という言葉は知っているが、行ったことがない。子どもの頃は野山で遊んだが久しく行ったことがない。』このような里山ビギナーの方々に、里山へ訪れるきっかけとして、里山体験教室を「はしかけ里山の会」の協力により開催している。

人里の外側に広がる田畑、草原、河辺林といった里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林に留まらず、各回周辺を歩いて、季節による変化や時間の連続性を感じ、四季折々の里山の表情を楽しむため年4回実施している。参加者は、家族単位での参加がほとんどで、子どもたちの体験の機会として応募されているが熱心なのは保護者の方という場合も多い。

春は、里山を歩き、春の息吹が感じられるよう植物を中心に観察した。食べられる植物を紹介しながら、身近な草花への興味を促した。野草や木の芽のテンブラを楽しんだ。午後は、木の名札づくり、近くの展望台から琵琶湖を眺望した後、どんぐりの木を植栽した。

夏は、夏の里山遊びの王道「虫とり」を午前中楽しんだ。午後は、里山の中でシートを利用した簡単お手軽「ハンモック」づくり、最後にススキの葉で虫をつくる「草遊び」を体験した。

秋は、里山を散策して木の実や紅葉などの「里山の秋色さがし」、午後は、木の実や枝葉を使った「モバイルづくり」、「里山林の手入れと薪づくり」を行った。

冬は、「はしかけ里山の会」のプロデュースにより、冬の里山めぐり、花炭、煙の空気砲遊びなどを楽しんだ。また、たき火料理として、汁物・焼きマシュマロ・竹ロールパンなどを味わった。

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	4月20日	里山の春を見つけよう	31	安福、草加
2	7月21日	里山の夏を楽しもう	29	安福、草加
3	10月19日	里山の秋さがし	25	安福、草加
4	1月18日	冬の里山を楽しもう	32	安福、草加



春：植物観察



夏：ハンモック



冬：花炭

#### 2) 生活実験工房 田んぼ体験 (担当：水谷 智、中川 優)

生活実験工房では年間を通して、はしかけ会員と一般の参加者を対象に、暮らしと田んぼの体験教室を実施し、4月から11月初旬までは、主に水稻栽培に関する体験を行い、11月中旬から翌年3月までは、わらなど収穫した材料や工房周辺にある材料を使った体験活動を実施している。水稻栽培では、昔ながらの苗代づくりから手作業による田植えや稲刈り、脱穀までを昔の農具を使い協力しながらの体験活動を行った。11月の収穫祭では、かまどを使って収穫したモチ米を蒸し、もちつきを行い農の恵みを味わうことができた。

また、農閑期となる冬季では、工房内でしめ縄やわら細工など、わらを有効活用した手作業による体験活動を行い、農具や道具などの使い方を学び、参加者同士が協力し交流を深めながら、栽培体験や作業に取り組んだ。参加者の中には、家族で継続した参加もあり、子どもたちの成長を見ながら親と子の絆を深める機会にもなっている。

活動日	内 容	参加者数
4月 19日	種まき、苗代づくり	職員対応
5月 18日	田植え、さなぶり	49名
6月 8日	除草作業、お茶っばづくり	34名
7月 27日	案山子づくり、昆虫採集	40名
9月 7日	稲刈り（早稲品種：みずかがみ）はさ掛け	41名
10月 5日	稲刈り（晩稲品種：滋賀羽二重糯）はさ掛け	14名
10月 26日	脱穀、唐箕	28名
11月 16日	収穫祭	24名
12月 13日	もちつき	14名
12月 23日	しめ縄づくり、門松づくり	53名
1月 13日	どんど焼き	職員対応
1月 18日	昔遊び（凧づくり）	29名
2月 8日	わら細工	16名
3月 14日	一年間のふりかえり	2名



5月田植え風景



9月稲刈り、ハサ掛け

#### (4) 体験学習

子どもたちの自然や文化への興味関心を高めるとともに、親御さんの理解を深めるため、子ども会やスポーツ少年団、大人の団体などの一般団体に対して体験活動を行った。

実施数	内 容
8団体（483名）	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物）、ヨシ笛など

##### 1) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動

（担当：間所忠昌、蜂屋正雄、黄瀬金司、小嶋陽太）

当館を訪れる小・中学生を対象に、博物館の展示室への興味や関心を高めるための体験活動を、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」として実施した。子ども向けではあるが、広く来館者に体験学習を楽しんでもらうよう、保護者の付き添いのある幼児や大人のみでも参加可能にした。基本的には、第2土曜日の午後1時より受付、プログラム実施は午後1時30分～3時までとした。今年度は、広く他のはしかけグループやフィールドレポーターにもわくわく探検隊を担当していただいたが、参加者からは各回大変好評であった。年間14回、513名の参加者があった。

回	月日	館内の事業	参加者数
1	4月12日	春の草花でしおりをつくろう	41
2	5月10日	タンポポ調査にチャレンジしよう	44
3	6月14日	魚の解剖にチャレンジしよう	64
4	7月12日	ほねにふれよう	37
5	7月19日	プランクトン de アート	20
6	8月9日	日光写真でアート～水草編～	17
7	9月13日	葉っぱ模様の手ぬぐいづくり	38
8	10月11日	葉っぱ模様の手ぬぐいづくり	29
9	11月8日	秋の色でビンゴ	20
10	12月13日	水鳥を観察しよう～色とりどりの冬鳥たち～	28
11	1月10日	博物館でスゴロクをつくろう	33
12	1月17日	博物館でスゴロクをつくろう	22
13	2月14日	化石のレプリカづくり	78
14	3月14日	火起こしで昔のくらしを考えよう	42
			513

■わくわく探検隊のようす



学校連携

(1) 学校団体

団体扱いで入館した学校数・児童生徒数を以下にあげる。全般的に減少傾向であるが、特に県外の中学校の減少が顕著。昨年度にも報告したように指導要領の改訂により、学校の校外学習にあてる時間数確保が難しくなっていることによると考えられる。県内学校については、3、4年生の社会科「昔のくらし」についての来館が多く、学習にあてられる冬季はもちろん春・夏季においても多数の来館があった。今年度は、全国高等学校総合文化祭の準備に関わって高校の科学部の来館が増えた。来年が本大会であるため、来年度引き続き増加が予想される。環境学習としての減少が見込まれる中、リニューアルを経て来館いただけるよう、ハード面・ソフト面の充実を図りたい。

1) 学校団体の受け入れ (担当：蜂屋正雄、間所忠昌、黄瀬金司、小嶋陽太、草加伸吾)

地域	校種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		H25年度	今年度	増減	H25年度	今年度	増減
県内	小学校	170	181	11	11,662	11,644	-18
	中学校	22	19	-3	1,949	1,775	-174
	高等学校	15	30	15	984	1,580	596
	特別支援学校	15	13	-2	273	190	-83
	大学など	6	5	-1	347	197	-150
	合計	228	248	20	15,215	15,386	171

地域	校種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		H25年度	今年度	増減	H25年度	今年度	増減
県外	小学校	242	221	-21	21,117	19,318	-1,799
	中学校	109	69	-40	14,365	10,159	-4,206
	高等学校	25	32	7	2,602	3,141	539
	特別支援学校	10	13	3	267	369	102
	大学など	31	43	12	1,290	1,520	230
	合計	417	378	-39	39,641	34,507	-5,134
総合計		645	626	-19	54,856	49,893	-4,963

## 2) 学校団体向け体験学習 (担当：間所忠昌、蜂屋正雄、黄瀬金司、小嶋陽太)

各種体験学習を行ったが、学校の希望にあわせながら博物館の伝えたいことが伝わるように、事前打ち合わせをとりながら調整をした。博物館と学校とが連携を保ちながら活動を進めていくことができるよう、学校のカリキュラムに沿った見学への対応のほか、各種体験学習等の受け入れを行った。特に、体験学習として下記のような活動を実習室、セミナー室、生活実験工房などを利用して行った。

また、展示見学学習を支援する「サポートシート（モノクロ版 17 種類）」の利用を、教員研修や下見受付を通して、学校へ呼びかけた。ダウンロードにも対応している。

校種	主な活動内容
小学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示について など）、ヨシ笛作り、化石レプリカ、プランクトン採集と観察、昔のくらし体験（石臼・脱穀・手押しポンプ）、シジミストラップ、琵琶湖の富栄養化問題、魚の解剖、質問対応
中学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示についてなど）、ヨシ笛作り、化石レプリカ、水質検査、プランクトン採集と観察、シジミストラップ、魚の採集（釣り）と解剖、外来魚の調理、野外観察（ヨシ群落など）、野外植物観察、水の汚れの測定、貝の観察、昆虫の観察、3D琵琶湖、琵琶湖の富栄養化問題、質問対応
高等学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚類、博物館の展示についてなど）、プランクトンの採集と観察、魚の解剖、水質調査、湖岸調査（地形・植生ほか）、琵琶湖の環流について、展示利用学習、課題研究、質問対応

### ■体験学習実施数

校種	県内		県外		合計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	52	3,294	43	3,259	95	6,553
中学校	12	1,584	12	1,314	24	2,898
高等学校	16	552	4	337	20	889
特別支援学校	3	20	0	0	3	20
大学など	1	31	0	0	1	31
合計	84	5,481	59	4,910	143	10,391

### ■体験学習のようす



■サポートシートダウンロード数

	内容	ダウンロード数
学習シート	今と昔の暮らし	30
	むかしの道具と生活	33
	森林の働き	19
	琵琶湖の水・川の水	25
	大地のつくり	14
	琵琶湖のおいたちをさぐる	12
発見シート	小学校3年生	14
	小学校4年生	13
	小学校5年生	10
	小学校6年生	13
ナマズ博士の挑戦状	全館コース1問	17
	全館コース2問	15

3) ミュージアムスクールの運営 (担当: 間所忠昌、蜂屋正雄)

立命館守山中学校・滋賀県立石部高等学校を受け入れた。

<立命館守山中学校>

1年生160名が参加し、4回にわたって展示見学や講義・体験学習の受講、グループ別課題研究に取り組んだ。今年度は、半分の活動を野外活動にあてると共にICT教育としてタブレットによる情報機器の教育とあわせて展開された。中間発表の講評時に学芸員から、事実誤認や研究を深めるポイントについてコメントした。

① 2014年5月24日(土) 琵琶湖博物館

- ・9:40~10:40 講義「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の概要」(蜂屋):ホール
- ・10:40~11:50 常設展示見学

② 2014年6月21日(土) 琵琶湖博物館

- ・9:40~10:40 講義「琵琶湖の生き物とその調査法」(中井):ホール

③ 2014年7月12日(土) 琵琶湖博物館

- ・9:40~10:40 講義「問題解決へのアプローチの方法」(蜂屋):ホール

■夏休み…展示見学と講義から琵琶湖について特に興味を持ったことがらについて、各自が夏休み課題としてレポートにまとめる。

④ 2015年2月7日(土) 琵琶湖博物館

- ・10:40~11:50 班ごとのテーマに合わせて各交流ゾーンで中間発表会  
楠岡・松田・芳賀・桑原・渡部学芸員にコメントをもらう

⑤ 2015年2月21日(土) 立命館守山中学校

- ・学習発表会
- ・学芸員のアドバイスをもとに仕上げたものを保護者向けに発表。
- ・琵琶湖学習発表会(立命館守山中学校メディアホール) 審査・講評(間所・草加)

<滋賀県立石部高等学校>

3年生9名が参加し、5回にわたって展示見学や講義・体験学習の受講、グループ別課題研究に取り組んだ。課題研究では学校教員がグループにアドバイスを与え、学習の成果を発表会で交流した後、博物館教員

が講評を行った。

① 2014年7月22日（火）琵琶湖博物館

- ・ 9:40～9:55 開講式
- ・ 10:00～12:20 講義「琵琶湖の概要」（蜂屋）：実習室2
- ・ 13:35～15:05 常設展示見学

② 2014年7月23日（水）琵琶湖博物館

- ・ 9:40～12:20 実習「プランクトン採集と観察」（楠岡）：ホール
- ・ 13:35～15:30 琵琶湖の水質

③ 2014年7月24日（木）琵琶湖博物館

- ・ 9:40～12:20 実習「魚の解剖」（蜂屋）：実習室2
- ・ 13:35～15:30 講義「びわこの魚」  
実習「外来魚の調理」

⑤ 2014年7月25日（金）琵琶湖博物館

探究学習

⑥ 2014年7月28日（月）琵琶湖博物館

探究学習・発表会

■ミュージアムスクールのように



4) 自然調査ゼミナール（担当：間所忠昌、蜂屋正雄）

自然調査ゼミナールは、滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会に所属する教員が中心となり、中学生が自然調査を通して複雑な自然を知り深く理解することを目的として、1977年より開催されている自然観察研修会である。1997年からは琵琶湖博物館を会場として開催してきた。昨年度と同様に主催：琵琶湖博物館、共催：滋賀県中学校教育研究会理科部会、後援：滋賀県教育委員会で行った。中学生88名、教員27名、博物館実習生20名が参加した。中学生たちは学芸員のアドバイスを受け、地域の自然を調査し、ホールにて結果をグループごとに発表した。

①期日 2014年8月5日（火）～8月6日（水）

②内容

昼の部		夜の部	
9:40～10:00	受付	19:30～22:00	グループ別研修
10:00～10:30	開講式、オリエンテーション		びわたんワークショップ（水草）、
10:40～15:00	班別調査活動（昼食含む）		水族探検、昆虫探検、星空観察
15:15～16:00	調査結果まとめ	22:30～	就寝
16:30～18:00	調査報告会	6:30～7:30	起床、朝の生物観察

■昼の部班別テーマ

班	テーマ	学芸員	生徒数	教員数
魚類班 A	魚の雌雄について調べよう	藤岡康弘	15	3
魚類班 B	外来魚について調べよう	山本充孝	16	3
ほ乳類班	博物館周辺のほ乳類を調べよう	澤邊久美子	12	3
昆虫班	博物館周辺で昆虫採集をしよう	八尋克郎	10	3
貝類班	琵琶湖の貝を調べよう	松田征也	11	3
プランクトン班	琵琶湖のプランクトンについて調べよう	楠岡 泰	9	3
植物班	博物館周辺の植物を調べよう	草加伸吾	15	3

■夜の部

活 動	担 当
ワークショップ「水草で青写真」	びわたん、中学校教員
水族展示探検	間所忠昌、中学校教員
昆虫観察	金尾滋史
星空観察	蜂屋正雄、中学校教員

■自然調査ゼミナールのようす



5) 職場体験実習受け入れ (担当：間所忠昌、蜂屋正雄)

2014年度は草津市立新堂中2年生5名を受け入れた。中学校が設定している5日間のうち、休館日と日曜日を除いた金曜日から木曜日で実施した。

月日	体験内容	担当職員
11月 7日	博物館の概要・体験学習についてのお話、化石のレプリカ体験補助、ヨシ笛材料準備	間所、蜂屋、黄瀬、小嶋
11月 8日	ヨシ笛・化石レプリカ材料準備、わくわく探検隊補助	間所、蜂屋、草加、小嶋
11月11日	水族での実習、化石のレプリカ体験補助、ヨシ笛・化石レプリカ材料準備	間所、蜂屋、桑原、黄瀬、小嶋
11月12日	水族での実習、米原高校体験活動補助、工房作業（薪割り、案内看板設置）	間所、蜂屋、桑原、中川、水谷、黄瀬、小嶋
11月13日	昔くらし体験補助、ヨシ笛材料準備	間所、蜂屋、黄瀬、小嶋

■職場体験のようす



(2) 教育指導者等研修（担当：間所忠昌、蜂屋正雄）

1) 教職員研修

今年度も学校などへの出張講座、県総合教育センターなどと連携した講座、各地の教育委員会や教育研究所からの依頼を受けた研修など多岐にわたり、626名の受講があった。今年度は滋賀大学のCST（コア・サイエンス・ティーチャー）事業に参加している関係で、博物館の教員が出張で講義をする機会がいくつかあった。

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
5月 7日	水	校内職員研修会	17	草津市立渋川小学校
5月 28日	水	校内職員研修会	18	草津市立渋川小学校
6月 6日	金	滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育委員会研修会	13	滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育委員会
6月 25日	水	草津市立志津小学校校内研	31	草津市立志津小学校
7月 4日	金	豊中市中学校理科学術職員研修	20	豊中市教育委員会
7月 29日	火	指導者のための博物館活用講座	11	滋賀県総合教育センター
8月 5日	火	草津市環境教育研修会	45	草津市教育研究所
8月 7日	木	滋賀県小学校教育研究会理科部会研究委員総会	17	滋賀県小学校教育研究会理科部会
8月 20日	水	志津小学校校内研修会	33	草津市立志津小学校
8月 22日	金	滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育委員会研修会	20	滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育委員会
10月 8日	水	長浜市立長浜西中学校	3	長浜市立長浜西中学校
10月 9日	木	滋賀県高等学校理科教育研究会生物部会	14	滋賀県高等学校理科教育研究部会
10月 28日	火	滋賀県中学校教育研究部会理科部会・研究協議会	23	滋賀県中学校教育研究部会理科部会
11月 18日	火	初任者研修	35	滋賀県総合教育センター
11月 20日	木	指導者のための博物館活用講座	9	滋賀県総合教育センター
11月 20日	木	初任者研修	36	滋賀県総合教育センター
11月 25日	火	初任者研修	36	滋賀県総合教育センター
11月 27日	木	初任者研修	35	滋賀県総合教育センター
11月 29日	土	滋賀の教師塾	144	滋賀県教育委員会
1月 4日	日	滋賀大学	36	滋賀大学・環境研究室
1月 23日	金	高島市立高島小学校	2	高島小学校
1月 28日	水	理科授業研究会	28	守山市立物部小学校
合計			626	

■ 滋賀の教師塾のようす



■博物館活用講座のようす



2) その他の視察研修（担当：間所忠昌、蜂屋正雄）

2014年度に受け入れた学校連携・教育普及活動に関する視察は、合計8件70名であった。

月日	研修	人数
5月28日	JICA研修	3
7月18日	八坂観光バス	10
7月31日	石部小学校ボランティアグループ	8
8月20日	近畿日本ツーリスト	30
2月14日	国営木曾三川公園・自然発見館	14
2月22日	七尾市自然史博物館設立準備室	3
2月26日	鹿児島県立博物館	1
3月12日	香川県立ミュージアム	1

(3) 学校サテライト博物館事業（担当：蜂屋正雄、水谷 智、間所忠昌）

2007年度から始まった学校サテライト博物館事業は、中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」を具現化するため、学校に限らず、地域の公民館等にも展開していく方向性を持って、サテライト博物館事業と名称を変更して取り組んでいる。設置を希望される地域の方が運営主体となり、学校と博物館をつないでいただくこと、自己運営できることを事業目的にしている。

本年度は、昨年度からつづく東近江市能登川東小学校と高月駅前の田園空間博物館総合案内所、高月小学校・富永小学校での開催とともに、運営主体を東近江市シルバー人材センター・高月町地域振興課と学校支援委員会とし、独自の展示への発展を目指して事業を進めた。

■出前授業

実施日	曜日	出前授業	参加者数
6月6日	金	東近江市立能登川東小学校3年生	140
合計			140

企業連携

2016年に予定している当館のリニューアル展示をはじめ、今後の博物館の運営を継続させていくためには、企業との連携は欠かせないものの1つである。博物館は企業が行う研修や社会貢献活動を通じて、参加者に博物館の理念である湖・自然と人間のよりよい関係を考える機会を提供し、また学術的な観点から正しい認識を伝えていく必要がある。このような企業への支援活動を行うことで、博物館への信頼が築かれ、その延長上に展示会の協賛やネーミングライツなど企業からの活動助成も生じるものと考え、また、外部資金を獲得する方法のひとつと位置づけ、企業連携の強化を図っていく。そのため、これまでは一般団体として受入

対応を行ってきたが、2014年度は企業からの要望や問い合わせに対しては、企画調整課で最初の受入対応し、その後、支援内容にあわせて、事業部で対応を行うとした。重要な点としては、学芸職員が個別に依頼を受けるのではなく、博物館の企業連携として対応する仕組みを今年度から実施したことである。

今年度としては、次のような連携事業を展開した。

7月26日：日本生命

博物館の屋外展示を使った観察会の実施

8月31日：三井アウトレットパーク滋賀竜王

相互のイベントチラシの設置および「琵琶湖博物館から移動博物館がやってきた！～ヨシ笛づくりに挑戦～」移動博物館とワークショップの開催

9月25日：三菱ケミカルホールディングス（東京都千代田区）本社

滋賀県拠点事業所紹介イベントとして移動博物館展示キットを出展

2015年2月22日：伊藤園

「おーいお茶で琵琶湖を美しくキャンペーン」で、イズミヤ堅田店にて移動博物館を開催

## 研修・実習

### (1) 国際交流

#### 1) JICA 博物館学コースの実施

国際協力機構（JICA）からの委託事業として、国立民族学博物館との共催で「博物館学コース（Comprehensive Museology Course）」（2012年度～2014年度）の集団研修を実施しており、今年度は最終年度にあたる。この研修事業は、国立民族学博物館が事務局を持ち、当館からは運営委員2名と専門委員1名を選出し、全体の運営に関わっている。今年度の研修は、4月14日から7月26日まで実施し、4カ国（ジャマイカ、エジプト、パレスチナ、ミャンマー）の博物館施設から計10名の研修員が参加したが、残念ながら途中で、1名体調不良により帰国する事態が生じた。当館では、期間前半に一般研修として全研修員を対象に5月22日～28日までの6日間のプログラムを実施した。後半には個別研修（各研修員が同時開催される複数のコースから専門性によって選択するもの）として、「博物館と地域コミュニティー（Museum and Local Communities）」コース（7月8日～12日までの5日間）を分担し、全研修員のうち3名が参加した。また、中越・東京研修6月7日～11日や広島・直島研修6月24日～27日に随行した。

なお、このJICAの研修は、当初10年間にわたり国立民族学博物館が「博物館技術コース」として行ってきたもので、当館は地域連携に係わる部分を分担する形で研修生を受け入れて協力し始めたことに端を発する。2004年度から2011年度までは「博物館学集中コース（Intensive Course of Museology）」と題する研修となり、それに応じて研修内容を変更して、国立民族学博物館との共催事業となっていた。それを引き継ぐ形で、3年間の「博物館学コース（Comprehensive Museology Course）」（2012年度～2014年度）を実施した。

#### ① 研修員 計9名

テンディ フェレイ ヘンリ (Tendi Farai HENRY)

ジャマイカ 青少年文化省ジャマイカ協会 IT部マネージャー

エリザベス モニーク モリソン (Elizabeth Monique MORRISON)

ジャマイカ 青少年文化省ジャマイカ協会 ジャマイカ自然史博物館 動物学者

ニコル ラトヤ パトリック ショウ (Nicole Latoya PATRICK-SHAW)

ジャマイカ 青少年文化省ジャマイカ協会 プログラムマネージャー

キン ソー ウィン (Khin Saw Win)

ミャンマー 文化省 バガン考古学博物館学芸助手

キン マオ ソー (Khin Maung Soe)

ミャンマー 文化省 ネピドー国立博物館スタッフオフィサー  
 レズイク ディアゴ ゴデリ(Rezq Diab GHODERY)  
 エジプト 首相府考古庁 大エジプト博物館収集課  
 アハメド シェハタ オラビ(Ahmed Shehata ORABI)  
 エジプト 首相府考古庁 大エジプト博物館保存修復センター文化財準備課長  
 サレ アワド(Saleh AWAD)  
 パレスチナ 観光遺跡庁 遺跡調査官  
 スフィアン ディス(Sufyan DEIS)  
 パレスチナ 観光遺跡庁 古物文化財局考古学部

## ② スケジュール

4月18日(金) 開講式 (国立民族学博物館)  
 4月21日(月)～6月23日(月) 一般研修 (主会場：国立民族学博物館)  
 ・4月24日(木) ミュージアム・レポート(会場：琵琶湖博物館)  
 ・5月9日(金) 大阪研修(大阪歴史博物館、大阪人権博物館)  
 ・5月15日(木)・16日(金) 奈良研修(元興寺文化財研究所、大阪府立近つ飛鳥博物館など)  
 ・5月22日(木)～28日(水) 一般研修(会場：琵琶湖博物館)  
 ・5月31日(土) 公開フォーラム(会場：国立民族学博物館)  
 ・6月4日(水) 研修「博物館における災害展示と市民活動」(人と防災未来センター)  
 ・6月7日(土)～11日(水) 中越・東京研修(長岡震災アーカイブセンター、川口きずな館、  
 おぢや震災ミュージアム、国立新美術館、国立博物館・科学館)  
 ・6月24日(火)～27日(金) 広島・香川研修(宮島水族館、地中美術館、広島市こども文化科学館)  
 6月30日(月)～7月15日(火) 個別研修(主会場：国立民族学博物館)  
 ・7月8日(火)～12日(土) 個別研修(会場：琵琶湖博物館)  
 7月24日(木)閉講式

## ③ 琵琶湖博物館での研修

・ミュージアム・レポート 4月24日(木)  
 ・一般研修 5月22日(木)～28日(水)

5月22日	琵琶湖博物館の概要および設立経緯	高橋副館長
	交流事業の考え方	楠岡
	展示の概要説明	亀田
	展示見学	グライガー・スミス
5月23日	展示評価	黒岩(Learnig Innovation Network)
	展示の計画および制作	鮫島(乃村工藝)
5月24日	フィールドレポーターとはしかけの話	林・楠岡
	フィールドレポーター交流会	林・楠岡
	烏丸半島でカタツムリ観察会	林・金尾
5月25日	地域活動の見学と意見交換	中村(アイキッズ)
5月27日	ディスカバリー・ルームの考え方と運営	芦谷
	博物館の研究活動と自然系資料の収集	八尋
	情報の資源の活動 ー歴史に学ぶー	戸田
	資料の整理と利用	戸田・秋山
5月28日	リニューアルの計画	藤村・里口・榎永
	専門レポート	

- ・個別研修 7月8日(火)～12日(土)
- 7月8日 開講のあいさつ グライガー  
「地域と博物館のつながりー地域住民による足跡化石調査」  
高橋・滋賀県足跡化石研究会(岡村)
- ワークショップの説明「インターナショナルコーナーをつくろう」 芦谷
- 博物館資料の活用「写真資料の整理から展示活用へ」 秋山
- 写真資料の活用ワークショップ「写真セラピーのワークショップ」  
日本写真療法家協会(新堀)
- 7月9日 ビオトープ学習「イチモンジタナゴの野生復帰に向けて」  
(株)オムロン野洲事業所 松田
- 学習プログラム「プランクトンのモデル作成」の実践 楠岡
- 水族バックヤードツアー 桑原
- 7月10日 地域博物館視察「地域に根ざした博物館活動」  
能登川博物館 グライガー・杉浦
- サテライト博物館「地域の人とつくる博物館」  
能登川東小学校 蜂屋・グライガー
- 地域博物館視察「地域からの発信を支える博物館」  
ボードレス・アートミュージアム NO-MA グライガー
- 7月11日 地域博物館視察「展示室ワークショッププログラム」  
陶芸の森 グライガー・鈎
- 地域博物館視察「アートミュージアムビジターズプログラム」  
MIHO MUSEUM グライガー・桑原
- 地域博物館視察「地域の自然観察プログラム」みなくち子どもの森 グライガー・小西
- 7月12日 「インターナショナルコーナー」展示案発表 グライガー・芦谷
- わくわく体験プログラム「ほねにふれよう」  
蜂屋・ほねほねクラブ(はしかけ)・高橋
- 全体ディスカッション グライガー・芦谷
- 閉講の挨拶 高橋

## 2) 海外からの視察・研修

当館では、上記 JICA 研修の実施以外にも、海外からのさまざまな団体による視察や研修に対応しており、今年度は 37 件に対応した。

\* JICA ; 国際協力機構 ILEC ; 国際湖沼委員会

月日	団体名	依頼者	人数	対応
4月 8日	JICA 研修「産業排水処理技術 B」コース	(公財)北九州国際技術協力協会	8	芳賀
4月 12日	ベトナム科学アカデミー・環境技術研究所	県商工政策課	8	高橋、スミス
5月 11日	近江ふるさと会の奉仕学生受入	県観光交流局国際室	33	用田
5月 20日	イリノイ大学における実習	イリノイ大学	12	楠岡
5月 27日	台湾台北市立高級中学	ビジターズビューロー	33	用田
5月 27日	韓国環境政策評価院	県自然環境保全課	2	高橋、松田
5月 28日	(特非)中日文化経済交流協会	(特非)中日文化経済交流協会	9	用田
6月 3日	JICA 本部	ILEC	2	八尋

月日	団体名	依頼者	人数	対応
6月 7日	(独)土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター	(独)土木研究所	17	芦谷、井関
6月 11日	京都インタナショナルスクール	京都インタナショナルスクール		スミス
6月 21日	タイ王室 財産管理局	タイ王国大阪総領事館	38	篠原、楠岡、スミス
6月 24・25日	タイ王国シラパコーン大学	シラパコーン大学	3	楠岡、大塚、林
7月 2日	ミシガン州立大学連合日本センター	ミシガン州立大学連合日本センター	4	グライガー
7月 15日	インドネシア共和国ハブア洲ジャヤプラ県首長(市長)	県環境政策課	9	館長、スミス
7月 17日	中国環境関係代表団(マスコミ、NGO)	県温暖化対策課	30	芳賀、大塚
7月 20日	近江ふるさと会の奉仕学生(中国)	県観光交流局国際室	33	
7月 22日	JICA 草の根プロジェクト(フィリピン)	ILEC	11	スミス
7月 30日	神戸女学院大学大学院(留学生)	神戸女学院大学大学院	6	芦谷、楊
8月 2日	イラン国ギラン州知事、環境省副長官	ILEC	8	中鹿、藤岡
8月 2日	近江ふるさと会の奉仕学生(台湾、中国)	県観光交流局国際室	30	山本
8月 7日	中国雲南省「昆明市水環境改善研修」	(公財)北九州国際技術協力協会	13	楊
8月 9日	近江ふるさと会の奉仕学生(台湾、韓国)	県観光交流局国際室	31	
8月 29日	中国湖南省技術者等	(公財)淡海環境保全財団	10	楊
9月 21日	【大阪教育大学】JICA プログラム アフリカ各国	大阪教育大学	23	楠岡、スミス
10月 9日	ベトナム大学生	(財)日本国際協力センター	28	金尾
10月 11日	中国湖南省岳陽市長	県観光交流局国際室	6	高橋、楊
10月 21日	JICA「湖沼環境保全のための統合的流域管理」研修	ILEC	9	楠岡
10月 26日	中国の自然博物館・科学館の専門家	(株)丹青社	2	藤村、楊
10月 28日	マレーシア国立水理学研究所	ILEC	3	楠岡
11月 16日	JICA 課題研修「アフリカ地域都市上水道技術者養成」コース	横浜ウォーター株式会社	20	スミス
11月 22日	滋賀大学国際センター(オーストラリア)	滋賀大学	11	グライガー
11月 24日	JICA エチオピア国別研修「農業イノベーションと研究・普及連携」	JICA	4	大久保
1月 27日	中国昆明理工大学等	京都大学	19	スミス
2月 19日	近江ふるさと会の奉仕学生(中国)	県観光交流局	25	
3月 1日	台湾台南市長	県商工政策課	10	高橋、楊
3月 11日	駐日本国マケドニア大使	駐日本国マケドニア大使館	2	篠原、中鹿、高橋、グライガー、楠岡
3月 20日	近江ふるさと会の奉仕学生(中国)	県観光交流局	32	

## (2) 博物館実習

・期間：2014年7月31日（木）～8月7日（火）；ただし8月4日（月）は休み

大学生が学芸員の資格を取得するための実習を開催した。国内11大学、20名の学生を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針と、それに基づく資料整備、交流、展示などの活動について、講義および実習を行った。交流事業の実習では、中学生を対象とした自然調査ゼミナールへスタッフとして参加したり、企画調整や展示リニューアルの実習では、実際に展示室に出てユニバーサルデザインのチェックや展示評価のためのインタビュー調査などを行った。1週間を通した実習全体の課題としては、グループでディスカバリーボックスの計画および試作品の製作を行い、最終日にはその発表会を行った。発表会では、博物館職員との意見交換も行われた。

### ・実習日程と内容

月日	内容（午前）	内容（午後）
7月31日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体オリエンテーション</li> <li>講義「琵琶湖博物館の概要」</li> <li>講義「琵琶湖博物館の研究活動」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「常設展示の概要」</li> <li>見学「常設展示室の見学」</li> <li>実習「展示交流とは」</li> </ul>
8月1日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「博物館の資料と整理（データベース）について」DVD視聴含む</li> <li>講義「IPMについて」</li> <li>見学「収蔵庫空間見学」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習 各資料分野に分かれて実習</li> </ul>
8月2日（土）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「ディスカバリールームの説明、ディスカバリーボックスの説明」</li> <li>実習「ディスカバリーボックスの企画案作り」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習「ディスカバリーボックスの企画案作り」</li> <li>見学「企画展示の見学」</li> </ul>
8月3日（日）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「企画調整課の概要」</li> <li>講義「琵琶湖博物館の広報戦略」</li> <li>実習「ユニバーサルデザインチェック」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「博物館リニューアルについて」</li> <li>実習「展示評価とは」</li> </ul>
8月4日（月）	〈実習・休み〉	
8月5日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「琵琶湖博物館における交流事業」</li> <li>実習「自然調査ゼミナール補助」</li> </ul>	
8月6日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習「ディスカバリーボックスの作成」</li> <li>実習「ディスカバリーボックス・プレゼンテーション準備」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習成果発表会</li> <li>修了式</li> </ul>

### ・実習生の大学と人数：11大学、20名（内訳）

所 属	人 数	所 属	人 数
滋賀県立大学	6	龍谷大学	4
成安造形大学	1	京都教育大学	1
京都精華大学	1	京都造形芸術大学	1
京都橘大学	1	近畿大学	2
関西学院大学	1	東海大学	1
琉球大学	1	合 計	20

## 5 対話と応援ができる博物館

### 利用者主体の事業

#### (1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、地域の方が滋賀県内の自然とくらし・文化について、自分たちの住む身近な調査をしてもらい、そこから得られた情報を博物館の展示、交流、研究活動に活かす制度である。これら活動の他に、交流会、観察会の開催によって、参加者が地域の自然や環境に関心をもち、興味を広げる活動の場も提供している。フィールドレポーターが行う調査は、博物館に申し込みをすれば、誰でも参加できる市民参加型調査である。フィールドレポーターの主な活動としては、月2回（原則第1,3土曜日）の定例会の開催、1年に2回程度のアンケート型調査の企画、実施とその結果をまとめた報告書の編集・印刷・発行、館内の展示および更新、および自由交流型調査のまとめと掲示板発行、そして会員同士の交流会、館内外で開催される交流会・イベントなどへの参加がある。「アンケート型調査」は毎回決まったテーマに従って行い、「自由交流型調査」は自由な内容で身近な情報を随時報告する形としている。

2014年度の自由交流型調査では、2008年以降継続している「アキアカネふるさと探し」調査をびわ湖バレイ蓬莱山山頂付近において実施した。また、秋には大津市木戸と伊香立周辺において里に下りたトンボの追跡調査を実施した。この調査は、公益財団法人国際花と緑の博覧記念協会の助成を受けて実施された。

アンケート型調査は、5月から6月にかけて「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」、10月から12月にかけて「身近なシイノキのドングリをしらべてみよう」、12月から1月にかけて「みんなも着ている!?和服大調査」を実施した。その調査結果は、フィールドレポータースタッフにより「フィールドレポーターだより」年2回と「掲示板」年4回（通巻75-78号）として発行し、博物館ウェブサイトで公開している。また、琵琶湖博物館C展示室のフィールドレポーターのコーナーにおいて、「カタツムリ調査」の結果をパネルで展示した。5月24日（土）に実施したフィールドレポーター交流会では、「カタツムリ調査」、「小さい冬見つけた」を報告し、活発な質問や意見が出た。その後、次回調査テーマの「シイノキの学習会」を実施し、希望者を募って屋外展示で現地調査会を行った。9月6日（土）の琵琶湖博物館主催『びわ博フェスティバル』では、「オリジナル紙すき葉書を作ろう!」を実施した。

2014年度は、毎月第1,3土曜日（原則）の『定例会』等の活動を、計24回開催し、調査方法や内容について活発な議論があり、フィールドレポータースタッフとの連携により1年間の活動ができた。なお、登録者数は114名（2014年度）である。

フィールドレポーターの調査内容等一覧

内 容	実施期間	報告(件)
1) 第1回 「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」	5月～6月	62件
2) 第1回-II 「身近なシイノキのドングリをしらべてみよう」	10月～12月	76件
3) 第2回 「みんなも着ている!?和服大調査」	12月～1月	229件
4) 自由形調査(掲示板)	通年	通巻75～78号



フィールドレポーター交流会のようす

フィールドレポーター 活動の記録 (2014年度)

	月日	曜	内 容	
1	4月 5日	土	定例会	「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」調査の検討
2	4月 19日	土	定例会	「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」の調査票と「交流会の案内」の印刷・発送
3	5月 10日	土	定例会	「小さい冬」レポーター便り検討C展示室のポスター展示を「カタツムリ調査」に入れ替え
4	5月 24日	土	交流会	JICA 研修生と懇談会、 フィールドレポーター交流会
5	6月 7日	土	定例会	「小さい冬」レポーター便りの印刷・発送
6	6月 21日	土	定例会	掲示板 75 号の印刷・発送
7	7月 5日	土	定例会	アカアカネ調査の案内状の印刷・発送
8	7月 19日	土	定例会	アカアカネ調査の打ち合わせ シイノキ調査の中間報告の検討
9	8月 3日	日	調査会	アカアカネ調査
10	8月 23日	土	定例会	びわ博フェスティバル「オリジナル紙すき葉書を作ろう」の準備
11	9月 6日	土		びわ博フェスティバル「オリジナル紙すき葉書を作ろう」の本番
12	9月 20日	土	定例会	掲示板 76 号、アカアカネ調査の案内状の印刷・発送
13	10月 4日	土	調査会	アカアカネ調査
14	10月 18日	土	定例会	アカアカネ調査の反省会、冬の調査テーマの検討
15	11月 1日	土	定例会	冬の調査テーマの検討
16	11月 15日	土	定例会	「みんなも着ている！？和服大調査」の調査票の検討
17	12月 6日	土	定例会	「みんなも着ている！？和服大調査」の調査票の検討
18	12月 20日	土	定例会	掲示板 77 号、「みんなも着ている！？和服大調査」の調査票の印刷・発送
19	1月 10日	土	定例会	春の調査「タンポポ」の実施と担当者の決定。「和服調査」の集計
20	1月 24日	土	定例会	「タンポポ調査」の検討
21	2月 7日	土	定例会	「びわ博フェス」のオープンハウスのテーマの検討。
22	2月 21日	土	定例会	「タンポポ調査」の検討
23	3月 7日	土	定例会	「シイノキ調査」のレポーターだよりの検討
24	3月 21日	土	定例会	掲示板 78 号の印刷・発送、リニューアルの展示の業者デモ

## (2) はしかけ制度

「はしかけ制度」は、利用者が琵琶湖博物館の3つの理念に共感し、自らが主体的に博物館活動に参加するための登録制度として、2000年8月に発足し、様々な活動を通して博物館と地域との橋渡し役となっている。この制度では、博物館の事業・研究など様々な分野にかかわることができ、さらに新しい活動への発想や展開を図ることも可能である。

はじめて活動に参加するためには、はしかけ制度の概要と博物館の施設や業務を理解するための登録講座を受講し、加えてボランティア保険に加入する必要がある。会員の登録は、ボランティア保険への加入を条件に1年毎に更新し、新規参加者に対しては登録講座を実施している。今年度の登録講座は、5月11日(日)、10月19日(日)、3月15日(日)の3回実施し、それぞれ25名、14名、28名の新規登録者があり、2014年度末で344名の会員数となった。

各グループでは、それぞれのテーマに基づき企画・運営し、多岐にわたる活動を続けるとともに、多様な人びととの交流を深めている。このことは、琵琶湖博物館の中長期基本計画にある「地域だれでも・どこでも博物館」の実現への推進力として発揮されている。2014年度には、「近江昔くらし倶楽部」が解散する一方で、滋賀県の岩石調査を目的とした「大津の岩石調査隊」が新たに設立され、現在16のグループが博物

館を中心に県内各地で多岐にわたる活動を展開している。

2014年度には新たなはしかけ事業として、はしかけ登録者および新規登録者を対象に、屋外展示を活用した新たな交流イベントや環境整備等について博物館とともに考え、話し合い、実践していく場を設定することを目的とした「はしかけミーティング」を年6回実施し、のべ57人の参加があった。その中で、参加者各自の興味の確立や、現在のはしかけグループ活動にはおさまらない新たな参加者ニーズの模索、リニューアルへ向けた利用者参加制度の検討について、博物館と利用者が一緒になって進めていく場を創造することができた。また、「はしかけミーティング」の中で出された意見を基にした屋外展示の見どころマップを作成した。見どころマップは9月のびわ博フェスティバルで仮設置を行い、3月に見どころマップ看板の本設置と見どころ掲示板7カ所の設置を行った。

はしかけ活動を一般の方に広く発表する機会として、2014年9月6日～7日の「発見！びわ博フェスティバル！」に合わせて、「はしかけオープンハウス」を開催し、参加したグループ毎にこれまでの研究の成果や活動の紹介を行い、交流を深めることができた。

2012年度から発足した新琵琶湖博物館創造準備室より「C展示室および水族展示室リニューアル案」について、3月15日にはしかけ会員向けの説明会を開催し、展示や交流施設に対する意見とはしかけ活動をさらに充実させるための貴重な意見が出された。

#### 各グループの活動

##### 〇うおの会

会長：中尾博行 担当学芸員：松田征也 会員数：51名

[設立の趣旨] 「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来にのこそう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標をたて、お魚とりが大好きな人々が集まって、魚つかみを楽しみながら、共に調査を実施して記録を残し、身近な環境を見つめなおすことを目的にしている。2000年の発足から、お魚とりが大好きな皆さんに、博物館を利用した活動の場を提供しながら、調査によって得られた成果を活用し、身近な環境に棲息している魚たちの情報を21世紀初頭の記録として貴重な博物館資料とすることを目指している。

[活動の概要] 月1回の定例調査を琵琶湖流域の各地で開催するとともに、各会員が日常的に調査活動を実施している。今年度は、昨年度に引き続いてカネヒラ稚魚群の調査を琵琶湖全域の湖岸で実施した。昨年度は確認例が非常に少なかった南湖周辺を含め、各地でその姿を確認することができた。ただし南湖西岸では依然として確認できておらず、次年度以降の調査の課題となった。定例調査は原則として河川単位で実施しており、今年度は草津川、宇曾川、白鳥川、愛知川、蛇砂川、および余呉湖の周辺水路で実施し、さまざまな魚に出会うことができた。また会員の研鑽の場として、冬季に2回の勉強会を実施した。

調査活動のほかに、琵琶湖博物館行事への参加・協力をはじめとして、琵琶湖を戻す会、滋賀県みずすまし構想推進事業、琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会、琵琶湖お魚探検隊、湖北野鳥センター、羽島市立竹鼻中学校、草津市立渋川小学校、同志津南小学校、水資源機構等の各種団体による自然観察会や環境学習等への協力を行った。活動計画の立案や他団体への協力、調査活動の運営、活動上の諸課題の解決等は、12名の運営委員が中心となって行った。

##### 「うおの会」のおもな活動

活動日	内 容	参加者数
4月20日	第99回定例調査 草津川調査	17名
5月18日	第100回定例調査 カネヒラ浮上の一斉調査・南湖沿岸	13名
6月1日	第101回定例調査 カネヒラ浮上の一斉調査・北湖南部沿岸	18名
6月15日	第102回定例調査 カネヒラ浮上の一斉調査・北湖北部沿岸	20名
7月20日	第103回定例調査 余呉湖周辺水路	22名
8月23日	親睦会「湖魚を食して楽しもう」(長浜市「鮎茶屋かわせ」)	8名

活動日	内 容	参加者数
9月 6日	「発見！びわ博フェスティバル」に出展（お魚キーホルダーを作ろう）	14名
9月 21日	第104回定例調査 宇曾川調査	21名
10月 19日	第105回定例調査 白鳥川調査	12名
11月 16日	第106回定例調査 愛知川中流域調査	16名
12月 21日	第107回定例調査 蛇砂川調査	8名
1月 18日	勉強会『「泥ダメ調査」「カネヒラ調査」結果について』講師：琵琶湖博物館 水谷氏・松田氏、博物館水族展示バックヤード見学	28名
2月 15日	勉強会「2014年度まとめの会」	16名
3月 22日	総会	21名

（上記の他に運営会議を6回開催）

#### ○近江はたおり探検隊

運営・ホームページ担当：辻川智代 担当学芸員：林 竜馬 会員数：20名

[設立の趣旨] 2004年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要] 博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成18年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。

#### 「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月 9日	織姫の会	生活実験工房	9名
4月 26日	織姫の会	生活実験工房	4名
5月 17日	織姫の会	生活実験工房	9名
6月 4日	織姫の会	生活実験工房	4名
6月 21日	織姫の会	生活実験工房	10名
7月 3日	「丹後藤織り保存会30周年展」見学	京都市・法然院	7名
7月 5日	織姫の会	生活実験工房	7名
7月 23日	織姫の会	生活実験工房	6名
9月 7日	織姫の会（びわ博フェス：カード織）体験者：16名	生活実験工房	8名
9月 24日	織姫の会	生活実験工房	3名
10月 18日	織姫の会	生活実験工房	7名
10月 29日	織姫の会	生活実験工房	3名
11月 15日	織姫の会	生活実験工房	2名
11月 26日	織姫の会	生活実験工房	6名
12月 6日	織姫の会	生活実験工房	2名
12月 24日	織姫の会	生活実験工房	2名
1月 17日	織姫の会	生活実験工房	5名
1月 31日	織姫の会	生活実験工房	6名
2月 11日	織姫の会	生活実験工房	4名
3月 11日	織姫の会	生活実験工房	5名
3月 15日	「湖国の麻織物」見学	京都文化博物館	7名
3月 28日	織姫の会	生活実験工房	4名

○温故写新

連絡係：谷口雅之

担当学芸員：金尾滋史

会員数：28名

[設立の趣旨] 写真とカメラを愛し、撮影を楽しむことを主旨とする。生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様を記録し後世に伝える。時の流れと共に変化するこの世界の瞬間を切り取り、命や自然、人の営みを考察する一助とする。

[活動の概要] 今年度が活動10年目ということで「琵琶湖八景」や「滋賀の名所・風景」のをテーマとして、近江八幡や近江舞子、余呉湖など積極的に外へ出かけて撮影を行い、博物館で活用できる映像資料を増やしていった。また9月に開催された『発見！びわ博フェスティバル』のはしかけオープンハウスでは、「ありのままの八景写真展」を開催しメンバーの厳選した8点写真を展示した。このほか、これまで撮影してきた写真の整理と活用に向けた作業、博物館映像資料（大橋コレクション）の整理作業、当館や他館の博物館行事の写真記録係なども行い、それらを通じて他のグループ・機関との交流も進めることができた。いずれの活動も写真を通じて博物館活動に貢献できるようはじまったものであり、今後もはしかけ活動を通じてさらなる交流と展開を目指していきたい。なお、これまでの活動成果を紹介するため、温故写新のブログを開設した。 <http://onkosyashin.shiga-saku.net/>

「温故写新」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月 20日	あけぼのパーク多賀「写真で見る昭和の近江」関連座談会	あけぼのパーク多賀（犬上郡多賀町）	4名
4月 26日	近江八幡撮影会	近江八幡、西の湖	7名
5月 17日	近江舞子撮影会	近江舞子、白鬚神社	5名
6月 28日	発見！びわ博フェスティバル！での出展内容検討	会議室	6名
7月 19日	企画展示「魚米之郷」オープニング撮影など	博物館内	5名
8月 24日	発見！びわ博フェスティバル！の準備	会議室	6名
9月 6・7日	発見！びわ博フェスティバル！での展示、および館内撮影	博物館内	9名
10月 19日	下半期の活動計画	会議室	5名
11月 29日	三井寺・近江神宮撮影会	三井寺、近江神宮	6名
12月 20日	映像資料（大橋コレクション）整理作業	会議室	3名
1月 24日	写真の保存・整理方法について	会議室	7名
2月 21日	余呉湖撮影会	余呉湖	7名
3月 14日	2014年度総会	会議室	6名

■その他の活動

- ・博物館行事や他はしかけグループの活動における写真記録
- ・あけぼのパーク多賀ギャラリー展「大橋宇三郎・洋 親子の写真展 『写真で見る昭和の近江』」への展示協力および座談会でのパネラー
- ・博物館の行事チラシなどへの写真提供
- ・ブログの開設
- ・NHK おうみ発 610、取材への協力

○湖（こ）をつなぐ会

代表：中山法子

担当学芸員：林 竜馬

会員数：5名

[設立の趣旨] 「うた」を通じて、琵琶湖の文化的・社会的価値を再発見することをめざす。

[活動の概要] 子ども達に歌ってほしい琵琶湖の歌として生まれた「生きている琵琶湖」を広く知ってもらおう活動をしている。琵琶湖博物館に来館した小さな子ども達に「びわこの旅」の紙芝居を使いながら、琵琶

湖といきもの達との関わりを少しでも理解してもらえるように伝え、「生きている琵琶湖」がどこかで聞いたことがある歌だなと思ってもらえるようになればと活動をしている。

「湖（こ）をつなぐ会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
5月 11日	はしかけ登録講座	琵琶湖博物館セミナー室
6月 1日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
9月 6日	びわ博フェスティバル 紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館会議室
11月 9日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
2月 8日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム

○ザ！ディスカバはしかけ

担当：澤邊久美子、浦山重雄、森 智美、片淵綾香 会員数：10名

[設立の趣旨] 子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

[活動の概要] 2005年度にイラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修など個人から始まった活動は、2014年度からメンバー合同によるイベント企画が増え、活動の幅が広がりつつある。“ディスカバリールームをもっと楽しくする”目標は変わらず、新しいプログラムにも挑戦している。

2014年度は、はしかけオープンハウスで新しいプログラム「木の枝すりすり」を実施した。また、草津市おはなし研究会と図書室とのコラボで「はくぶつかんでおはなし会」を実施した。紙芝居やプログラムのスキル研修としてもよい交流の機会となった。2014年度は5名の新メンバーを迎え活動した。2015年度も新しいプログラムに挑戦し、ディスカバリー担当職員と連携し活動の幅を広げていく。

「ザ！ディスカバはしかけ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月 12日(土)	ディスカバ紙芝居☆「ゲンタのたんじょうものがたり」～春、土にもぐるホテルたち～	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
4月 19日(土)、26日(土)	飛び出せ☆フナのぼりカードを作ろう！ (イベント補助)	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
5月 11日(日)	はしかけ登録講座	琵琶湖博物館(セミナー室)
6月 9日(月)	第1回 ザ！ディスカバはしかけ 総会	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
6月 15日(日)11:30-12:00	ディスカバ紙芝居☆「ゲンタのたんじょうものがたり」	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
6月 15日(日)14:00-14:30	はくぶつかんで、おはなし会 (共催：草津市おはなし研究会、図書室)	琵琶湖博物館 (図書室)
9月 6日(土) 10:30-11:30 13:30-14:30	木の枝 すりすり(びわ博フェスティバルはしかけオープンハウス)	琵琶湖博物館 (生活実験工房)
9月 15日(月)	敬老の日☆おじいちゃん、おばあちゃんに感謝の気持ちを贈ろう(イベント補助)	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
11月 26日(水)	ジュズダマでお手玉を作ろう！の予行練習、準備	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
12月 7日(日) 1月 10日(土)	ジュズダマでお手玉をつくろう！	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
12月 28日(日)	はたきを作ろう！ (イベント補助)	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
2月 18日(水)	第2回 ザ！ディスカバはしかけ総会	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
3月 20日(金)	ザンビア衣装の修繕	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)

## ○里山の会

世話役:飯田俊宏、千田はる恵、寺尾尚純、前田博美、宮本直興、柳原徳子、山川栄樹、吉井 隆

担当学芸員:安福俊幸、楠岡 泰

会員数:36名

[設立の趣旨] 交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001年から活動している。里山体験教室のホスト役を通して、一般市民への里山理解を深める活動や現代における里山利用を実践している。

[活動の概要] 里山の会の主な活動である里山体験教室は、2006年度より野洲市大篠原の里山林を拠点として開催している。当初このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯アカマツが点在し、亜高木のソゴヤヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、数年にわたり、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をかくことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床には芽生えが確認されるようになった。このような雑木林と周辺の自然環境の中で、春の山菜料理、夏の昆虫・生物観察、秋色探し、冬の焚き火(伐採した木々を使い、火おこし術、花炭、焼き芋など里山の燃料を使った遊び)など四季いろいろの里山の恵みや利用を通して里山の価値を感じている。このフィールドを共に利用している他の団体から「はしかけの森」と呼ばれるようになり、活動地域での認知度も高まってきている。

また、琵琶湖博物館内で簡易ハンモック作り、そば栽培など里山関係の企画を提案し博物館活動に参加している。

### 「里山の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月 13日	里山体験教室(春)下見	野洲市大篠原はしかけの森
4月 20日	里山体験教室(春)本番「里山の春をみつけよう」	野洲市大篠原はしかけの森
4月 26日	山菜パーティー	琵琶湖博物館
7月 13日	里山体験教室(夏)下見	野洲市大篠原はしかけの森
7月 21日	里山体験教室(夏)本番「里山の夏を楽しもう」	野洲市大篠原はしかけの森
8月 2日	夏のイベント里山めぐり	日野町上駒月
8月 30日	ハンモック虫干し	琵琶湖博物館
9月 7日	ソバ種蒔き 発見!びわ博フェスティバル はしかけオープンハウス (簡単ハンモック)	琵琶湖博物館
9月 23日	ソバ畑手入れ	琵琶湖博物館
10月 12日	里山体験教室(秋)下見	野洲市大篠原はしかけの森
10月 19日	里山体験教室(秋)本番「里山の秋さがし」	野洲市大篠原はしかけの森
10月 25日	秋の里山観察会下見	甲賀市水口町
11月 8日	秋の里山観察会本番「秋の里山を歩こう」	甲賀市水口町
11月 21日	ソバ刈取り	琵琶湖博物館
11月 24日	里山めぐり	野洲市大篠原
12月 7日	ソバ脱穀、乾燥	琵琶湖博物館
12月 14日	ソバ収穫祭	琵琶湖博物館
1月 11日	里山体験教室(冬)下見	野洲市大篠原はしかけの森
1月 18日	里山体験教室(冬)本番「冬の里山を楽しもう」	野洲市大篠原はしかけの森
2月 22日	味噌仕込み・キノコ菌打ち	琵琶湖博物館
3月 7日	里山の会総会	琵琶湖博物館

## ○植物観察の会

代表者:不在

担当学芸員:芦谷美奈子

講師:布谷知夫

会員数:名簿なし

[設立の趣旨] 2004年度に行った企画展示「のびる・ひらく・ひろがる」の準備中に、企画展の趣旨に沿って、植物の情報を収集し、植物を好きになる人を増やすのを目標に設立した。会として名簿を作成しておらず、はしかけ登録者であれば誰でも観察会に参加していただけるようにしており、専門知識がなくても

楽しく植物について学ぶことができる場と位置付けている。

[活動の概要] ニュースレターの発行に合わせて、野外での植物観察会を継続してきた。博物館での主催行事とは異なり、集合場所と解散場所を決めるだけで、かなり気ままに里山を歩き、目についた植物について観察をするという形式で行った。この形式は、初心者でも参加しやすく、植物の名前だけでなく本当の面白さを知ってもらおうという講師の考えによるものであったが、講師の布谷知夫さんの今後の関わり方も含め、運営方法を新しくすることを年度最後の観察会の際に参加者で話し合った。2015年度からは、これまでの複数回観察会に参加してきたメンバーを中心に、新しいやり方を検討することとなった。

「植物観察の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
5月 18日	観察会	沙沙貴神社ほか (近江八幡市)	10名
9月 21日	観察会	船岡山 (近江八幡市)	10名
11月 30日	観察会	近江神宮 (京都市)	11名
3月 15日	観察会	十二坊 (岩根) 山 (湖南市)	7名

○たんさいぼうの会

会長：有田重彦 会長補佐：中井大介 担当学芸員：大塚泰介 会員数：21名

[設立の趣旨] 珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

[活動の概要] 2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう (単細胞) の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に寄贈される。

2014年度は、共同研究の成果が学術論文になった。会員による学会等での研究成果の公表も多数行われた。(下線はたんさいぼうの会会員、二重下線はたんさいぼうの会会員名義での発表)。

大塚泰介・有田重彦・白川勝信 (2015) 八幡湿原の水質と珪藻. 高原の自然史, 15, 北広島町教育委員会・高原の自然館: 1-11.

山本真里子・大塚泰介・上野振一郎・杉谷健一郎 (2014年4月26日) 干潟堆積物中の形態別リン分布に対する珪藻の寄与. 日本珪藻学会第35回大会, 日本珪藻学会, 名古屋大学 (名古屋市), [ポスター発表].

富小由紀・大塚泰介・堂満華子・林 竜馬・里口保文・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトメンバー (2014年11月8日) 滋賀県多賀町四手の古琵琶湖層群から産出した珪藻化石. 日本珪藻学会第34回研究集会, 日本珪藻学会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

三村武士・大塚泰介 (2014年11月8日) 山室湿原 (滋賀県米原市) の珪藻. 日本珪藻学会第34回研究集会, 日本珪藻学会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

木原靖郎・石井千津・津田久美子・石角江里佳・大塚泰介 (2014年11月8日) 中池見湿地 (福井県敦賀市) の珪藻. 日本珪藻学会第34回研究集会, 日本珪藻学会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

有田重彦・大塚泰介 (2014年11月8日) Naviculoid 珪藻の条線の傾斜角分布について. 日本珪藻学会第34回研究集会, 日本珪藻学会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

富小由紀・大塚泰介・堂満華子・林 竜馬・里口保文・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトメンバー (2015年2月8日) 古琵琶湖層群蒲生層から得られた珪藻化石. 第30回地学研究発表会, 地学研究会・滋賀大学, 滋賀大学大津サテライトプラザ (滋賀県大津市), [口頭発表].

富小由紀・大塚泰介・堂満華子・林 竜馬・里口保文・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト (2015年2月28日) 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト第一次発掘調査で得られた珪藻化石. 平成26年度多賀町立博物館研究発表会, 多賀町立博物館, 多賀町立博物館 (滋賀県), [口頭発表].

石角江里佳・大塚泰介・打越崇子・木原靖郎 (2015年3月1日) 福井県中池見湿地における珪藻群集と水環

境に関する研究。地域自然史と保全研究発表会－関西自然保護機構 2015 年度大会－，関西自然保護機構，大阪市立自然史博物館（大阪市東住吉区），[ポスター発表]。

上記以外にも、油日湿原（滋賀県甲賀市）、愛知県の鈹質土壌湿地群、藤前干潟（名古屋市）などの珪藻植生を研究し、一定の結果を得つつある。

琵琶湖博物館で開催された日本珪藻学会第 34 回研究集会の運営に協力した。また、珪藻入門講座「はじめてのたんさいぼう」を主催した。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者	参加者数
4 月 12 日	たんさいぼうの会第 41 回総会・花見	近江富士花緑公園	津田久美子	9 名
5 月 5 日	たんさいぼうの小さな旅 XV-1 藤前干潟	藤前干潟	大塚泰介	7 名
5 月 31 日	たんさいぼうの小さな旅 XV-2 藤前干潟	藤前干潟	大塚泰介	3 名
7 月 21 日	たんさいぼうの会第 42 回総会	琵琶湖博物館	富 小由紀	11 名
7 月 22 日	セヤノコきつず 2014 夏に協力 講義：斎藤慎量	京都府宮津市上世屋	人見勅輔	
9 月 6 日	たんさいぼうの小さな旅 XVI 瀬田公園	瀬田公園	大塚泰介	8 名
10 月 2 日	たんさいぼうの会第 43 回総会	琵琶湖博物館	有田重彦	5 名
11 月 8・9 日	日本珪藻学会第 34 回研究集会（協力・発表）	琵琶湖博物館	発表： 木原靖郎ら 4 題 7 名	
1 月 12 日	たんさいぼうの会第 40 回総会・新年会	琵琶湖博物館	木原靖郎	11 名
1 月 24 日	珪藻入門講座 はじめてのたんさいぼう	琵琶湖博物館	大塚泰介	14 名
1 月 24 日	珪藻入門講座 はじめてのたんさいぼう	琵琶湖博物館	大塚泰介	14 名

○田んぼの生き物調査グループ

担当学芸員：楠岡 泰、マーク J. グライガー

会員数 20 名

[設立の趣旨] 滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、その生物の分布や生態を調査する。

[活動の概要] 当グループは、フィールドレポーターが行った田んぼの生き物調査に興味をもった有志で当初結成された。水田に生息する生物、特に大型鰓脚類（カブトエビやホウネンエビ、カイエビなど）の分布および生活史を明らかにすることが現在の研究テーマである。大型鰓脚類の出現状況を県内各地の水田で調べ、分布マップを作成するとともに、分布の違いを生み出す要因を明らかにするため、水温や水質、冬期の土壌水分量などのデータの比較を行っている。また、はしかけそれぞれが自分のペースで自宅近くの定点観察および広域分布調査も行っている。

2014 年夏の第 1 回エビ類合同広域調査は甲賀東部、蒲生、東近江、多賀周辺で実施し、第 2 回は甲賀北部、蒲生、東近江、彦根北部で実施した。興味深いことに、以前の調査で大型鰓脚類が全く見つからなかった地点からも今年度は見付き、分布の拡大傾向が示された。滋賀県で分布の拡大が心配されているアジアカブトエビの調査を大津市瀬田周辺で毎年実施しているが、田んぼの宅地化により出現水田は減少した。

「田んぼの生き物調査グループ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4 月 13 日	総会および、エビ類の見分け方、見つけ方の研修	琵琶湖博物館	11 名
5 月 31 日	第 1 回合同広域調査	甲賀東部、蒲生、東近江、多賀周辺	14 名
6 月 7 日	第 2 回合同広域調査	甲賀北部、蒲生、東近江、彦根北	10 名
6 月 14 日	瀬田地域カブトエビ調査	大津市瀬田周辺	9 名

活動日	内 容	場 所	参加者数
8月10日	第1回2014年調査採集試料同定会	琵琶湖博物館	9名
9月13日	第2回2014年調査採集試料同定会 個別活動の報告	琵琶湖博物館	10名
11月22日	秋の実験の報告と冬期の実験についての検討	琵琶湖博物館	11名
3月28日	総会：1年のまとめおよび孵化実験の結果報告	琵琶湖博物館	12名
通 年	田んぼの生き物調査	滋賀県周辺	それぞれが随
12月～2月	冬季田んぼの状態調査	滋賀県周辺	それぞれが随

## 〇びわたん

担当学芸員：蜂屋正雄・間所忠昌 会員数：21名

[設立の趣旨] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。

[活動の概要] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業は第2土曜日の午後に行われており、来館者に滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対する興味・関心を深めてもらうことをねらいとしている。「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラムの開発や事業当日の参加者との交流などに主体的に関わっている。また、それぞれの興味・関心に応じて、他の博物館や学校、地域に出かけて体験学習を行うほか、スキルアップのための自己研修も行っている。今年度も、他のはしかけグループに「わくわく探検隊」への協力を要請し、結果として、3つのグループに「わくわく探検隊」の運営協力をいただいた。また、「発見！琵琶湖フェスティバル」イベントでの読みきかせと、「自然調査ゼミナール」でのワークショップに力点を置いて活動を展開した。

### 「びわたん」のおもな活動

#### 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（館内）

活動日	内 容	担 当
4月12日	春の草花でしおりをつくろう（緑のくすり箱と共催）	企画・運営・実施
5月10日	タンポポ調査にチャレンジしよう（タンポポ調査はしかけと共催）	企画・運営・実施
6月14日	魚の解剖にチャレンジしよう	企画・運営・実施
7月12日	ほねにふれよう（ほねほねくらぶと共催）	企画・運営・実施
8月9日	日光写真でアート～水草編～	企画・運営・実施
9月13日	葉っぱ模様の手ぬぐいづくり	企画・運営・実施
10月11日	葉っぱ模様の手ぬぐいづくり	企画・運営・実施
11月8日	秋の色でビンゴ	企画・運営・実施
12月13日	水鳥を観察しよう～色とりどりの冬鳥たち～	企画・運営・実施
1月10日	博物館でスゴロクをつくろう =め～ろみ～たいなC展示2015=	企画・運営・実施
1月17日	博物館でスゴロクをつくろう =め～ろみ～たいなC展示2015=	企画・運営・実施
2月14日	化石のレプリカづくり	企画・運営・実施
3月14日	火起こしで昔の暮らしを考えよう	企画・運営・実施

#### 館外での行事・博物館行事（わくわく探検隊以外）

活動日	内 容	場 所	担 当
4月6日	ルシオール ヨシの一本笛づくり	立命館守山	企画・運営・実施
5月11日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	実施
7月19日	プランクトン de アート	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
8月5日	自然調査ゼミナール「水草で青写真」	琵琶湖博物館	企画・運営・実施

活動日	内 容	場 所	担 当
9月 6日	はしかけオープンハウス 「びわたんと絵本で楽しもう♪」	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
10月 19日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	実施
3月 15日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	実施

○ほねほねくらぶ

会長：西村 有巧                      副会長：榎本、納屋内              広報担当：宇野                      担当学芸員：高橋 啓一  
 会員数：大人 20 名   子ども 3 名   計 23 名

[設立の趣旨] 現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

[活動の概要] 2002年7月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれる哺乳類をはじめ鳥類や魚類などなど、さまざまな生き物の骨格標本を作っている。毎月1~2回の例会が活動の中心である。2014年度前半期は、前年度3月25日から開催中であったギャラリー展「ボーンコレクターズ〜骨に魅せられて〜」が5月18日まで引き続き開催され、期間中には来館者との交流活動を行ったり、ギャラリー展関連でメディアの取材を受けたりと、普段とは違う活動を行う機会が多くあり、良い経験になった。後半期では、ギャラリー展をきっかけとして新たにほねほねくらぶに興味を持ってくださった方々が活動に参加して下さるようになり、新たな活気となった。

その他の活動としては、9月に琵琶湖博物館で開催された、はしかけオープンハウスにおいて”骨のワンダーランド”と題して来館者と骨を通じての交流活動や標本展示を行った。10月には大阪自然史博物館において開催されたホネホネサミット2014にポスター展示で参加した。

また、滋賀民報社で1月から来年度6月まで全6回でコラムを掲載する。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月例会	6日 カメの組立、レプリカ制作、 ギャラリー展来館者との交流活動	琵琶湖博物館 企画展示室
	19日 カワウの解剖、冷凍試料の整理、	琵琶湖博物館
	20日 ギャラリー展来館者との交流活動	琵琶湖博物館
	29日 ギャラリー展来館者との交流活動	琵琶湖博物館 企画展示室
5月例会	6日 ギャラリー展来館者との交流活動、大阪自然史博物館の骨格標本制作 クラブである、なにわホネホネ団の方たちと交流	琵琶湖博物館 企画展示室
	10日 クマの解剖、レプリカ制作	琵琶湖博物館
	11日 はしかけ登録会での活動紹介	
	25日 ギャラリー展の撤収作業	
	31日 ギャラリー展の撤収作業	
6月例会	7日 クマの除肉、カヤネズミの皮剥ぎ、レプリカ製作	琵琶湖博物館
	28日 タヌキの解剖、イノシシの除肉、ギャラリー展で使用した標本の整理	
7月例会	12日 びわたん（はしかけ）のわくわく探検隊のプログラム“ほねに触れよう”の開催に協力	琵琶湖博物館
	27日 キツネの解剖、サルの除肉、標本の整理	
8月例会	17日 サルの除肉、ツバメの解剖、ピラルク・イタチの骨の洗浄	琵琶湖博物館
9月例会	6日 びわ博フェスティバル（はしかけオープンハウス2014）に参加	琵琶湖博物館
	7日 プログラム：骨のワンダーランドを開催	
	14日 標本資料の整理	
	28日 キツネの除肉、リスザルの解剖、標本資料の整理	

活動日	内 容	場 所	
10月例会	11日 12日 13日	大阪自然史博物館において開催されたホネホネサミット2014にポスター展示で参加	大阪自然史博物館
	19日	イノシシ、カワウ、シカ、アライグマの骨洗浄、ツバメの骨の組み立て。はしかけ登録会での活動紹介	琵琶湖博物館
	25日	タヌキの骨の組み立て、リスザルの解剖	
11月例会	8日	シカの骨の組み立て、キツネ、リスザルの解剖	琵琶湖博物館
	29日	キツネの骨の洗浄、タヌキの骨の洗浄、レプリカ制作	
12月例会	7日	タヌキの骨の整理、キツネの骨の整理、レプリカ制作	琵琶湖博物館
	14日	博物館で開催されていた「淡海こどもエコクラブ活動交流会」の参加者の方向けのプログラムへの協力	
1月例会	18日	リスザルの除肉、ヒツジの骨洗浄	琵琶湖博物館
	31日	リスザルの除肉、標本の整理（アカミミガメ、ヒツジ、キツネなど）	
2月例会	15日	シカ、イノシシ、カワウの洗浄、豚足の標本作り、ヤモリの解剖	琵琶湖博物館
	21日	シカの足の除肉、標本の整理（アカミミガメ、ヒツジなど）、豚足の標本作り	
3月例会	7日	シカの四肢の解剖、イノシシの頭、シカ、イノシシの脱脂、標本の整理（ワニガメなど）	琵琶湖博物館
	15日	レプリカの作成、サル、イノシシ、クマの洗浄、標本整理 はしかけ登録会での活動紹介	

○緑のくすり箱

世話役：長澤京子

担当学芸員：大久保実香

会員数：18名

[設立の趣旨] 薬用植物に興味を持ったアロマセラピスト8名で設立したグループである。メンバーが18名に増え、薬用植物だけに限らず、身の回りにある植物を健康生活に生かそうと、普段の生活に使える利用法を実践しながら、研究している。

[活動の概要] 今年度は「身近にある薬草の利用法」をテーマに、実践と情報交換を行った。担当学芸員が代わり、グループの活動もメンバーひとりひとりが何か役割を担当するという方式に変更した。イベント毎に担当者を決めて、材料の準備から、はしかけニューズレターの原稿作成までを責任をもって行うこととした。会計も設け、会費ひとり1,000円を徴収して、材料費などに充てた。また、連絡係を作り、活動1週間前にメールでの一斉連絡をしたことにより、参加率がアップした。

「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月12日(土)	新年度年間活動計画立案(午前) わくわく探検隊「春の草花でしおりをつくろう」お手伝い(午後)	琵琶湖博物館実習室2	14名
5月4日(日)	米原市ジョイいぶき「薬草フェスタ」参加 ハーブティーと虫よけスプレー作り	米原市ジョイいぶき	8名
6月21日(土)	定例会とドクダミのチンキ作り	琵琶湖博物館実習室2	14名
8月31日(日)	定例会とびわ博フェスティバルの準備 (アロマ・リフレクソロジーの練習)	琵琶湖博物館実習室2	12名
9月7日(日)	びわ博フェスティバル ハンモックでリフレクソロジー	琵琶湖博物館 屋外展示太古の森	14名
10月25日(土)	カモミールの種まき	琵琶湖博物館 生活実験工房	9名
11月9日(日)	米原市環境フォーラム参加 (アロマ・ハンドマッサージ)	米原市ジョイいぶき	6名
12月14日(日)	どんぐりコーヒー作り	琵琶湖博物館実習室2	12名

活動日	内 容	場 所	参加者数
1月 4日(日)	七草粥と廃油せっけん作り	琵琶湖博物館実習室2	12名
2月 14日(土)	緑のくすり箱メンバーでもある交流員さんとまわる琵琶湖博物館の展示見学	琵琶湖博物館 (水族以外の展示室)	10名

#### ○古琵琶湖発掘調査隊

会長：木本裕也                      事務局長：安原 輝                      担当学芸員：高橋啓一                      会員数：24名

[設立の趣旨] 多賀町四手で計画されている180万年前の古琵琶湖層群調査において、市民参加の参加者を指導し、自らも研究できるような人材になることを活動の目的とする。

[活動の概要] 活動頻度は1~2ヶ月に1回程度で、様々な分野の専門的講義や現場で発掘を行う。2013年1月から活動を開始している。2014年度は以下のような勉強会、実習を行った。

#### 「古琵琶湖発掘調査隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月 6日	多賀町四手第2次発掘調査に向けて話し合い	多賀町立博物館
4月 26日~5月 1日	多賀町四手第2次発掘調査	多賀町四手
6月 15日	第2次発掘調査で取れた化石のクリーニング	多賀町立博物館
7月 5日	安曇川での植物化石発掘、勉強会(山川千代美:琵琶湖博物館)	滋賀県安曇川
8月 9日	第2次発掘調査報告会	多賀町立博物館
8月 24日	服部川での化石発掘	三重県服部川
11月 2日	第2次発掘調査で取れた化石のクリーニング	多賀町立博物館
2月 1日	2015年度の活動計画について話し合い	琵琶湖博物館
2月 22日	服部川での化石発掘	三重県服部川
3月 14日~4月 12日	多賀町四手第3次発掘調査	多賀町四手

#### ○暮らしをつづる会

代表：中尾京子                      担当学芸員：大久保実香                      会員数：1名

[設立の趣旨] 地域の生活のあり方を学びながら、地域の生活誌を記録に残し、伝えていくことを目指している。

[活動の概要] 2014年度は、4月に2013年度からお話を伺っている長浜市余呉町小原地区での暮らしについての聞き書きの記録をまとめた。5月からは近江八幡市安土町の西の湖畔にお住まいで漁業や農業をしておられた男性の方に、大中の湖等の内湖が埋め立てられる前の暮らしについて、お話を伺った。9月からは近江八幡市白王町側の西の湖畔にお住まいで、農業や小売業などをされていた女性にお話を伺った。二人のお話を伺って、安土町側の西の湖畔の暮らしは、弁天内湖から、大中の湖(中の海と呼ばれていた)、琵琶湖(外の海)といくつもの内湖をこえて琵琶湖(外の海)に出ておられた暮らしぶり、近江八幡南西部の津田内湖から能登川町伊庭内湖までの七町海と呼ばれる動線(津田内湖から伊庭内湖まで七町あると言われていたなど)、いくつもの内湖を行き来されていた暮らしぶりを知ることができた。また、近江八幡白王町の女性からは、西の湖の中にあってもどこにも陸続きでない、権座と呼ばれる耕作地での農業についてや、近江八幡市内での行商の様子などお聞きした。この両地区では当時は自転車では野洲から八日市市までくらいは普通に移動されており、また、舟に乗って内湖や琵琶湖への移動(女性は近くの田んぼまでの移動)など、現在とは異なった生活の様子についてお話をまとめることができた。2015年3月からは、草津市南山田地区のお二人の世代の異なる(94歳、85歳)女性にお話を伺った。南山田の辺りでは、舟は大津への運送手段が主な利用方法であった。子供の頃の暮らしの様子をいきいきと語ってくださり、また室戸台風で山田小学校が倒壊した時の話など、貴重なお話を聞くことができた。

「暮らしをつづる会」のおもな活動

活動日	内 容
4月 21日	余呉町でお話を伺う
4月 23日	近江八幡市史編さん室に資料について相談に伺う
4月 27日	近江八幡市安土町でお話を伺う
7月 21日	博物館で打ち合わせ
7月 26日	近江八幡市安土町でお話を伺う
9月 6日	近江八幡市白玉町でお話を伺う
10月 28日	博物館で打ち合わせ
11月 12日	甲賀市多羅尾町で聞き書きについて甲賀社協の方と打ち合わせ
1月 24日	博物館で打ち合わせ
3月 8日	草津市南山田でお話を伺う
3月 15日	博物館で打ち合わせ

○タンポポ調査はしかけ

代表者：不在 担当学芸員：芦谷美奈子 会員数：10名

[設立の趣旨] 「タンポポ調査・西日本2015」の実施に合わせて、2014年1月～2016年3月の期間限定で設立されたグループである。2014年3月～5月、2015年3月～5月のタンポポ調査について、調査、データ整理などを補助的に行い、タンポポについて学ぶことを目的に設立された。

[活動の概要] 2014年3月から予備調査が始まり、滋賀県のタンポポの開花の時期に合わせて説明会や勉強会を開催した。4月13日には、鈴木武さん（兵庫県立人と自然の博物館）に来ていただいて調査説明会。4月26日は、同じく鈴木武さんに琵琶湖博物館主催の観察会の講師に来ていただいたが、同日午前中にキビシロタンポポ自生地にてメンバーだけの勉強会を開催した。5月10日の「わくたん」では、「びわたん」と一緒にタンポポのドライフラワー作りの際の観察を手伝った。5月末日に予備調査が終了し、その後はしばらくグループとしての活動がなかったが、2015年の調査が3月1日から始まったので、合わせて3月22日に調査説明会も開催した。2015年は、本調査（5月末まで）に関連したイベントや現地調査を行い、データの整理や取りまとめなどをする予定である。

「タンポポ調査はしかけ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月 13日(日)	タンポポ調査説明会	琵琶湖博物館	7名
4月 26日(土)	現地勉強会	キビシロタンポポ生育地（甲賀市甲賀町）	5名
4月 26日(日)	館主催観察会補助	琵琶湖博物館	6名
5月 10日(土)	わくわく探検隊	琵琶湖博物館	2名
3月 1日(土)	説明会・研修会	大阪市立自然史博物館（大阪府大阪市）	2名
3月 22日(土)	タンポポ調査説明会	琵琶湖博物館	4名

○大津の岩石調査隊

代表者：梅澤正夫 担当学芸員：里口保文 会員数：6名

[設立の趣旨] 市街地から近い音羽山の地域を中心に歩いて、ハイキングするような心持ちで、地域の岩石など地質の勉強をしながら調査を行なっていきたい。とりあえずは2～3年間やってみよう。

[活動の概要] 2014年6月に発足し、はじめの活動は1名だけだったが、11月には数名ではじめての調査を音羽山麓付近で行った。調査には、担当学芸員や中野特別研究員になるべく同行してもらって、野外での岩石の見方などを教えてもらいながら一緒に行った。冬季は博物館で岩石薄片作成の実習などを行った。今後もできるだけ気楽にみんなが参加できるような野外の調査を行っていく予定。

「大津の岩石調査隊はしかけ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
9月 24日 (水)	今後の活動についての打ち合わせ	琵琶湖博物館	2名
11月 3日 (月)	相模川上流域の岩石調査	大津市・相模川上流	3名
11月 9日 (日)	今後の活動についての打ち合わせ	琵琶湖博物館	2名
12月 10日 (水)	次回調査の打ち合わせ	琵琶湖博物館	2名
12月 14日 (日)	吾妻川流域～音羽山山頂の岩石調査	大津市・吾妻川上流	2名
2月 12日 (木)	岩石薄片作成実習	琵琶湖博物館	4名
2月 25日 (水)	岩石薄片作成実習	琵琶湖博物館	3名
3月 18日 (水)	岩石薄片作成実習	琵琶湖博物館	2名

## 地域交流活動への支援

### 地域連携

地域連携は、中長期基本計画の目標である「地域だれでも・どこでも博物館」の実現を目指し、地域や企業、大学などと連携し、講義を通して博物館における展示や研究の魅力を利用者に伝える手法であり、地域における自主的な人づくりとなる活動の支援を行うものである。具体的には、学芸員の専門性を活かした展示に関する興味深い内容の講義や博物館の利用者に対するスキルアップを目指した研修・講演および観察会を行い、参加型の利用者ニーズに応えた博物館づくりを目指している。2014年度は、館内48件、参加者1,883名となり、館外では64件、参加者3,240名の活動実績となった。

### (1) 博物館内での支援活動

月	日	曜日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
4	30	水	京都大学 農学部 農学研究科	外来魚について講義、実習	山本	11
6	7	土	若鮎保育園	収穫、昔の暮らし、食体験	池田	65
6	8	日	関西大学 博物館	琵琶湖博設立の経緯、展示のコンセプト	松田	45
6	11	水	龍谷大学 経済学部	琵琶湖と人びとの暮らし	大久保	30
6	15	日	京都女子大学 文学部	学芸員の心構えと実際の職務	橋本	22
6	15	日	関西文化協会 撮友会 青年部	琵琶湖に関する食と歴史について (琵琶湖の恵みを活かした料理)	橋本	55
6	18	水	サロン七光	琵琶湖の魚とフナずしについて	山本	16
6	22	日	ボースカウト湖南第1団カブスカウト隊	琵琶湖の外来魚の生態	桑原	20
6	29	日	近畿大学 農学部 水産学科	外来魚、プランクトン実習	山本	36
7	1	火	おうみ佐保塾	琵琶湖のフナとフナずし	橋本	46
7	5	土	東近江市宮川町環境保全協議会	魚に関するいろいろ	金尾	30
7	22	火	滋賀県水産課	琵琶湖の魚貝類全般	山本	20
7	23	水	滋賀県水産課	琵琶湖の魚貝類全般	山本	20
7	23	水	日本暑期修学団	企画展の解説	楊	22
7	24	木	龍谷大学 経済学部	滋賀県の農業・環境の現状	大久保	6
7	26	土	ニッセイ森の探検隊	森の生きもの観察、マキ作り体験	松田他	38
7	28	月	コクヨ工業滋賀	ヨシ原にすむ生きものたち	澤邊	100
7	29	火	政策研修センター	企画展の説明	楊	100
7	30	水	滋賀県ミュージアム活性化推進委員会	水族バックヤード見学	松田	50

月	日	曜日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者
8	8	金	ユネスコ・アジア文化センター	文化的景観の保全とその実際	橋本	4
8	19	火	琵琶湖環境部自然環境保全課	琵琶湖の恵みについて	金尾	80
8	21	木	伊川を愛する会	琵琶湖の魚について	松田	30
9	23	火	京都府立大学 生命環境学部	プランクトンについて	大塚	10
9	27	土	草津市観光ボランティアガイド協会	琵琶湖博物館の活動内容	松田	20
10	16	木	滋賀県立大学環境科学部	企画展説明、学芸員の業務内容	楊	47
10	17	金	日中協会	環境、博物館、企画展について	楊	27
10	28	火	(株)旅えのぐ	博物館の概要と琵琶湖の成り立ち	里口	70
10	30	木	たかつき市民環境大学	琵琶湖の歴史、水辺の生活	用田	50
11	1	土	国際ロータリークラブ	琵琶湖とさかな	桑原	160
11	7	金	京都府立大学	化石のレプリカ作り、館内見学	林	7
11	9	日	天理市立井戸堂公民館	琵琶湖について	浦山	20
11	12	水	岐阜県漁連	アユなどの魚病の発生状況	山本	40
11	16	日	NPO 自然と緑 自然大学	館周辺、湖畔の生態系観察 プランクトン観察	林・ 楠岡	70
11	19	水	NHK 学園通信講座センター	琵琶湖の生物について 琵琶湖の水生植物について	藤岡 芦谷	30
11	20	木	大阪産業大学 人間環境学部	湖の環境と人々の暮らし	水谷	16
11	27	木	全国保育所理事長・所長研修会	むらの不思議なおまつり	渡部	38
12	12	金	千種地区公民館	暮らしの移り変わりについて	大久保	37
12	14	日	びおっこの会	ビオトープのカヤネズミ	澤邊	30
1	5	月	TANAKAMI こども環境クラブ	カヤネズミについて	澤邊	15
2	1	日	大宝西学区地域振興協議会	ヨシの話、ヨシ笛作り	芦谷	15
2	1	日	大阪市立自然史博物館	水族バックヤード見学	金尾	20
2	3	火	せた森のようちえん	カマド、石臼体験、餅つき	水谷	30
2	27	金	伊丹市保険衛生推進連合会	生活の変化と水利用	蜂屋	29
2	28	土	高知工科大学	池蝶貝、二枚貝研究交流セミナー	松田	10
3	4	水	福島県相双農林事務所	農耕先進地区として	水谷	3
3	12	木	八幡市さくら55福祉委員会	環境と私たちの暮らし	大久保	30
3	12	木	ライオンズクラブ国際協会	魚の話、農業の話	館長	200
3	14	日	パナソニック	身近な環境から考える	浦山	13
						1,883名

## (2) 地域での支援活動

月	日	曜日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当	参加者数
4	2	水	昔くらし倶楽部	地球暦お話し会	中藤	
4	6	日	ルシオルアートキッズフェスティバル	ヨシ笛作り	蜂屋	109
4	7	月	昔くらし倶楽部	地球暦お話し会	中藤	
4	8	火	立命館環境都市デザイン学科	琵琶湖沿岸の集落史と特徴	橋本	11
4	9	水	県庁農村振興課	魚のゆりかご水田について	水谷	11
4	12	土	TANAKAMI こども環境クラブ	田上天神川の生き物さがし	柘永	15
4	14	月	昔くらし倶楽部	地球暦お話し会	中藤	
5	10	土	野洲市須原魚のゆりかご水田協議会	生きもの・魚のゆりかご講座	水谷	50

月	日	曜日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当	参加者数
5	15	金	レイカディア大学	外来魚駆除における知識	山本	132
5	17	土	ホテルの学校	水生昆虫の採取、観察、同定	柘永	23
5	27	火	琵琶湖政策課	琵琶湖の水質と現状	藤岡	25
5	31	土	常世川再生の会	川の生きもの観察会	桑原	15
6	7	土	滋賀県農村振興課	魚のゆりかご水田観察会	水谷	50
6	8	日	高島農業農村振興事務所	自然観察会	金尾	100
6	8	日	ホテルの学校	千丈川の水生昆虫観察会	柘永	150
6	8	日	米原市ビワマス倶楽部	ビワマス観察、ミニ講座	桑原	20
6	14	土	彦根市生活環境課	魚の生態と環境	藤岡	30
6	14	土	竹町のしぜんを守る会	田んぼの生き物観察会	水谷	20
6	15	日	栗見出在家魚のゆりかご水田協議	田んぼの生き物観察会	大塚	125
6	19	火	エコスクール支援委員会	エコスクール活動支援、環境リ ーディング事業について	松田	15
6	21	土	須原魚のゆりかご水田協議会	田んぼの生きもの観察会	金尾 水谷	200
6	22	日	里環境の会 OPU	環境職業座談会	澤邊	50
7	1	火	小佐治環境保全部会	水田生き物調査	水谷	24
7	5	土	湖北地域みずすまし推進協議会	生き物観察会	水谷	180
7	9	水	琵琶湖環境部 環境政策課	中世におけるフナと人 外来魚のひみつ(解剖)	橋本 山本	74
7	14	月	滋賀県文化振興事業団	琵琶湖の環境と生物	松田	80
7	17	木	長浜バイオ大学	学芸員になるためには	松田	150
7	17	木	NPO 法人シニア自然大学	淡水魚の分類と生態	桑原	49
7	20	日	守山市勝部自治会	魚捕りの際の魚の記録について	金尾	235
7	22	火	セヤノコ	ジュル田の生き物調査	大塚	15
7	22	火	NPO 法人シニア自然大学	淡水魚の分類と生態	桑原	46
7	27	日	パシフィックコンサルタンツ(株)	自然観察会	澤邊	15
7	28	月	琵琶湖環境部 環境政策課	移動展示キット解説、水質、外 来魚、中世における琵琶湖	橋本 浦山 間所 山本	140
7	29	火	玉川学区まちづくり協議会	昆虫環境学習会	間所	60
7	30	水	玉川学区まちづくり協議会	昆虫環境学習会	間所	60
7	31	木	NPO 法人シニア自然大学	淡水魚の分類と生態	桑原	33
8	4	月	NPO 法人シニア自然大学	淡水魚の分類と生態	桑原	49
8	4	月	下之郷史跡公園	魚つかみと観察	松田	30
8	5	火	快適環境づくりをすすめる会	川の生き物観察会	金尾	30
8	7	木	NPO 法人シニア自然大学	淡水魚の分類と生態	桑原	33
8	12	火	滋賀県農村振興課	豊かな生き物を育む水田懇話会	水谷	23
8	17	日	日本国際民間協力会(NICCO)	生き物観察会	大塚	20
8	20	水	ラムサールセンター	滋賀・琵琶湖の文化、生き物	池田	18
8	21	木	NPO 法人シニア自然大学	淡水魚の分類と生態	桑原	46
8	24	日	有限会社 MATIUS-8	琵琶湖とフナとフナずしと	橋本	19
8	25	月	下之郷史跡公園	魚つかみと観察	松田	30
8	26	火	小佐治環境保全部会	田んぼの生き物観察会	水谷	35
8	26	火	びわ湖の水と環境を守る会	赤野井湾エコストーン復活	大塚	10

月	日	曜日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当	参加者数
9	27	土	日本生命 CSR 推進室	瀬田川植物観察	草加	43
10	4	土	コープしが 西地区	千丈川の昆虫観察	柘永	20
10	16	木	守山琵琶湖ヨシ笛アンサンブル	葦原に自生するカヤネズミ	澤邊	17
10	24	金	びわ湖の水と環境を守る会	赤野井湾に魚は復活するのか	藤岡	15
11	4	火	京都府 京都文化博物館	交流事業について	林	20
11	18	火	堅田観光協会	堅田といえば堅田鮎	橋本	26
11	19	水	関西大学	水田の生物多様性と多面的機能	大塚	20
11	26	水	米原市立息長小学校	ビワマス孵化実験事前学習	桑原	38
2	1	日	NACS-J 自然観察指導員 大阪連絡会	講演会	澤邊	80
2	10	火	大津ロータリークラブ	琵琶湖のアユについて	山本	100
2	11	水	滋賀県ミュージアム活性化推進委員会	中世のコイとフナ	橋本	8
3	1	日	北秋田市生涯学習課	山と水と米内沢	渡部	30
3	7	土	伊香立香の里資料館	オオサンショウウオについて	桑原	20
3	7	土	日本バードレスキュー協会	キジバトの繁殖戦略	亀田	60
3	11	水	米原市立息長小学校	ビワマス稚魚放流会	桑原	38
3	26	木	草津ロータリークラブ	水利用と暮らしの知恵	楊	50
						3,240名



屋外展示での観察会の様子（博物館内）



生きもの観察会の様子（地域）

### (3) 質問対応

博物館利用者からの質問や疑問、要望や相談は、直接受け付ける「質問コーナー」と、いつでもどこからでも受け付ける通信網（電子メール等）を利用した「Query」で対応している。

#### 1) 質問コーナー

開館当初から“学芸員の顔が見える博物館”づくりを行っており、図書閲覧室の一角に「質問コーナー」を設置し、博物館利用者からの質問や疑問、相談を直接受け付けている。質問コーナーに学芸職員が常駐することで、利用者からの質問に迅速に応えることができ、専門的な知識を直接伝えることで利用者が自ら調べることができることを応援している。また、博物館利用者との対話による情報交換ができる場となっている。対応学芸職員が日替わりで担当し、当日展示室で行う「フロアトーク」の担当も兼ねている。担当学芸職員の予定を博物館ホームページや図書閲覧室の入口壁に掲示し、専門分野の担当者がある日に質問ができるよう配慮している。質問には担当学芸職員がその場で対応するようにしているが、専門的な内容を含む質問等はそれぞれ専門の学芸職員に回答を依頼したり、調べたりして後日回答している。質問コーナーに来室される場合のほか、電話による質問や相談に応じている。

質問コーナーにおける質問受付数

期 間	2014年4月1日～2015年3月31日		
総質問数	799 件 ( 943 名 )		
質問形態	来訪による質問	697 件	その他による質問 102 件

2) 通信網（電子メール「Query」）による対応

博物館との情報交換を効率よくサービスを提供するため、電子メールを利用して展開している。開館以来、質問、感想、要望などを受け付ける専用の電子メールアドレス（query@lbn.go.jp）を設け、受付担当者が受け付けた電子メールを内容に応じて専門の学芸職員に割り振って回答するサービスを継続的に行っている。2014年度はメールによる質問件数が全部で45件（スパムメールや一方的な情報提供を除く、2014年10月～2015年3月）があり、その内容は以下のようなものであった。琵琶湖博物館の特徴として、魚などの水生生物に関する質問が多く届いた。

専門的内容を含む質問	18
地学(1) 生物(植物を除く)(9) 植物(5) 歴史・民俗・考古(1) 環境(人と自然の関わりも含む)(2)	
施設利用・行事などの問い合わせや依頼	9
広報掲載依頼（リンク許可・サイト登録を含む）	2
資料の提供・利用、収蔵資料についての問い合わせ	2
館の運営・研究調査等についての意見や問い合わせ	4
館の案内資料の請求	1
博物館に関する企画・設備等の提案	6
その他	3

回答に応答しての追加質問など、継続したやりとりは、合わせて1件とした。  
 担当者を特定して問い合わせ等を行うために設定した電子メールアドレスへのメールは計数していない。  
 その他、一般利用者に公表されているメールアドレスとしては以下のものがある。  
 photo@lbn.go.jp 画像データベースに関する問い合わせ・要望・情報提供  
 db-admin@lbn.go.jp データベースに関する連絡  
 dantai@lbn.go.jp 団体利用に関する問い合わせ・打ち合わせ  
 chiiki\_renkei@lbn.go.jp 地域連携活動に関する問い合わせ・打ち合わせ  
 meteo@lbn.go.jp 気象情報提供に関する各種連絡  
 jisshu@lbn.go.jp 学芸員実習に関する問い合わせ  
 hashi-adm@lbn.go.jp はしかけ制度に関する問い合わせ  
 press@lbn.go.jp 記者発表や報道資料提供に関する問合せ先  
 souzou@lbn.go.jp 新琵琶湖学セミナー参加申込先  
 newlbn@lbn.go.jp 新琵琶湖博物館創造事業に関する各種募集受付

琵琶湖博物館環境学習センター（担当：桑原雅之、澤村和宏、池田 勝、布川恵理）

(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供

自治会や子ども会などの地域団体、学校、NPO、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行うほか、ホームページやメールマガジンなどにより発信を行い、環境学習の活動の場づくりを応援した。

1) 環境学習に関する相談対応等

相談件数 270 件 教材貸出件数 75 件

2) 環境学習情報のホームページ「エコロシーが」の運用

アクセス数 198,588 件

### 3) 環境学習情報メールマガジン「そよかぜ」の発行

発行回数 計 21 回 登録者数 891 人

### 4) ブース出展

4月27・29日 ラ・フォル・ジュルネ（びわ湖ホール）  
5月23日 しがこども体験活動実践交流会（県庁）  
7月14日 第8回博物館夏祭り〈お魚タッチプール〉（ビバシティ彦根）  
7月21日 第7回水辺の匠交流会（ウォーターステーション琵琶）  
7月21日 滋賀県学校支援メニューフェア「しがまなび発見！」（ピアザ淡海）  
8月23日 マザーレイクフォーラム 第4回びわコミ会議（コラボしが21）  
10月12日 遊びの宝島へGO！（湖南省総合体育館）  
2015年1月31日 草津市こども環境会議（草津市役所）  
2月6日 しがこども体験学校実践交流会（県庁）

## (2) 環境学習の交流の場づくり

### 1) 環境・ほっと・カフェ

地域団体等と協力して、環境活動を促進していくための活動交流会の場を設けた。

- ・「ちっちゃなこどものしぜんあそび」（琵琶湖博物館 屋外展示ほか） 8回実施、
  - ① 5月21日 11家族 20名
  - ② 6月18日 6家族 14名
  - ③ 7月16日 8家族 19名
  - ④ 11月5日 9家族 23名
  - ⑤ 2月9日 15家族 37名
  - ⑥ 2015年1月4日 15家族 32名
  - ⑦ 2月25日 12家族 26名
  - ⑧ 3月18日 14家族 37名参加者合計 90家族 208名
- ・「ヒノキでアロマ」（琵琶湖博物館 水族展示、実習室2） 9月28日 参加者 13名
- ・「近江の歴史と食を巡る旅」（楽ごろうえもん、藤居本家） 11月30日 参加者 7名
- ・「カトラリーワークショップ」（琵琶湖博物館 生活実験工房） 3月21日 参加者 10名



### 2) 博物館の夏祭り

県内の自然系博物館等と共同して、体験・工作コーナー、観察コーナー、展示などを実施し、環境や自然科学、歴史や民俗について関心を高める機会を設けた。

- ・7月14日 参加者 1,290名（ビバシティ彦根）

### 3) こどもエコクラブ事業

地域における子どもたちの自主的な環境学習や環境保全活動の取組である「こどもエコクラブ」の活動を、市町と連携して応援した。（県内会員数 143クラブ 計 5,288名）

- ・12月14日 「淡海こどもエコクラブ活動交流会」（琵琶湖博物館） 13クラブ、161名参加、
- ・3月29日 「こどもエコクラブ全国フェスティバル2015」（早稲田大学西早稲田キャンパス）  
県代表 渋川小学校生き物学習実行委員会（草津市）が参加

#### 4) 発見！びわ博フェスティバル

博物館の展示や様々な体験交流プログラム等を通じて、身近な自然や自分達の暮らしについて感じ考える機会を多くの方に持ってもらうと、朝から晩まで開館し、36プログラムの交流イベントを実施した。はしかけグループの方、フィールドレポーターの方、地域団体の方など、様々な人達の活動のご協力があった2日間で5,000人を超える方が博物館を訪れ、体験イベントに参加されたり、コンサートに聴き入っておられた。

＜来館者数＞	時間帯別		計
	9:30～17:00	17:00～21:00	
9月6日(土)	1,517名(1,177)	547名(654)	2,064名(1,831)
9月7日(日)	2,926名(3,024)	273名(1,259)	3,199名(4,283)
計	4,443名(4,201)	820名(1,913)	5,263名(6,114)

( )は昨年度数

#### ＜実施プログラム＞

	タイトル	時間帯	内容	場所	共催・協力
9/6	フロアトーク	10:00-10:15	高橋副館長「いろいろな動物の骨を見てみよう」	アトリウム	
	＜アトリウムコンサート＞ 「ヨシ笛コンサート」	10:30-11:45	守山琵琶湖よし笛アンサンブル		
	＜アトリウムコンサート＞ 「バリ・ガムラン演奏&体験」	11:30-12:45 13:15-14:00	大阪音楽大学音楽博物館 スナリ・サンティ		
	＜アトリウムコンサート＞ 「サマープラス」	14:30-15:00 15:15-15:45	滋賀県立石山高等学校吹奏学部		
	フロアトーク	19:20-19:35	澤邊学芸員「びわこのヨシって知ってる？」		
	＜アトリウムコンサート＞ 「ゆったりまったり～Bossa Nova-Sunset Music at the Lake Biwa Museum-」	18:30-20:30	ギター 西村靖博 ベース 川辺ぺっぺい ボーカル 田中志保		
	とっておきの展示解説	12:30-12:45 16:30-16:45	楊学芸員「東アジアの湖の絶景を探検してみよう」	企画展示室	
	とっておきの展示解説	13:00-13:15 17:00-17:15	里口学芸員「博物館の地下 90mには何がある？」	A展示室	
	とっておきの展示解説	14:00-14:15 17:30-17:45	橋本学芸員「琵琶湖とフナとフナズシ」	B展示室	
	とっておきの展示解説	15:00-15:15 18:00-18:15	芳賀学芸員「琵琶湖の容(かたち)」	C展示室	
	とっておきの展示解説	10:00-12:00 13:00-15:00	「水族展示バックヤードツアー」	水族展示室	
	オリジナル紙すきハガキをつくろう	13:30-15:00	オリジナルな葉書作りに挑戦	実習室2	フィールドレポーター
	お魚のキーホルダーを作ろう	13:00-16:00	琵琶湖の魚を下絵としてお魚のキーホルダー作り	セミナー室	うおの会
	紙芝居「びわこの旅」	11:30-12:00 13:00-13:30 14:00-14:30	みんなで琵琶湖の歌を歌いましょう	会議室	湖をつなぐ会
	骨のワンダーランド	10:00-12:00 13:00-15:00	本物の骨に触れてみよう	新空間	ほねほねくらぶ
	木の枝 すりすり	10:30-11:30 13:30-14:30	つつるピカピカの自分だけの木の枝を作ろう	生活実験工房	ザ・ディスカバ はしかけ
	びわたんのよみきかせ	15:00-16:30		生活実験工房	びわたん
	星空観察会	19:00-20:30	土星のリングがみえるかな？	屋外	ダイニックア ストロパーク 天究会友の会
	夜の昆虫観察会	19:00-20:30	榊永学芸員、八尋学芸員と一緒に光に集まる昆虫をみてみよう！	屋外	

	タイトル	時間帯	内容	場所	共催・協力
9/7	フロアトーク	10:30-10:45	高橋副館長「いろいろな動物の骨を見てみよう」	アトリウム	
	<アトリウムコンサート> 「バリ・ガムラン演奏&体験」	11:00-11:45 13:00-12:45	大阪音楽大学音楽博物館 スナリ・サンティ		
	<アトリウムコンサート> 「サマープラス」	14:30-15:00 15:15-15:45	滋賀県立石山高等学校吹奏学部		
	<アトリウムコンサート> 「宮本妥子マリンバ&和太鼓コンサート」	18:30-19:30	マリンバ&打楽器 宮本妥子 マリンバ&打楽器 後藤ゆり子 和太鼓 夕田俊博		
	とっておきの展示解説	12:00-12:15 16:30-16:45	楊学芸員「東アジアの湖の絶景を探検してみよう」	企画展示室	
	とっておきの展示解説	12:30-12:45 17:00-17:15	山川学芸員「アケボノゾウがいた頃の風景」	A 展示室	
	とっておきの展示解説	14:00-14:15 17:30-17:45	橋本学芸員「琵琶湖とフナとフナズシ」	B 展示室	
	とっておきの展示解説	13:30-13:45 18:00-18:15	芳賀学芸員「琵琶湖の容(かたち)」	C 展示室	
	とっておきの展示解説	13:00-13:15 18:30-18:45	金尾学芸員「とっておきビワコオオナマズの話」	水族展示室	
	骨のワンダーランド	10:00-12:00 13:00-15:00	本物の骨に触れてみよう	新空間	ほねほねくらぶ
	カード織りでストラップ作り	10:00-11:30 13:30-14:30		生活実験工房	近江はたおり探検隊
	森の中で簡単ハンモックづくり	13:00-13:45 14:00-14:45	帆布生地を使ってハンモック作り	屋外展示	里山の会
	ハンモックでアロマ・リフレクソロジー	15:00-17:00	ハンモックでリラックスした状態でアロマオイルを使って脚のマッサージ	屋外展示	緑のくすり箱
	両日 共通	写真展 「ありのままの八景」	9:30-21:00		アトリウム
<虹のレストラン>		11:00-19:00	おいしがうれしが特産マーケット！(19店舗出店)	正面玄関前	
<ひかりのヨシとんねる>		9:30-19:00	夜間ライトアップ 19:00-21:00	正面玄関前	西の湖ヨシ灯り展実行委員会
<「虹のレストラン」休憩・食事スペース>		9:30-21:00		うみっこ広場	



フロアトーク



骨のワンダーランド



とっておきの展示解説



虹のレストラン



お魚キーホルダーを作ろう



木の枝すりすり



アトリウムコンサート



アトリウムコンサート



アトリウムコンサート



夜のアクアリウム



ひかりのヨシトンネル



夜のアトリウムコンサート

## 情報発信活動

### (1) 地域発見！参加型移動博物館

この事業は、2011年度に「マザーレイク滋賀応援基金」を活用して制作した移動型の展示キット（12件）を、琵琶湖淀川流域をはじめとする各地で移動展示し、学芸員や交流員による対話を交えて琵琶湖や滋賀県に対する興味と関心を高め、琵琶湖博物館への誘客を図ることを目的としている。

今年度は県外8件（大阪市2件、京都市2件、東京都23区2件、名古屋市、三重県津市）、県内15件の計23件の移動博物館を展開した。その中で、今年度は移動博物館への来場者の関心をより高めるために8月31日に三井アウトレットパーク竜王において「ヨシ笛づくりに挑戦」と三重県総合博物館においては「オリジナル缶バッジ作り」のワークショップを行い、何れも非常に好評だった。また、7月28日にはびわ湖の日のイベントとして、県環境政策課とともに琵琶湖疏水のほとりにある私立東山中学校（京都市左京区）で初めて移動博物館を開催し、琵琶湖に関する様々な講義として環境学習を展開した。全体を通して、県外向けの滋賀・琵琶湖を売り出すブランド展（東京や大阪）など移動博物館の目的に一致したものや、市民団体による環境や学習との連携、県関係機関あるいは地域団体との連携でイベントに参加する出展も増えている。

展示物に関しては、移動型展示キットも3年目をむかえ、修理や補修が必要な展示キットが増えており、今年度は「足跡の正体はだれ？」の足跡の修繕、同じく「古今の物産くらべ」「生命をはぐくむ」の当初制作した展示キットを改良し、バージョンアップを図った。「空から見た琵琶湖」については、これまでの「琵琶湖版」と「広域版」に加えてやや小型（4m×4m）の「企画展版」も追加して会場等の条件に合ったものを使い分けできるようにした。また、琵琶湖博物館のPRキットとして、「移動博物館」と「琵琶湖博物館」横断幕キットを追加した。現在、展示キットは21項目23展示キットとなっている。

開催日	イベント名	会場	運営者
4月27・29日	ラ・フォル・ジュルネ びわ湖	ピアザ淡海	山川、澤村、山本、池田、布川
5月10日	なごや生物多様性センターまつり	なごや生物多様性センター	里口、澤邊、山本
7月13日	博物館夏祭り	ビバシティ彦根	桑原、林、間所
7月20・21日	水辺の匠	ウォーターステーション琵琶	池田、布川

開催日	イベント名	会場	運営者
7月 28日	びわ湖の日	東山中学校(京都市左京区)	橋本、浦山、間所、中井、山本
8月 3日	ボートレースびわこファミリーカーニバル	ボートレースびわこ	芳賀
8月 6日	しが☆まなび☆発見!	滋賀県立文化産業交流会館	水谷、浦山、山本
8月 27日	草津エコフォーラム	草津市役所	山本
8月 31日	移動博物館がやってきた! ~ヨシ笛づくりに挑戦~	三井アウトレットパーク滋賀竜王	蜂屋、山本
9月 5日~7日	滋賀・びわ湖ブランド展	イオンモール草津	山本
9月 13・14日	イナズマロックフェス(おいで~な滋賀体感フェア)	烏丸半島芝生広場	里口、金尾、山本
9月 25日	滋賀県拠点事業所紹介イベント	三菱ケミカルホールディングス(東京都千代田区)	県東京事務所職員
10月 12日	遊びの宝島へGO!	湖南省総合体育館	池田、寺西
10月 21日	淡海の人大交流会	グランドプリンスホテル高輪(東京都港区)	高橋、亀田、山本
11月 7日	全国中学校社会科教育研究大会	瀬田北中学校(大津市)	山本、渡部、寺西
11月 8日、9	滋賀・びわ湖ブランド展	JR 大阪駅	山川、山本、渡部
12月 13日、14	京都環境フェスティバル	京都府総合見本市会館	県環境政策課職員
12月 14日	三方よしのエコフェア	ピアザ淡海	山本、渡部
12月 23日	生物多様性協働フォーラム	グランフロント大阪北館	亀田、野村
12月 31日~1月 6日	2015 ニューイヤーイベント	大津プリンスホテル	貸出
2月 22日	お~いお茶 “お茶で琵琶湖を美しく。” キャンペーン	イズミヤ堅田店	榊永、渡部
3月 21・22日	三重県総合博物館に琵琶湖博物館がやってきた! オリジナル缶バッジを作ろう!	三重県総合博物館	山本、渡部
3月 26日~4月 5日	大津プリンスホテル Lakeside Paradise2015 「春」	大津プリンスホテル	貸出



ラ・フォル・ジュルネびわ湖2014  
ピアザ淡海(大津市)



ミエムに琵琶湖博物館から移動博物館がやってきた!  
三重県総合博物館(三重県津市)

## (2) インターネットを利用した館外への情報提供

当館は独自のインターネットウェブページを通じて展示案内・行事案内・交通案内などの利用情報を提供している。情報の更新頻度は週2回程度である。このほか、収蔵資料データベースや電子図鑑等、調べ物に使える情報も提供している。

2014年度は前年に引き続きウェブページの利用しやすさを向上させるために、利用情報のページを中心に、数次にわたってページデザインの変更や記述の整理を行った。2014年度の利用状況は下表に示したとおりで

ある。来館者数がピークとなる夏休み付近で利用が多く、来館者数が少ない冬季に利用が少ない傾向が見られる。

延べ利用者数の近似値である連続アクセス数の経年変化のグラフを示した。2014年度は夏のアクセス件数が2013年度より低かった。2014年度の夏は全年度より来館者数が少なかったが、その傾向はウェブのアクセス数と連動していた。現在のアクセスログ解析では巡回ロボットページを除去できないので、その除去方法を検討中だが、まだ方法は確立できていない。

データベースデータの閲覧件数は前年度に比べ24%のマイナスとなった。原因は調査中である。

インターネットページへのアクセス件数（2014年度）

	連続アクセス (延べ利用者数の近似値)	ページヒット数 (閲覧ページ総数)	表紙アクセス (表紙閲覧回数)	データベース データ閲覧件数
4月	78,380	251,138	21,801	3,122
5月	87,441	304,403	24,711	4,712
6月	83,785	288,878	21,874	2,102
7月	100,557	285,328	31,179	4,371
8月	114,038	361,248	41,896	4,820
9月	90,841	296,901	20,607	2,310
10月	86,766	303,779	22,383	4,730
11月	75,134	265,377	19,911	4,739
12月	65,894	223,464	17,837	2,791
1月	71,985	206,457	19,754	1,896
2月	74,319	247,396	19,882	4,483
3月	74,548	235,839	23,077	1,588
合計	1,003,688	3270,208	284,912	41,664

注：アクセス解析は当館のウェブサーバ上に記録したアクセスログを用いて行なった。

館内からのアクセスは解析の前に通り除いてあり、上記の結果は館外からのアクセスである。

ただし、ウェブ上を巡回するロボットページは除外していない。

連続アクセス数（延べ利用者数の近似値）：同一利用者が概ね1時間以内に再度アクセスしたと思われるものは合わせて1件と数えた場合のアクセス件数。

ページヒット数（閲覧ページ総数）

：各ページの定義ファイルに対する要求件数。

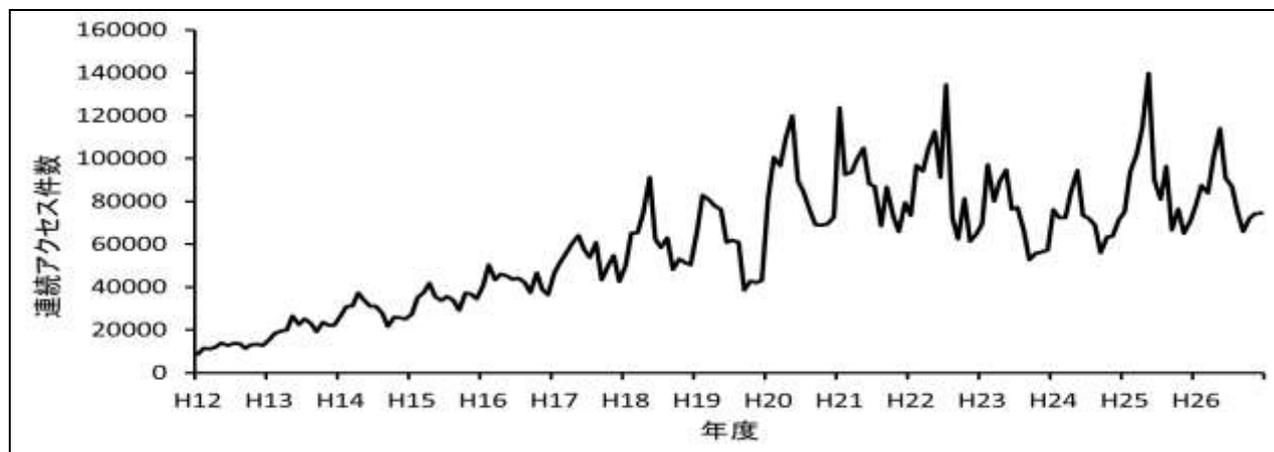
表紙アクセス数

：トップページの閲覧回数

データベースデータ閲覧件数

：データベースの各データページの閲覧回数

連続アクセス件数の経年変化



## (3) 印刷物

品名	サイズ	ページ数	発行部数
琵琶湖博物館要覧（英語版）	A4		100
企画展示「魚米之郷」展示解説書	A4	112	2,000
企画展示「魚米之郷」ポスター	A1		1,000
企画展示「魚米之郷」チラシ	A4		50,000
企画展示関連イベント「『魚米之郷』を楽しむ」チラシ	A4		5,000
発見！びわ博フェスティバル！チラシ	A4		129,000
発見！びわ博フェスティバル！プログラム	A4		10,000
発見！びわ博フェスティバル！コンサート案内チラシ	A4		10,000
発見！びわ博フェスティバル！来館者アンケート用紙	A4		10,000
琵琶湖博物館のイベント チラシH26 後期	A4		8,000
琵琶湖博物館のイベント チラシH27 前期	A4		20,000
びわ博だより 第17号	A4	4	5,000
びわ博だより 第18号	A4	4	5,000
びわ博だより 第19号	A4	4	5,000
びわ博だより 第20号	A4	4	5,000
広報用「琵琶湖と川の魚」カレンダーポスター 2015	A1		2,500
広報用「琵琶湖&川の魚」チラシ 2015	A4		100,000
烏丸半島マップ			4,000

## Ⅱ 新琵琶湖博物館の創造

### 新琵琶湖博物館の創造

琵琶湖博物館は、これまでの博物館像にとらわれない「湖と人間」をテーマにした新たな博物館として1996年に開館した。その後、『地域だれでも・どこでも博物館』を目標とする中長期基本計画を立案し、段階的に取り組んでいるところである。

開館以来16年が経過し、調査・研究および資料収集が進んでいることから、これらの成果に基づき、「湖と人間」のかかわりを過去から現在にわたってとらえ直し、「これからの共存関係」をより多くの来館者と共に、考えていく新たな展開が、琵琶湖博物館には求められている。

そのため、2012年度に館内に新琵琶湖博物館創造準備室を設置し、新たな博物館の提示・展開のあり方等について検討を行い、展示・交流空間の再構築の方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」（以下、「ビジョン」という。）をまとめ、そのビジョンを踏まえて2013年度に「新琵琶湖博物館創造基本計画」（以下、「基本計画」という。）を策定した。

2014年度においては、基本計画に基づき、体験的な展示を多く取り入れて琵琶湖の魅力の発信力を強化し、参加と発見、対話と交流を促し、次代を担う人が育つ交流拠点としての展示・交流空間を目指し、2016年夏の第1期（C展示室、水族展示）リニューアルオープンに向けての実施設計を行った。

#### (1) 滋賀県議会環境・農水常任委員会等への報告

滋賀県議会環境・農水常任委員会等で検討いただいた。

- ①環境・農水常任委員会 2014年5月14日
- ②環境・農水常任委員会 2014年11月12日
- ③予算特別委員会環境・農水分科会 2015年3月6日

#### (2) 展示評価の実施

仮設展示コーナーを設け、来館者等の行動・意見を集約し、展示計画に反映する調査等を実施した。

- ①C展示室：生き物コレクション 2014年11月6日、8日 来館者の行動・意見集約
- ②水族展示：マイクロアクアリウム 2014年11月28日 来館者の行動・意見集約
- ③水族展示：川魚屋 2014年12月20日 来館者の行動・意見集約
- ④C展示室：カヤネズミゲージ 実際にカヤネズミのゲージを作成し、飼育した
- ⑤C展示室：こらからの暮らし 2014年3月1日 アドバイザーの意見集約
- ⑥C展示室：ヨシズ編み 2015年3月1日 来館者の行動・意見集約

#### (3) アドバイザー会議の開催

有識者の学術的・専門的な視点からの意見を、展示計画に反映させるための会議を開催した。

- ①染川香澄氏（コーディネーター） 2014年7月4日、11月12日
- ②井島真知氏（展示評価アドバイザー） 2014年11月12日
- ③北村彰氏（C展示生き物コレクションアドバイザー） 2014年10月7日、11月19日、2015年1月23日
- ④岩寄博論氏（広報アドバイザー） 2014年12月8日
- ⑤服部滋樹氏（デザインアドバイザー） 2014年11月6日

⑥中村元氏（水族アドバイザー） 2014年12月18日

⑦洲崎敏伸氏（マイクロアクアリウムアドバイザー） 2014年12月24日、2015年1月22日

#### (4) ユニバーサルデザイン評価の実施

ユニバーサルデザインの観点からの意見を、展示計画に反映させるための会議を開催した。

①第1回 2014年8月28日

②第2回 2014年11月25日

③第3回 2015年1月30日

#### (5) 「新琵琶湖博物館創造にかかる実施設計およびその関連業務委託」の実施

琵琶湖博物館の『地域の人びととともに「湖と人間」の新しい共存関係を築いていく』という使命を達成するためには、「湖と人間」のあり方を県民とともに考え、ともに行動し、人づくりに貢献する博物館として、過去・現在・未来をとらえなおし、「湖と人間」の共存のあり方を新しい常設展示で提示していく必要があり、また、交流の場としての博物館から、地域での実践・行動を担う人が育つ博物館へと進化していく必要がある。

展示交流空間の再構築を通じてより多くの人びとに琵琶湖博物館を利用していただくことにより、地域の人びとの一人ひとりの心に「種子、挿し木、幼木」を渡していく博物館、親木となる博物館をめざす。そして、将来あるべき姿として、琵琶湖とその集水域および淀川流域の自然・歴史・暮らしへの理解が深まり、地域の人びととともに「湖と人間」の新しい共存関係を築いた社会の実現、言わば『湖をめぐる博物館の「森」の誕生』をめざしていく。

琵琶湖博物館が、それらをめざしリニューアルし、「新琵琶湖博物館」を創造するための実施設計を行った。

## Ⅲ 環境の整備

### 1 拠点としての施設整備

#### (1) 利用者用施設の整備

本館2階のカフェテリアで手すりから体を乗り出すなどの危険な行為や、1階部分のレストラン客席にも影響が及ぶような事例も散見されたため、屋外の琵琶湖等の眺望に配慮した防護壁の設置を行い、一定の効果をえた。

#### (2) 情報システムの整備

##### ・端末機器の更新

館職員が使用しているパソコン、プリンター等は5年契約のリースで調達している。

ウィンドウズXPのサービス終了にともなう機器の更新は全台数実施できた。

##### ・セキュリティ等

ウィルスチェック用のセキュリティアプリケーションは契約を更新し、アップデートも随時行っている。2014年12月から2015年1月にかけて博物館から外へのウェブアクセスの速度が異常に遅くなる事態が生じた。このため情報システムの運営保守を委託している会社と共に侵入の確認を行ったが、当館情報システムへの侵入や改ざんの形跡は認められなかった。2月以降は速度異常は収束し、現在まで再発していない。

#### (3) 来館者アンケート調査

博物館利用者のニーズや満足度を的確に把握しながら、今後の展示の企画や広報活動など博物館活動や運営を考え、利用しやすい博物館づくりを進めるため、定期的な来館者アンケートを年数回実施している。

アンケートは平日と休日を含む3日間連続で実施した。観覧券発売時に毎日1,000枚を限度として手渡しで配布するとともに、アトリウムと玄関横の2か所に記入用紙と回収箱を設置した。調査内容は、来館回数、情報源、来館目的、交通手段、滞在時間、利用場所のほか、満足度および感想や改善についての意見など選択式13項目、記述式2項目の全15項目からなる。設問のうち、来館回数、きっかけ、滞在時間、満足度、記入者自身の年齢、性別、住居域は、これまで実施したアンケート調査での共通項目となっている。今年度は新規に展示リニューアルにむけて、1項目「観覧した展示で一番よかったもの（記述式）」を加えた。

#### 1) 実績

今年度は夏と初春の2回実施した。

第1回	2014年8月22日（金）～24日（日）	回答数	164件
第2回	2015年3月20日（金）～22日（日）	回答数	122件

#### 2) 結果

<第1回>

・回収率：全体的に回収率が3.4～7.4%と低く、アンケート用紙を配布するだけでは意見が得られない状況である。配布時の声掛けだけでなく、回収時にも声掛けを行うなどの努力が必要と思われた。

・来館回数：例年と変わらない傾向をもつが、「はじめて」の割合が39%、「4回以上」の割合が36.6%と割合が近づいており、2回以降で考えると60%とリピーター率が高くなってきている。

・情報源：来館のきっかけは、例年同様に友人・知人、家族・親戚による口コミが30%を占める。次いで、県や市町村の広報誌のほか、インターネットによる情報が11.6%と有効手段になっている。有料広告の1つである雑誌情報は10%以下であり、今後見直しの検討が必要かもしれない。ここ数年行っている移動博物館は、今回0%であった。

・同行者・来館目的・滞在時間：常設展示を家族や友人と団らんとして、また余暇を楽しむとして活用する傾向をもつ。また、8月は節電クールライフキャンペーン（平日のみ）で入館無料期間のため、入館者数が増加していた。しかしながら、1日楽しめる施設として位置づけられるようなボリュームをもつ博物館ではあるが、学習や教養よりも子どもを遊ばせる場所として捉えられており、利用時間が大幅に減少し1~2時間と滞在時間が短くなってきている。

・満足度：「非常に満足した」25%と「満足した」57%を合わせると82%の満足度を示しており、過去8年間80%以上の数値を保っている。「また来たい」が86%と例年並みの回答があり、博物館への期待が持続している。

・不満：例年変わらず、不満対象としてあげられるのが駐車場、レストランで7.9%、昼食場所6.7%となっている。次いで交通の便5.5%、観覧料金5.5%と高い割合が示されている。トイレ・階段・エスカレーター等、休憩場所が3.7%で、汚れや異臭など施設面での改善が求められる。

・来館者：年齢別では30代~40代（40%弱）が中心で家族と同行しているおり、これまでと同様に家族・親子での来館が多い結果となっている。住居地は県内と県外が半々で、8月は節電クールライフキャンペーンの影響で50%を越える県民の利用が見られた。

## <第2回>

・回収率：今回の調査の回収率は3.4~5.0%、回答総数は122枚で、例年のこの時期の実施例と大差のない結果である。回収率の向上にむけて、アンケート用紙の配布時の案内だけでなく、回収時にも積極的な声掛けを行うなどの工夫が必要と思われる。

・来館回数：「はじめて」の割合が53.3%と高く、ついで「4回以上」の割合が27.0%を占めている。これは従来の同時期の調査とも共通する傾向である。「2回目」「3回目」「4回以上」を合わせた割合は46.7%で、「はじめて」の割合と拮抗しており、例年通りリピーター層が多くを占めている。

・情報源：来館のきっかけは、友人・知人、家族・親戚による情報を合わせると30%を超えており、例年通りいわゆる口コミが有力である。これに次ぐのがインターネット情報（14.7%）で、過去の同時期の調査に比べても高い割合を示している（2013年3月は9.3%、2014年3月は9.5%）。有料のweb広告を含むインターネットによる情報発信の効果が表れている可能性が考えられる。

一方、同じ有料広告であるラジオや雑誌媒体の比率は数%程度の低い数値で、今後見直しの余地があるかもしれない。移動博物館も0.6%にとどまっている。またポスター・チラシ類は5.1%で、配布数（平成26年度分の魚チラシは20万枚印刷）の多さに対して、必ずしも集客に結び付いているとはいえない状況にある。

・同行者・来館目的・観覧施設・滞在時間：同行者の傾向は例年と同様で、「家族」とする回答が多数（67.2%）を占め、「友人・知人」がそれに次ぐ（15.2%）。家族の内訳をみると、「配偶者」（21.4%）および「配偶者・子」（28.6%）が多く、何らかの形で配偶者を伴って来館した人の割合が計60%近くに達している。広報等の際には、子どもを持つ男性と女性の双方への配慮が求められる。

・来館目的は、「学習・教養」「家族や友人との団らん」「余暇を楽しむ」がいずれも20%を上回り、例年通り多数を占めている。一方、「近隣の観光のため」は10%強にとどまっており、周辺施設との繋がりをより積極的に情報発信していく必要があるかもしれない。

・具体的な観覧施設としては、水族が88.5%ともっとも高く、A~C展示室もいずれも70%台を示している。また期間中に開催されていた水族トピック展示の「ヒワラ」は36.9%で、過去の期間限定展示に比べて高い利用割合を示している。一方、図書室・質問コーナーや研究最前線は数%台にとどまっている。

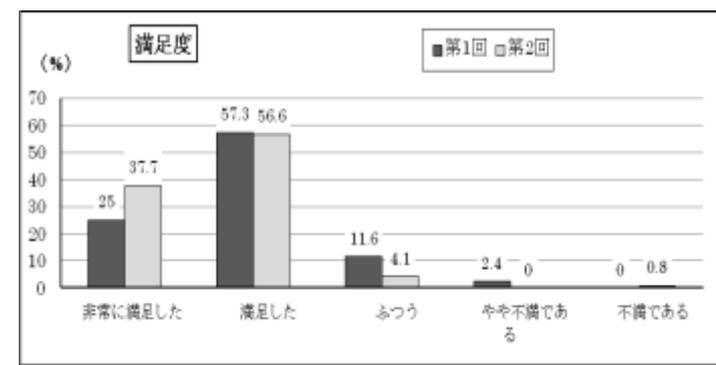
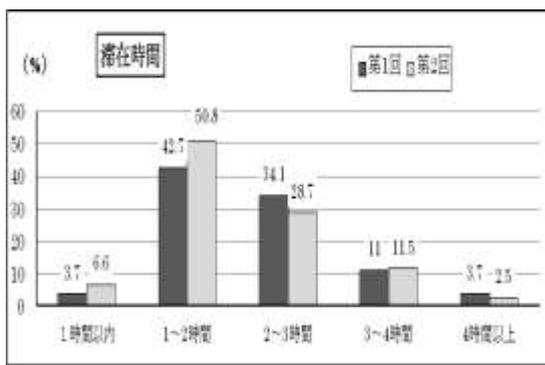
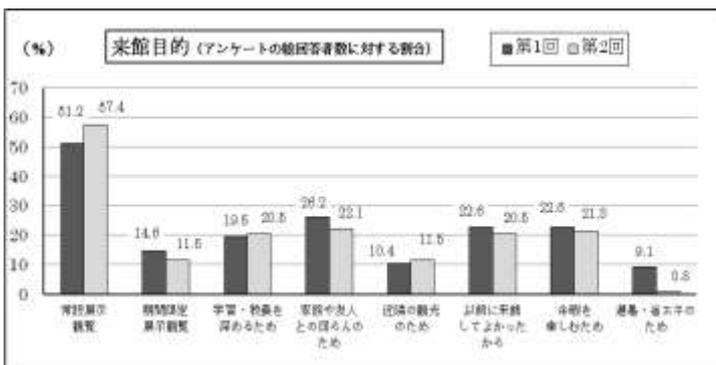
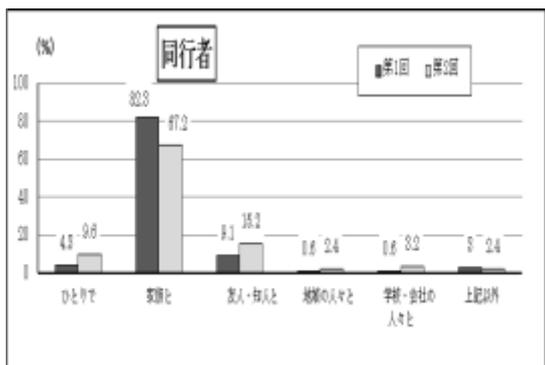
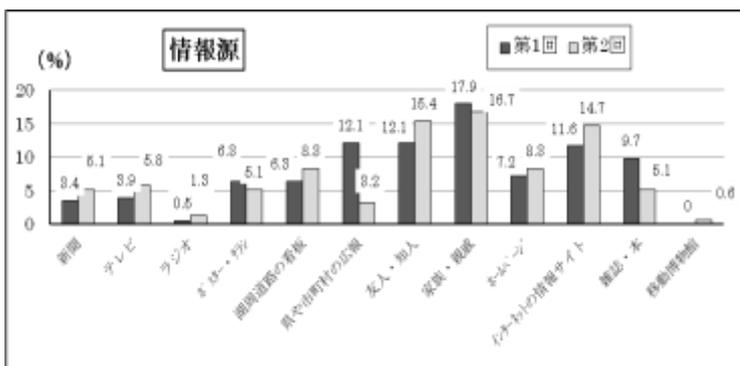
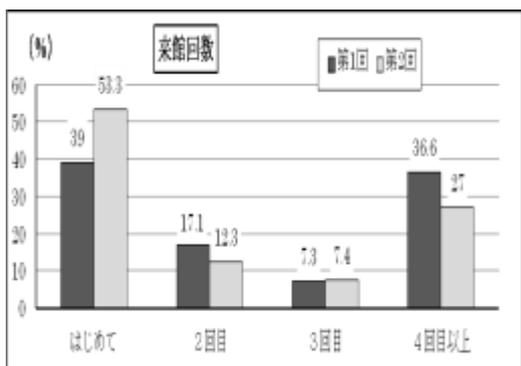
・滞在時間は、1時間以内、および1～2時間とする回答が合わせて60%近くを占め、滞在時間はここ数年短くなる傾向にあるが、2～3時間や3～4時間とする回答の割合も無視できない。子ども中心の団らんを目的とした比較的短時間の観覧者から、より長い時間をかけた学習目的の観覧者まで、博物館に対するニーズが多様化しているようである。

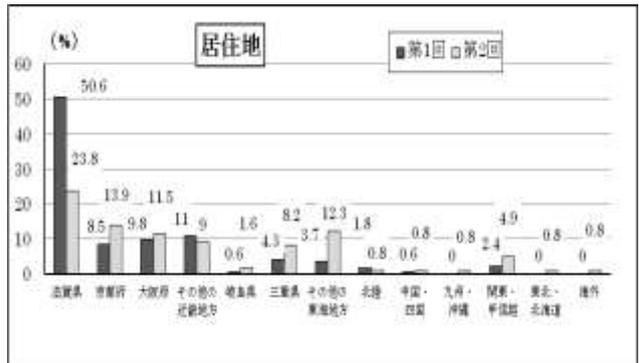
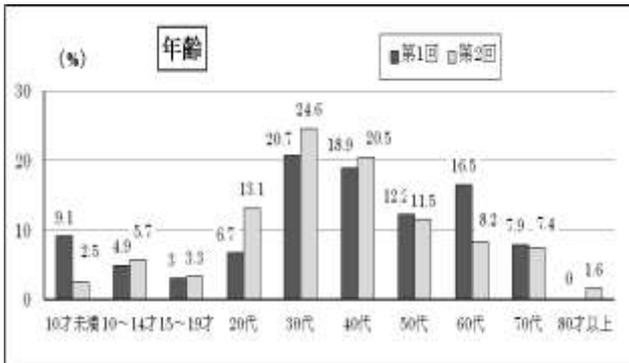
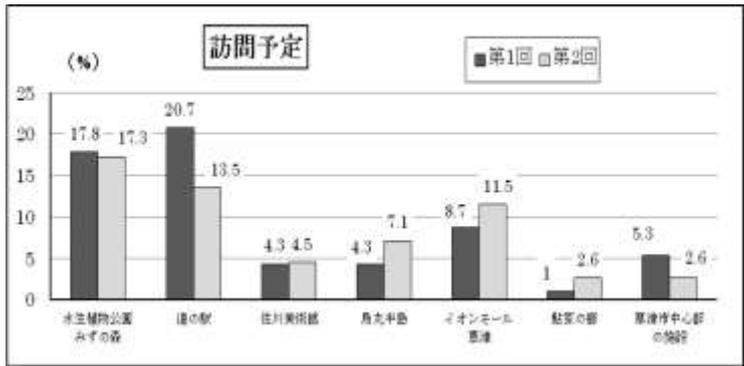
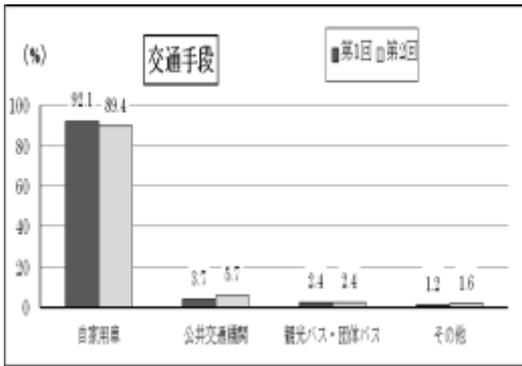
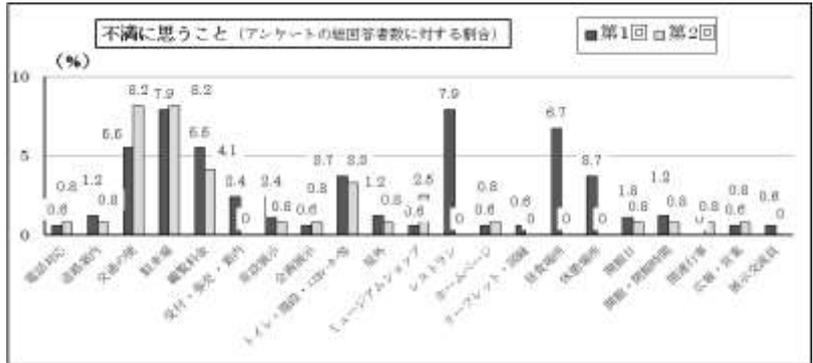
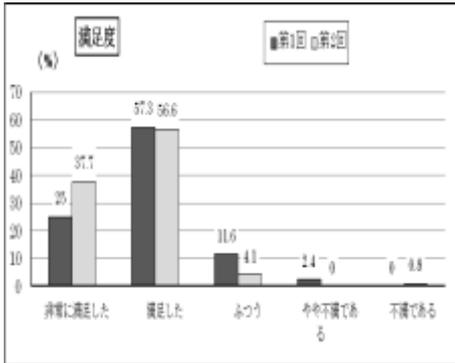
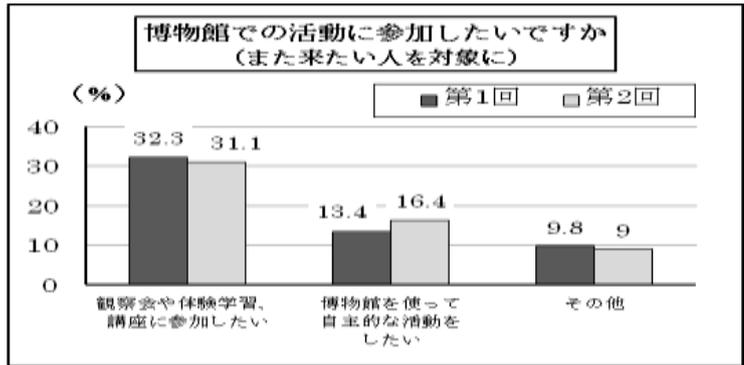
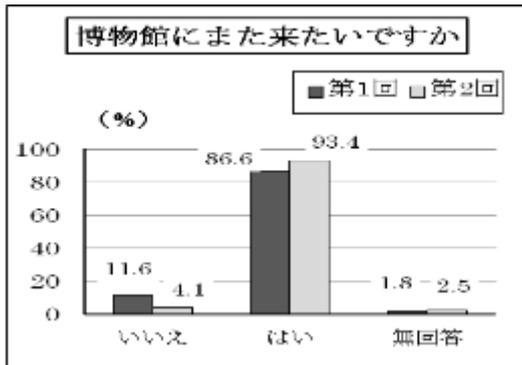
・満足度：「非常に満足した」37.7%と「満足した」56.6%を合わせると94.3%に達し、近年の調査のなかでも非常に高い満足度を示している（2013年3月は85.1%、2014年3月は85.7%）。また過去8年間にわたって80%以上の数値を維持している。「また来たい」も93.4%と高い割合を占め、博物館への期待が十分に持続している。

・不満：例年同様、不満対象として交通の便（8.2%）と駐車場（8.2%）が多くあげられている。観覧料金（4.1%）、トイレ・階段・エスカレーター等（3.3%）がこれに続いている。一方、これまでの調査でしばしば指摘されていたレストランや昼食場所に対する不満はともに0.0%となり、際立った改善がみられる。今後の推移が注目される。

・年齢層・居住地・来館手段：年齢層の結果はおおむね従来通りで、30代（24.6%）および40代（20.5%）が中心である。居住地は、今回の調査では県内23.8%（2013年3月は36.4%、2014年3月は32.3%）、県外68.0%となり、例年に比べて県外者の割合が大きい。移動手段は自家用車が89.4%と圧倒的に多数である。

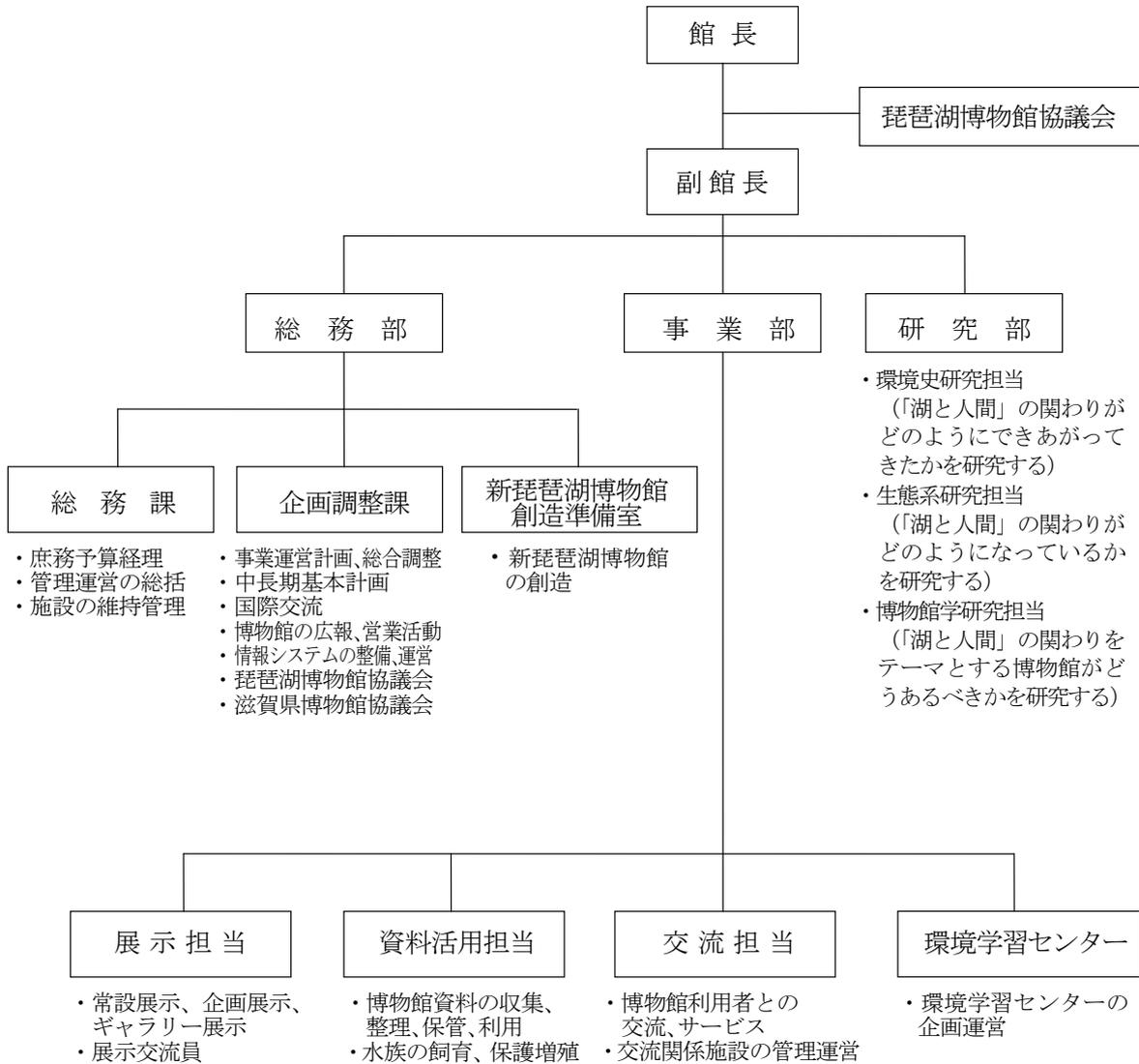
（数値は特に断りのない限り、アンケート回答者数に対する各々の回答数の割合を百分率で示したもの）





## 2 柔軟な運営組織

### (1) 組織



職員構成 (2014年10月1日現在；兼務・併任職員を含む)

区分	館長(非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	13	31	2	47	16	63

(2) 職員

(2014年10月1日現在)

- 館長 篠原 徹
- 副館長 中鹿 哲
- 副館長 高橋 啓一
- 主席参事 藤村 俊樹
- 上席総括研究員 藤岡 康弘
- 上席総括学芸員 用田 政晴
- 上席総括学芸員 マーク・ジョセフ・グライガー

総務部

- 部長(事務取扱) 中鹿 哲

◇ 総務課

- 課長 田中 寿樹
- 課長補佐(兼) 野村 恭史
- 主幹 萩山 幸代
- 副主幹 清水 勝
- 副主幹 松井 智
- 主査 池本 佳子
- 主事 南 祐貴子

◇ 企画調整課

- 課長(兼) 山川千代美
- (兼) 亀田佳代子
- 課長補佐(兼) 野村 恭史
- (兼) 芳賀 裕樹
- (兼) 里口 保文
- (兼) 山本 充孝
- (兼) 渡部 圭一

◇ 新琵琶湖博物館創造準備室

- 室長(兼) 藤村 俊樹
- 参事 廣瀬 淳子
- (兼) 桑原 雅之
- (兼) 亀田佳代子
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 榊永 一宏
- (兼) 浦山 重雄
- (兼) ロビン ジェームス スミス
- 主査(兼) 山田 幸男
- 主査(兼) 原田 和徳
- (兼) 山本 充孝
- (兼) 金尾 滋史
- (兼) 大久保実香

事業部

- 部長(兼) 松田 征也

◇ 展示担当

- GL(兼) 楠岡 泰
- (兼) 大塚 泰介
- (兼) 浦山 重雄
- (兼) 井関 明子
- (兼) 楊 平
- (兼) 澤邊久美子

◇ 資料活用担当

- GL(兼) 戸田 孝
- (兼) 橋本 道範
- (兼) ロビン ジェームス スミス
- (兼) 金尾 滋文
- (兼) 大久保実香

◇ 交流担当

- GL(兼) 榊永 一宏
- 主任主事(併任) 蜂屋 正雄
- 主任主事(併任) 間所 忠昌
- (兼) 水谷 智
- (兼) 安福 俊幸
- (兼) 芦谷美奈子
- (兼) 老 文子
- (兼) 林 竜馬

環境学習センター

- 所長(事務取扱) 桑原 雅之
- 副参事 澤村 和宏

研究部

○部長（兼） 八尋 克郎

◇ 環境史研究担当

GL 総括学芸員 山川千代美  
 専門学芸員 里口 保文  
 専門学芸員 橋本 道範  
 主査（兼） 井関 明子  
 主任学芸員 楊 平  
 学芸員 老 文子  
 学芸技師 林 竜馬  
 学芸員 大久保実香

◇ 博物館学研究担当

GL 専門学芸員 大塚 泰介  
 専門学芸員 楠岡 泰  
 専門学芸員 戸田 孝  
 学芸技師 渡部 圭一  
 （兼） 蜂屋 正雄  
 （兼） 間所 忠昌

注) GL はグループリーダーを示す

◇ 生態系研究担当

総括学芸員 松田 征也  
 総括学芸員 桑原 雅之  
 総括学芸員 八尋 克郎  
 総括学芸員 亀田佳代子  
 主任専門員（兼） 水谷 智  
 専門員（兼） 安福 俊幸  
 GL 専門学芸員 芳賀 裕樹  
 専門学芸員 中井 克樹  
 専門学芸員 榎永 一宏  
 主任主査（兼） 浦山 重雄  
 主任学芸員 芦谷美奈子  
 主任学芸員 ロビン ジェームス スミス  
 主査 山本 充孝  
 学芸員 金尾 滋史  
 学芸員 澤邊久美子

嘱託員・臨時的任用職員

田中 里美	館長秘書	渡邊 潤子	資料標本整理
寺西 貞夫	広報・集客	太田 悠造	資料標本整理
中川 優	屋外展示運営	小嶋 陽太	交流事業
片淵 綾香	展示室運営	黄瀬 金司	学校学習
森 智美	展示室運営	高木 成美	図書資料整理
高石 清治	展示物維持補修	池田 勝	環境学習
吉崎 早苗	資料標本整理	布川 恵理	環境学習
秋山 廣光	資料標本整理	草加 伸吾	資料標本整理

特別研究員

天野 一葉 植田 文雄 太田 悠造 柏尾 珠紀 川瀬 成吾 北村 美香 黒岩 啓子  
 篠原 耕平 朱 偉 鈴木 隆仁 瀬口 眞司 高梨 純次 辻川 智代 中野 聰志  
 中野 正俊 林 博通 廣石 伸互 矢田 直樹 川那部浩哉 布谷 知夫 中島 経夫  
 前畑 政善

フィールドレポーター・はしかけ登録者（掲載承諾者のみ）

◇フィールドレポーター

青山 喜博 肥土マサ子 浅井 良英 乾 明美 内堀甚一郎 梅村 元成 江竜 昭 遠阪 聡子  
 大住 光男 大西マサ子 大橋 義孝 岡田 幹夫 奥村恵津子 奥村 恵子 尾原 直行 柿ノ木未希  
 角井 俊明 加固 啓英 勝見 政之 角尾千寿子 椛島 昭紘 北側 忠次 京美 季男 桐江 利雄  
 桐畑 信夫 久保 和友 口分田政博 小林 隆夫 斎藤 禎量 笹井まち子 佐藤良太郎 澤島 篤  
 柴田恵里花 清水 瑛太 清水 牧子 白井 幸子 菅原 芳明 杉江ミサ子 杉野 由佳 杉原 芳也

杉本 康子	杉本 優真	高田 正一	高宮 弘	多胡 好武	棚橋 香織	谷村 啓子	津田 國史
津田久美子	土田 正文	寺田 誠	徳田 隆博	苗村 幸廣	中井 民子	中川 徳司	中島いづみ
中田彩季波	中田 暁輔	中田 泰輔	中田 千佳	長田 伸寛	中田 春美	中西 健	中村 教子
中村 公一	西 嘉代子	野間 孝男	野間 鉄夫	端 久雄	橋本 利衛	筈井美智子	初田 彩加
林 吾一	人見 勅輔	平井 政一	平原 園子	深田 太郎	福岡 敏雄	藤田 章子	藤本 昭義
降旗 町子	古谷 善彦	保科 明俊	保科 秀行	保科 雅子	保科 政秀	堀 彰男	堀 英輔
本田 幹雄	前田 雅子	松浦すみ江	松川 郁子	松見 茂	松本偉之助	松本 勉	水相 修躬
水戸 基博	水戸 涼介	水戸 涼乃	村上 靖昭	村野 やえ	森 淳	森 擴之	安井加奈恵
矢野 修	矢野としこ	山川 栄樹	山川 侑夏	山川 由美	山崎 千晶	山本 篤	山元 祐人
渡辺 克彦	渡辺 秀美	(114名)					

◇はしかけ

愛須美由起	青木 環	青木 春乃	青山 喜博	秋山 廣光	朝隈 洋子	芦田 弘美	東 まち子
穴藏 雅彦	荒井 紀子	有田 重彦	飯住 達也	飯田 彩子	飯田 俊宏	飯田 晴登	石井 千津
石井 利和	石井 正臣	石川 雅量	石角江里佳	石田 勉	石田 未基	一木 彰	市原 潤
市原 龍	一色 厚志	井上 真一	今井 洋	岩西紗江子	岩本 りか	上田 修三	上田 康之
宇野 翔	梅澤 正夫	遠藤 浩子	大岡 紀彦	大菅 勝之	大橋 洋	大橋 正敏	大堀 忠厚
大依 久人	岡田 和美	岡田宗一郎	岡田 創暉	岡野 史子	小川千奈美	小川 哲仙	尾崎 友輔
小野 麻代	小野 容子	尾原 直行	角藤 将翔	片岡 庄一	片山 慈敏	片山 康夫	加藤美由紀
金山 雅幸	金山美佐子	梶島 昭紘	綺田万紀子	上園 桂子	神谷 悦子	川口 涼	河 凱三
川瀬 成吾	川田 裕元	河野小夜子	川南 仁	北田 稔	北村 明子	北村 美香	木下多津江
木原 靖郎	木村 恵子	木本 裕也	久保 玲子	窪田美知留	熊谷 明生	熊谷 明美	熊木 慧弥
熊木 武志	倉田 忠彦	桑田 向陽	小上 泰代	國分 政子	後長シマ子	後藤 真吾	小林 隆夫
斉藤 文子	齊藤 眞琴	齊藤眞由美	酒井 啓子	佐々木亜弥子	佐々木信幸	佐々木則子	佐々木満保
佐々木幹朗	佐々木由巳子	佐々木遼太郎	佐瀬 章男	笹生 正則	佐藤 義信	澤田 一弥	澤田 佳奈
澤田 知之	志賀 暁子	志賀 創	志賀 充	志賀 愛	芝崎美世子	島塚 頭充	島塚 翔伍
島塚みつ子	嶋村のぞみ	菅原 和博	杉山 國雄	鈴木 直子	住田 健	瀬野 知彦	瀬野 美貴
千田 佳穂	千田はる恵	千田 紘慈	千田 祥生	田井中由利子	高田 昌彦	高部 千裕	高山 博好
武田 広志	竹谷 満弘	竹元 冴矢	多胡 好武	立川 直樹	立石 文代	田中 治男	田中 雅也
谷口 雅之	谷口 真司	辻 いづみ	辻川 智代	辻本 一眺	辻本紗也佳	辻本 智子	津田 國史
津田久美子	寺尾 尚純	手良村昭子	手良村知功	手良村知央	徳永 成美	徳永 優	徳永 義利
戸田 歌子	戸田 博通	富 小由紀	富田久仁枝	中井 大介	中尾 京子	中尾 博行	長澤 京子
中嶋 佐苗	中島 財	長津 純子	中西 春陽	中西 寛子	中西 優一	中野 敬二	中村 公一
中村 重信	中村 聡一	中村 友子	中山 法子	那須 彩乃	納屋内高史	西川 美喜	西崎嘉代子
西塚 由美	西村 有巧	西村 義隆	西本 千晃	根来 健	畠山 寿枝	畑中 清司	蜂屋 正雄
初田 彩加	服部 彩乃	服部 隆義	服部 雅也	浜地トミ子	林 克子	久国 正吉	肥田 嘉文
人見 勅輔	深田 元子	福岡 敏雄	福永 和馬	福森 弘二	藤田 敦子	藤田 成子	藤野 勇馬
藤橋 和弘	古川まや子	別所かおる	別所 宏二	堀田 恵子	堀 千重子	堀田 修身	堀田 博美
本田 英樹	前川 桂子	前田 博美	前田 雅子	増永裕里子	松井 清子	松川 郁子	松里 香織
松里 凜	松田 道一	松本 勉	丸尾 秀幸	丸尾 雅啓	水戸 涼乃	水戸 基博	水戸 涼介
三村 武士	宮本 直興	村上 靖昭	村田 博之	村野 やえ	村山 晃彦	村山 和夫	森 擴之
安井加奈恵	安原 輝	柳原 徳子	矢野 修	矢野としこ	八尋 由佳	山川 茜	山川 栄樹
山川 和馬	山川佳那子	山川 侑夏	山口 瑞彦	山口 幸江	山崎 千晶	山田 恵美	山田 和毅

山田 正樹 山中 裕子 山野井邦彦 山本 香織 山本皓一郎 山本 藤樹 山本真里子 山本 道子  
山本由里子 吉井 隆 吉岡 伸子 吉田惠太郎 吉田 達矢 吉田 範香 吉野 心晴 吉野 彰一  
吉野千栄子 吉野まゆみ 吉本 由花 吉本 凜花 吉本 瀧侍 若代 隆行 若代 智子 若本 丈夫  
和田 至博 渡辺圭一郎 (274名)

### 3 社会的支援と新しい経営

#### (1) 利用状況 (2014 年度入館者数)

##### 1) 総入館者数

期 間：2014 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日  
 合 計：358,871 人  
 開館日数： 310 日  
 一日平均： 1,158 人  
 月 平均： 29,906 人

#### 入館者区分別内訳

区分	個人(人)	団体(人)	合計(人)	構成比(%)
未就学児	43,700	20,411	64,111	17.9
小学生・中学生	38,441	66,637	102,078	28.4
高校生・大学生	4,876	6,134	11,010	3.1
一般	157,454	24,218	181,672	50.6
合 計	244,471	114,400	358,871	100.0

年月	開館日数	有料入館(人)				無料入館(人)										総計(人)	一日当たり平均(人)
		一般	高大学生	小中学生 (企画展)	有料計	65歳以上	障害者	家族ふれあい サンデー等	体験学習	こどもの日	学校行事	小中学生	その他	無料計			
2014.4	28	8,790	1,291	0	10,081	740	536	1,169	3	0	283	5,731	5,994	14,456	24,537	878	
5	28	12,986	846	0	13,832	870	865	891	3	1,655	353	11,070	7,376	23,083	36,915	1,318	
6	25	9,854	630	0	10,484	718	1,077	844	2	0	208	8,415	5,264	16,524	27,008	1,080	
7	29	11,561	1,033	658	13,252	680	1,302	6,245	1	0	303	6,676	8,714	23,921	37,173	1,272	
8	30	21,018	1,019	3,411	25,448	803	1,672	18,015	7	0	350	15,841	16,200	52,788	78,236	2,608	
9	22	9,225	504	297	10,026	643	893	913	0	0	1,227	4,943	5,495	14,114	24,140	1,097	
10	28	8,985	803	826	10,624	631	1,336	670	3	0	4,911	13,815	4,835	26,201	36,325	1,315	
11	28	10,197	1,161	604	11,962	590	918	1,874	11	0	2,438	8,290	4,794	18,915	30,877	1,103	
12	20	3,587	327	0	3,914	331	472	448	0	0	25	1,886	2,863	6,025	9,939	497	
2015.1	21	4,895	375	0	5,270	329	510	663	37	0	44	2,692	3,618	7,893	13,163	627	
2	24	6,412	459	0	6,871	416	508	823	3	0	76	3,914	4,500	10,240	17,111	713	
3	27	9,138	1,262	0	10,400	644	10,849	766	4	0	0	3,788	6,585	12,547	22,947	850	
計	310	116,648	9,710	5,806	132,164	7,393	10,849	32,321	74	1,655	10,116	87,061	76,238	226,707	358,871	1,158	

\*家族ふれあいサンデー等：節電クールライフキャンペーン等による無料入場者を含む

#### 来館者数累計900万人達成セレモニー

1996 年 10 月 20 日にオープンをした琵琶湖博物館では、約 18 年 5 ヶ月後の 2015 年 3 月 26 日午後 3 時頃、来館者数が 900 万人に達した。その達成記念として、1 階アトリウムにてセレモニーを開催した。900

万人目は武田 治さん（71 歳、野洲在住）とそのご家族で、記念にくす玉割りを行い、当館副館長から 900 万人目来館者認定証と、記念品としてミュージアムグッズセットやレストラン食事券、花束が贈呈された。



来館者 900 万人目認定証、記念品の贈呈

## 2) 学校等入館者数

年 月	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など		総 計		
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	
2014. 4	全 体	13	1,244	11	1,312	6	1,028	1	8	3	264	34	3,856
	県 内	0	0	0	0	2	279	1	8	0	0	3	287
5	全 体	42	3,640	22	3,600	4	572	2	52	4	83	74	7,947
	県 内	4	330	1	169	1	290	1	31	0	0	7	820
6	全 体	39	3,199	20	3,132	2	153	4	101	8	261	73	6,826
	県 内	24	1,500	4	585	0	0	2	20	0	0	30	2,105
7	全 体	111	854	10	672	18	781	2	76	5	122	46	2,505
	県 内	1	37	5	394	11	232	1	26	0	0	18	689
8	全 体	2	82	4	348	7	398	0	0	3	107	16	935
	県 内	0	0	1	111	6	383	0	0	0	0	7	494
9	全 体	29	2,217	3	283	3	166	3	78	5	125	43	2,869
	県 内	13	945	2	67	3	166	2	48	0	0	20	1,226
10	全 体	155	11,659	7	1,041	8	535	4	112	5	216	179	13,563
	県 内	80	4,647	1	167	2	133	1	10	2	78	86	5,035
11	全 体	54	4,342	10	1,383	8	493	4	43	4	162	80	6,423
	県 内	28	2,137	4	119	3	58	2	22	0	0	37	2,336
12	全 体	14	780	0	0	2	32	1	18	2	115	19	945
	県 内	5	314	0	0	1	5	0	0	0	0	6	315
2015. 1	全 体	12	929	0	0	2	66	1	25	5	176	20	1,196
	県 内	10	755	0	0	1	34	0	0	3	119	14	908
2	全 体	29	1,983	1	163	0	0	3	25	2	27	35	2,198
	県 内	16	979	1	163	0	0	3	25	0	0	20	1,167
3	全 体	2	33	0	0	2	517	1	21	2	59	7	630
	県 内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	全 体	402	30,962	88	11,934	62	4,721	26	559	48	1,717	626	49,893
	県 内	181	11,644	19	1,775	30	1,582	13	190	5	197	248	15,386

### 3) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
2014. 4	11,070	3,466	10,001	24,537
5	18,160	4,266	14,489	36,915
6	10,414	5,278	11,316	27,008
7	14,395	6,495	17,283	37,173
8	13,552	11,996	52,688	78,236
9	12,748	4,605	6,787	24,140
10	7,372	3,536	25,917	36,825
11	11,332	5,274	14,271	30,877
12	4,684	2,183	3,072	9,939
2015. 1	6,454	3,502	3,207	13,163
2	8,207	3,931	4,973	17,111
3	4,725	1,927	16,295	22,947
計	123,113	55,459	180,299	358,871
構成割合	34.3%	15.5%	50.2%	100.0%

### (2) 広報活動

開館18年が経過し、入館者数も35万台へと減少しており、琵琶湖博物館の認知度が薄れてきた傾向が見られる。口コミによる認知度をあげる方法にも限界があり、有料広告や資料提供等を通じて多くの話題をメディアに提供して取り上げてもらうことで、広域に認知度をあげる広報活動を行ってきた。広告掲載12件、ラジオ広報2件、資料提供51件の広報活動を行い、テレビ・ラジオ60件、新聞掲載241件、雑誌等掲載95件に取り上げられた。

### 4) 広告掲載

掲載時期	掲載誌	体裁	スペース	地域	発行部数
4月	産経新聞(4月24日)	朝刊・モノクロ	半2段	北河内	8万部
7月	湖国と文化	B5版	カラー1頁	滋賀県内	3千部
8月	秋びあ東海版	A4版	1/4	東海	7万部
8月	JR西日本駅ポスター (8月4日～17日)	B2版		草津駅、南草津駅、瀬田駅	各1枚
8月	京阪電気鉄道ポスター (8月16日～22日)	B2版		京阪膳所駅、京阪石山駅、京阪山科駅、祇園四条駅、樟葉駅、枚方市駅	各1枚
8月	産経新聞(8月28日)	朝刊・モノクロ	半2段	滋賀、京都、福井、北陸	9万部
8月	滋賀リビング新聞社	タブロイド版	全4段	県内(大津、草津、栗東、守山、野洲)	14万部
8月	あまから手帖	A4版	カラー1/3頁	近畿全域及び一部主要都市	10万部
2015年 1月	るるぶ.com(1月1日～12月 31日)	るるぶ公式サイト ト上		不定	
1月	るるぶ滋賀2015(1月)	AB版	1/8	全国	8.9万部
2月	るるぶこどもとあそび 名古屋東海(2月)	AB版	1/8	東海	4.5万部
3月	おでかけドライブ中部版	A4変型判	1/3	東海	22万部

## 2) ラジオ広報

時期	広報媒体	体裁	スペース	地域
4月25日～29日	エフエム滋賀	スポット、中継	20秒×10本	滋賀県内
2015年3月16日～20	三重エフエム	スポット、中継	20秒×40本	三重県内

## 3) 資料提供

提供日	件名
4月9日	滋賀県立琵琶湖博物館『新琵琶湖博物館創造基本計画』を策定しました
4月25日	琵琶湖博物館 水族トピック展示『イサザ(ハゼ科)琵琶湖固有種』の展示を行っています
4月25日	琵琶湖博物館 水族展示『旬のさかなたち ウグイ』の展示を行っています
4月28日	ゴールデンウィークイベント オリジナルプレゼントがもらえる『からすま半島スタンプラリー』を開催します
5月16日	琵琶湖博物館 水族トピック展示 絶滅危惧種「カゼトゲタナゴの稚魚」の展示
5月20日	琵琶湖博物館 フィールドレポーターの交流会を開催します
5月20日	琵琶湖博物館 環境学習センター 「ちっちゃな子どもの自然遊び」の開催
6月26日	ハッタミミズ調査結果報告 日本一長いミミズが見つかりました
7月4日	琵琶湖博物館ディスカバリールーム 「七夕☆短冊に願いをかこう！」実施中です
7月4日	琵琶湖博物館ディスカバリールーム 「みんなでカイク絵日記を作ろう」実施中です
7月15日	琵琶湖博物館 水族トピック展示 天然記念物「アユモドキ」の稚魚の展示
7月18日	琵琶湖博物館 第22回企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと) ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」の開催 および オープニングセレモニーの開催
7月18日	琵琶湖博物館 第27回水族企画展示 『びわ湖のふるさと「ヨシ原」 ーヨシ原を利用するいきものたちー』の開催
7月23日	近江の祭りや行事を紹介する映像を制作しました
7月25日	株式会社コクヨ工業滋賀から琵琶湖博物館への寄附目録贈呈式について
8月12日	滋賀県立琵琶湖博物館 水族展示 カイツブリの雛が誕生しました！！
8月12日	琵琶湖博物館 水族トピック展示 絶滅危惧 IB 類「ツチフキ」の稚魚の展示
8月12日	講演会「近江盆地の地盤の成り立ちと防災」の開催
8月12日	株式会社ダイフク様から琵琶湖博物館への寄附目録贈呈式について
8月29日	滋賀県から見つかった地下水生ヨコエビ類の新種
8月29日	琵琶湖博物館 「発見！びわ博フェスティバル」を開催します
9月11日	琵琶湖博物館 水族トピック展示 絶滅危惧種「ウシモツゴ」の稚魚
10月3日	琵琶湖博物館 水族トピック展示 絶滅危惧種 スイゲンゼニタナゴの未成魚の展示
10月7日	琵琶湖博物館 B展示室トピック展示「献上された奥嶋のムベ」を開催します
10月7日	「湖上フォーラム みんなで語る「ふなずし」の歴史」を開催します
10月7日	滋賀県立琵琶湖博物館とロシア科学アカデミーシベリア支部バイカル博物館の相互協力の合意について
10月9日	琵琶湖博物館 水族トピック展示 黄色いイワトコナマズを展示します！
10月10日	琵琶湖博物館 第22回企画展示関連イベント『愛湖(あいこ)ちゃんとじゃんけん』の開催
10月16日	琵琶湖博物館 企画展示関連イベント「魚米之郷を楽しむ」を開催します
10月30日	琵琶湖博物館 第22回企画展示「魚米之郷」入場者3万人達成
10月30日	琵琶湖博物館 水族トピック展示 産卵期を迎えたカネヒラ
11月25日	琵琶湖博物館 旬の魚たち アメノウオ(ビワマス)
11月25日	琵琶湖博物館 水族トピック展示 アカヒレタビラの未成魚
12月10日	平成26年度第1回滋賀県立琵琶湖博物館協議会を開催します
12月10日	琵琶湖博物館ディスカバリールーム 「はたきをつくろう！」を開催します

提供日	件名
12月11日	琵琶湖博物館 環境学習センター “淡海こどもエコクラブ活動交流会” の開催
12月17日	「琵琶湖博物館アトリウムコンサート」を開催します
12月19日	琵琶湖博物館 トンネル水槽内のサンタクロース
12月19日	琵琶湖博物館 水族展示 旬の魚たち「ヒウオ」
12月19日	琵琶湖博物館 水族トピック展示 ビワマスの卵
12月26日	琵琶湖博物館 水族トピック展示 「鯉についての四方山話」の開催
1月14日	琵琶湖博物館 2014年度 新琵琶湖学セミナーの開催
2月13日	琵琶湖博物館 「集う・使う・創る」新空間での展示を募集します！
2月18日	琵琶湖博物館 水族トピック展示 琵琶湖固有種アナンデルヨコエビ
3月3日	平成26年度 第2回 滋賀県立琵琶湖博物館協議会を開催します
3月13日	琵琶湖博物館 水族トピック展示 琵琶湖固有種ビワオオウズムシ
3月17日	琵琶湖博物館 琵琶湖博物館が三重県津市に出現！！
3月20日	タンポポ調査・西日本2015を行います
3月20日	滋賀県立琵琶湖博物館 累計来館者が900万人になります！！
3月26日	滋賀県立琵琶湖博物館 3月26日に累計来館者数900万人を達成しました！！
3月27日	琵琶湖博物館 平成27年度企画展示「琵琶湖誕生」関連ミニ展示の開催

#### 4) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
4/2	平和堂マイデイレイフ	トンボ共同研究	FM滋賀	八尋克郎総括学芸員
4/8	モーニングバード	ニゴロブナ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ	テレビ朝日	松田征也総括学芸員
4/9	キラりん滋賀ニュース	ギャラリー展示 「ボーンコレクターズ ー骨に魅せられてー」	びわ湖放送	高橋啓一副館長
4/10	おうみ発 610 クイズで知る びわ湖		NHK 大津	里口保文専門学芸員
4/20	びわ湖興味新深 オープニング特番 「なに？なぜ？びわ湖」	視聴者からよせられたびわ湖 の疑問に答える番組	NHK 大津	藤岡康弘上席総括研究員 桑原雅之総括学芸員 里口保文専門学芸員
4/24	おうみ発 610「プレイバックび わ湖」	赤潮と富栄養化	NHK 大津	芳賀裕樹専門学芸員
4/25	しあわせニュース 2014 春	オオサンショウウオ	NHK 総合	菅原和宏主査
4/28	知ったかぶりカイツブリにゆ ーす	ギャラリー展示「ボーン コ レクターズー骨に魅せられて	びわ湖放送	里口保文専門学芸員
5/2	県政チャンネル～輝け！三重 人～（三重県広報番組）	琵琶湖博物館の県民参加の取 り組み（フィールドレポーター など）	三重テレビ	榊永一宏専門学芸員 里口保文専門学芸員
5/3 ～ 14	関西おでかけガイド	からすま半島で楽しもう「滋 賀のカタツムリを調べよう」	NHK	里口保文専門学芸員
5/6	Honda Smile Mission	ほねほねくらぶ	FM滋賀	里口保文専門学芸員
5/9	所さんの学校では教えてくれ ないそこんトコロ	唐橋で発掘された土器などの 遺物の写真資料	テレビ東京	用田政晴上席総括学 芸員
6/1 4	NHK 俳句	「鯉」	NHKE テレ	篠原徹館長
6/2	おうみ発 610	立命館大学の考えた音響装置 の使い道について一例	NHK 大津	里口保文専門学芸員

放送日		番組名	内容	媒体	担当者
6	4	おうみ発 610「おうみ探検隊」	民具調査	NHK 大津	中藤容子主任学芸員
6	9	ぐるっと関西 大津	民具調査	NHK 大津	中藤容子主任学芸員
6	26	おうみ発 610「プレイバックびわ湖」	えり漁とふなずし	NHK 大津	橋本道範専門学芸員
6	28	月曜から夜ふかし	新種発見（ツリガネムシ）、琵琶湖の研究	日本テレビ	楠岡泰専門学芸員
7	4	Begin Japanology	琵琶湖	NHK BS1	
7	16	おうみ発 610「おうみ探検隊」	作品のモチーフとなる“魚”の写真を琵琶湖博物館で撮影している銅版画家の紹介	NHK 大津	里口保文専門学芸員
7	16	news フェイス	鶺鴒ヒナ	KBS 京都テレビ	篠原徹館長
7	17	すまたん	鶺鴒ヒナ	読売テレビ	篠原徹館長
7	19	しらしがテレビ	企画展示「魚米之郷」	びわ湖放送	里口保文専門学芸員
7	25	ニュース	スズメバチ	びわ湖放送	八尋克郎総括学芸員
7 ～ 8	26 ～ 31	関西おでかけガイド	企画展示「魚米之郷」、水族企画展示「びわ湖のふるさと『ヨシ原』」	NHK	里口保文専門学芸員
8	13	おうみ発 610	トピック展示 ツチフキの稚魚	NHK	金尾滋史学芸員
8	14	おうみ発 610	カイツブリのヒナが誕生	NHK	金尾滋史学芸員
8	14	関西ワイド	トピック展示 ツチフキの稚魚	NHK	金尾滋史学芸員
8	16	関西のニュース	カイツブリのヒナが誕生	NHK	金尾滋史学芸員
8 ～ 9	23 ～ 7	関西おでかけガイド	発見！びわ博フェスティバル	NHK	里口保文専門学芸員
8	29	滋賀プラスワンインフォメーション	発見！びわ博フェスティバル	FM 滋賀	澤村和宏副主幹
8	30	「びわ湖興味新深」夏休みイベント「クイズで“もっともっと”知るびわ湖」	びわ湖トレジャーハント！ブラックフィッシュからの挑戦状～クイズでラリーで知るびわ湖	NHK 大津	
9 ～ 11	1 ～ 24	関西おでかけガイド	企画展示「魚米之郷」	NHK	里口保文専門学芸員
9	8	Begin Japanology 琵琶湖	桶風呂の使い方と目的、外来魚に対する取り組み、固有種のオオナマズとビワマス	NHK ワールド（海外向け）	楊平学芸員
9	18 20 21	気まぐれ旅んちゅ 琵琶湖の旅	琵琶湖博物館の紹介	ドコモスマホ NOTTV	里口保文専門学芸員
9	21	ダーウィンが来た！	「“琵琶湖の主”が浮上する！巨大ナマズ大追跡」ビワコオオナマズ	NHK 総合	里口保文専門学芸員 金尾滋史学芸員
9	24	近江句楽旅行 ～秋の近江路・女子ふたり旅～（仮）	琵琶湖博物館の紹介	KBS 京都テレビ	里口保文専門学芸員
10	17	ニュース	黄色いイワトコナマズ	びわ湖放送	
10	17	おうみ発 610	黄色いイワトコナマズ	NHK 大津	金尾滋史学芸員

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
10 25	ドキュメンタリー番組	琵琶湖博物館の紹介と日本の外来種問題の対策と研究、自然環境保全の取り組みについて	韓国 MBC テレビ	芳賀裕樹専門学芸員
11 12	視点・論点	太古の湖 琵琶湖	NHK 総合・NHKE テレビ	里口保文専門学芸員
11 16	ダーウィンが来た！（ダーウィンニュース）	ハッタミミズ	NHK 総合	大塚泰介専門学芸員
11 14 17 12 22	KANSAI 熱視線	“奇跡”の湖を守れ ～世界が注目するびわ湖～	NHK 大阪	藤岡康弘上席総括研究員 楠岡泰専門学芸員
11 20	おうみ発 610 「びわ湖興味新	JICA 研修様子	NHK 天津	楠岡泰専門学芸員
11 30	チャリダー	自転車でびわ湖一周	NHK BS1	
12 16	おうみ発 845	琵琶湖博物館協議会開催案内	NHK 天津	
12 20	ニュースキャッチ	アトリウムコンサート	びわ湖放送	澤村和宏副主幹
12 23	おうみ発 610	トンネル水槽のサンタクロース	NHK 天津	松田征也総括学芸員
12 23 24	おうみ発 845	トンネル水槽のサンタクロース	NHK 天津	松田征也総括学芸員
1 ～ 2	快汗！自転車ライフ～滋賀満喫ツーリング編	「外来魚・ブラックバス」などを使った料理を提供するレストランを紹介	ZTV 彦根 Act on TV (JCOM 系)	里口保文専門学芸員
1 2	しらしがテレビ	鯉についての四方山話	びわ湖放送	松田征也総括学芸員
1 5	おうみ発 610	ことしにかける「これからの展示」	NHK 天津	桑原雅之総括学芸員
1 5	おうみ発 845	ことしにかける「これからの展示」	NHK 天津	桑原雅之総括学芸員
1 10 ～ 25	関西おでかけガイド	からすま半島で楽しもう「1月の水族バックヤード探検」	NHK	里口保文専門学芸員
2 7 ～ 22	関西おでかけガイド	からすま半島で楽しもう「2月の水族バックヤード探検」	NHK	里口保文専門学芸員
3 12	おうみ発 610 「びわ湖興味新深」	親父がのこしたびわ湖の写真はしかけ「温故写真」	NHK 天津	金尾滋史学芸員
3 14	あなたが選ぶ！「びわ湖興味新深」グランプリ	「びわ湖興味新深」の特別番組	NHK 天津	桑原雅之総括学芸員
3 26	釣り百景（#77 古きを知り新しきを生む 伝統工芸紀州へら竿の世界）	トンネル水槽のゲンゴロウブナ	BS-TBS	山本充孝主査
2 ～ 3 28 ～ 18	関西おでかけガイド	わくわく探検隊「火起こしで昔のくらしを考えよう」、からすま半島で楽しもう「春の大敵！スギ花粉を学ぼう」	NHK	里口保文専門学芸員
3 ～ 4 21 ～ 11	関西おでかけガイド	わくわく探検隊「春の草花でしおりをつくろう」、からすま半島で楽しもう「からすま半島タンポポ調査」	NHK	里口保文専門学芸員

4) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	
4	4	[遊・You・友]「ボーン コレクターズ 一骨に魅せられて」案内	朝日新聞	
	5	[まちかど]「春の草花でしおりをつくろう」案内 / [ニュースを読み解く]琵琶湖博物館の将来像	京都新聞	
	7	「愛骨家」湖国に集まれ！琵琶博、動物の標本 250 点展示	京都新聞	
	8	湖国の今昔 親子で撮影 彦根の大橋さん多賀で写真展 四年前の琵琶湖博物館につき 2 回目 20 日に嘉田由紀子知事と金尾滋史学芸員、大橋氏との座談会開催	中日新聞	
	8	[みんなおいでよ]「植物化石で太古の森を学ぼう」案内	読売新聞(しが県民情報)	
	11	[展覧会]「ボーン コレクターズ 一骨に魅せられて」案内 / 大橋宇三郎・洋 親子の写真展「写真で見る昭和の近江」と大橋洋氏と嘉田由紀子知事、金尾滋史学芸員による座談会開催	読売新聞(しが県民情報)	
	12	新しい研究成果展示 琵琶湖博物館 20 周年の改装計画	毎日新聞	
	12	[湖岸より]〈207〉 友好の懸け橋～日中共同講演会 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞	
	17	動物の骨格標本、約 250 点！ギャラリー展示「ボーン コレクターズ 一骨に魅せられて」 高橋啓一副館長のコメント	毎日新聞(オー！ミー)	
	19	改修具体案明記 基本計画を策定 琵琶湖博物館	中日新聞	
	19	骨の不思議さを紹介 琵琶湖博物館で骨格標本展覧会「ボーン コレクターズ 一骨に魅せられて」	産経新聞	
	21	ニジマス、キウイは侵略的？ 「外来種リスト」候補に 中井克樹専門学芸員のコメント	中日新聞	
	21	環境に優しい先人の知恵紹介 学者嘉田知事 琵琶湖博物館の学芸員時代に集めたしやしんを紹介、基調講演	毎日新聞	
	25	湖国 花盛り！草津 琵琶湖博物館のある烏丸半島で色とりどりのパンジーの花が見ごろ	毎日新聞	
	26	わくわく西日本 2014 滋賀編 琵琶湖博物館「ボーン コレクターズ 一骨に魅せられて」案内	読売新聞	
	26	[湖岸より]〈208〉 中国・長江と太湖・洞庭湖～企画展「魚米之郷」を前に 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞	
	27	モンゴル森林 再生策解明、琵琶博の元学芸員 雨少なく、火災相次ぎ焼失 倒木の陰で発芽日光遮り湿度保つ 草加伸吾元学芸員のコメント	京都新聞	
	28	ゾウの化石 見つけるゾ 多賀「古代ゾウ発掘プロジェクト」の 2 次調査	朝日新聞	
	28	アケボノゾウ化石期待 多賀の住民や琵琶湖博物館学芸員らが古代地層の発掘作業	中日新聞	
	29	[まちかど掲示板]「タンポポ調査にチャレンジ」開催案内	読売新聞(しが県民情報)	
	5	1	古代ゾウ見つけるぞ！町民による多賀町発掘隊や琵琶湖博物館学芸員らで調査団を結	毎日新聞
		1	琵琶湖新機構が発足 研究から対策立案まで横断的に 委員長に副知事、琵琶湖博物館の篠原徹館長らが顧問に就き助言	京都新聞
		4	産卵シーン見られるかも ウグイとイサザ 琵琶湖博物館で展示 <写真資料提供:『ウグイ』『イサザ』> / [近江のこころ]-飛躍への提言- 環境と経済を両立し活性化 <上> 元琵琶湖博物館総括学芸員嘉田由紀子知事	中日新聞
		6	大きな骨格標本に驚き 琵琶湖博物館剥製も合わせ展示	中日新聞
		8	[探 Q しが]琵琶湖八珍 独自の食文化 <写真資料提供:『ピワマス』『コアユ』『ニゴロブナ』『ハス』『ホンモロコ』『イサザ』『ピワヨシノボリ』『スジエビ』>	読売新聞
		10	[湖岸より]〈209〉 企画展「魚米之郷」を前に 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
		13	集めた骨 ボーンと展示 県立琵琶湖博物館で 18 日まで 高橋啓一副館長のコメント	朝日新聞
		13	草津・琵琶湖博物館で春の草花でしおりをつくろう 草加伸吾嘱託員の説明に参加者、色や形の違いが面白く	読売新聞(しが県民情報)
		13	身近な生物 色彩豊かに 草津、渋川小児童の絵図 琵琶湖博物館で展示	中日新聞
20		ゾウの化石に興味津々 大津、真野小 琵琶湖博物館などにレプリカが所蔵される貴重な化石に児童たちは興味深く観察	読売新聞(しが県民情報)	
21		在来魚復活へ連携 琵琶湖機構が初会合 同顧問の篠原徹琵琶湖博物館館長「どれだけ内湖を再生させるかという大きな目標も必要では」と指摘	京都新聞	
22		[かしま滋賀]リケジョ お仕事きらり 鳥類の研究 体力勝負 亀田佳代子総括学芸	読売新聞	
22		[遊・You・友]絶滅危惧種「カゼトゲタナゴの稚魚」展示案内	朝日新聞	
23		琵琶湖の環境保全へ新組織 琵琶湖博物館など 8 つの試験研究機関が参加	日本経済新聞	
24		[湖岸より]〈210〉 エリのルーツを探る 用田政晴上席総括学芸員 / 博物館など魅力発信 県内留学生ら英語版ガイド本作成 県博協 / 琵琶湖博物館で絶滅危惧種の稚魚 30 匹展示 <写真資料提供:『カゼトゲタナゴ』>	中日新聞	
24		[まちかど掲示板]フィールドレポーター交流会開催案内	京都新聞	
25		県内 70 館 英語で紹介 博物館・美術館ガイドブック 留学生ら「おすすめコース」作成	朝日新聞	
25		電源の代わりはあるが 琵琶湖の代わりはない 元琵琶湖博物館総括学芸員嘉田由紀子知事に聞く	産経新聞	
27		[みんなおいでよ]県立琵琶湖博物館「びわこの魚を解剖しよう」参加募集	読売新聞(しが県民情報)	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
5	28	[なるほドリ]琵琶湖環境研究推進機構って？ 8研究機関と行政が連携 広い視野で課題解決	毎日新聞
	31	[湖岸より]〈211〉 中国の琵琶湖と日本の太湖・洞庭湖 用田政晴上席総括学芸員 / 日本最長ミズ情報求む 研究者ら生態調査 撮影きょう締切 大塚泰介専門学芸員のコメント	中日新聞
6	1	博物館・美術館 英語の案内本作成 県博協 学生や留学生、県内 70 館紹介	京都新聞
	4	[針路 嘉田県政 8 年]2 琵琶湖の外来生物 「特定」漏れ対応後手に 中井克樹専門学芸員のコメント / [なるほドリ]湖魚のイサザ 大豊漁だって!? 浜値は急落、引き取り手もないほど 琵琶湖博物館の話	毎日新聞
	6	2年連続“オバケエビ”出現 本名はホウネンエビ 「湖西北部で大変珍しい」 マーク・J・グライガー上席総括学芸員と楠岡泰専門学芸員の話	毎日新聞
	6	[遊・You・友]「魚のゆりかご水田学習会」開催案内 大塚泰介専門学芸員の説明を聞きながら生き物観察	朝日新聞
	10	近江の博物館 LOVE&JOY 留学生ら英語ガイド本 県博協	読売新聞
	10	[原発不稼働 2014 夏]サクネン以上の節電を 来月から琵琶湖博物館などの県立文化施設を無料で開放	中日新聞
	11	ゼニタナゴ稚魚展示 14 年ぶり 琵琶湖博物館	京都新聞
	14	[湖岸より]〈212〉 コイと四大家魚 藤岡康弘上席総括研究員	中日新聞
	15	関西アーバン銀行が「夏休み！びわ湖体感学習」参加者募集 環境学習船に乗船後、琵琶湖博物館を見学	京都新聞
	21	[大津絵のキャラカ]13 庶民の留飲下げる鯨の「世直し」 大震災のたびに注目 大きな地震があると琵琶湖博物館に問合せがあるそう / 琵琶湖の動植物 銅版画に守山の作家 琵琶湖博物館のギギなどを題材に京で個展	京都新聞
	24	琵琶湖博物館 カタツムリ調査報告書 子供らが採集や観察	産経新聞
	25	7月1日「びわ湖の日」本年度事業 「移動博物館」今日で開催	京都新聞
	27	日本最長!? 85センチミズズ 甲賀の耕作放棄地で発見 発見した大塚泰介専門学芸員のコメント	中日新聞
	28	[湖岸より]〈213〉 鵜と漁業 藤岡康弘上席総括研究員	中日新聞
30	ウミウの卵 かえった 宇治川の鵜飼 飼育で産卵、異例 篠原徹琵琶湖博物館館長の話	朝日新聞	
7	1	[地域発見 滋賀の博物館・美術館巡り]〈17〉 滋賀県立琵琶湖博物館 湖の歴史と未来を考える 環境・人との関わり、楽しみながら学ぼう 里口保文専門学芸員	毎日新聞
	1	自然を守る活動支援 県がセンター設置 専門家を紹介 質問に回答 県が県立大学や琵琶湖博物館などの研究機関と連携し相談にのる	朝日新聞
	1	[催し]琵琶湖博物館「魚米の郷」開催案内	京都新聞
	1	[みんなおいでよ]わくわく探検隊「ほねにふれよう」開催案内	読売新聞(しが県民情報)
	2	日本一長〜いミズズ発見 体長 89 センチ甲賀	朝日新聞
	3	人面ガ?発見 栗東のメロンハウス 琵琶湖博物館の話	京都新聞
	4	[選挙コラム 湖声]見えない力 琵琶湖博物館で以前見た展示	京都新聞
	4	[新時代 知事選 候補者に聞く] 三日月大造氏 環境保全に対する取り組み 琵琶湖博物館のリニューアル	産経新聞
	8	来館者が自由に短冊に書き込み 県立琵琶湖博物館 / 体験講座多彩に「博物館夏祭り」	中日新聞
	9	人形づくりや拓本など体験 13 日・博物館夏祭り 琵琶湖博物館など 14 の美術館・博物館が子どもたち向けのワークショップ開催	毎日新聞
	9	小さな翼大空へ 竜王・ハッチョウトンボ 琵琶湖博物館の話	中日新聞
	10	博物館夏祭楽しんで 13 日、彦根 最多の 14 館参加 「お魚タッチコーナー」(琵琶湖博物館)や「折り紙でホテルを折ろう」(ほたるの森資料館)など	京都新聞
	10	博物館や美術館 取り組み一堂に 琵琶湖博物館をはじめ 14 施設が参加	産経新聞
	11	室内照明消して卓上灯 クールアクション 10 年比 11%以上節電へ 琵琶湖博物館など 県立 4 施設で「節電クールライフキャンペーン」を実施、県の広報誌持参で常設展無料	読売新聞
	11	「湖国ダービー」1 年大きさ続々更新 ハッタミズ甲賀の 92 センチ最長 琵琶湖博物館が情報募集を継続 大塚泰介専門学芸員の話	京都新聞
	12	「博物館夏祭り」あすから彦根で 14 館が参加 催しは琵琶湖博物館のお魚タッチコーナーなど	朝日新聞
	12	[湖岸より]〈214〉 湖南省との友好推進 「魚米の郷」近日開幕 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
	15	[地域発見 滋賀の博物館・美術館巡り]〈18〉 多賀町立博物館 アケボノゾウの夢紡ぐ 開館 15 年、地域密着でさらなる大発見を アミンチュプロジェクト、琵琶湖博物館地学研究室と連携・協働して企画	毎日新聞
	17	アユモドキ稚魚 来月 3 日まで琵琶湖博物館で展示 <写真資料提供:『アユモドキ』	中日新聞
	19	嘉田知事退任 重責全う笑顔と涙 琵琶湖博物館の企画展を視察後、知事の仕事を終える	京都新聞
20	県立琵琶湖博物館で企画展示始まる 太湖・洞庭湖に焦点 湖周辺の生活日中比較 楊平主任学芸員のコメント	読売新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
7	22	最大級ハス群生 湖彩る 見頃の時期に合わせ、近くの琵琶湖博物館前広場で熱気球搭乗体験	読売新聞
	23	安土城考古博物館で学芸員の仕事体験と遺跡見学イベント、30日は琵琶湖博物館などを巡り仕事の舞台裏を見学	京都新聞
	24	日中の湖 水辺の暮らしを比較、県立琵琶湖博物館で企画展示「魚米之郷」開催 企画をした楊平主任学芸員のコメント	毎日新聞
	25	琵琶湖博物館で ヨシ原のニゴロブナやカヤネズミ紹介 「びわ湖のふるさと『ヨシ原』」が開催 桑原雅之総括学芸員のコメント	毎日新聞
	26	[湖岸より]〈215〉 洞庭湖の史跡を訪ねる 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
	27	湖国の魅力を討論、琵琶湖の味堪能 安土城考古博物館や琵琶湖博物館などでつくる県ミュージアム活性化推進委員会と琵琶湖汽船が主催「湖上フォーラム ライブミュージアム琵琶湖」開催 / 亀岡産アユモドキ増やせ 人工繁殖へ水族館連携 アユモドキ保護に向けた水族館ネットワークを束ねる松田征也総括学芸員のコメント	京都新聞
	29	[みんなおいでよ]「竹筒トラップでハチを観察しよう」開催案内	読売新聞(しが県民情報)
	30	[テーブルトーク]酒とハイク土地の魅力に酔う 篠原徹琵琶湖博物館館長著「酒薫旅情」の紹介	朝日新聞
	31	猛暑 節電徹底 「節電クールアクション」で琵琶湖博物館など四つの県立文化施設を無料開放	中日新聞
	8	2	琵琶湖博物館でアユモドキ展示 琵琶湖博物館のコメント 〈写真資料提供:『アユモドキ』〉
2		涼呼ぶトノサマガエル 突然変異?青色 長浜の湖北野鳥センターで展示 琵琶湖博物館のコメント	京都新聞
4		長浜城歴博 500万人突破 県内の博物館では琵琶湖博物館に続き2館目 / [凡語]大塚泰介専門学芸員も驚いた 笠縫東小学校で育てているハッタミミズ	京都新聞
9		琵琶湖と太湖・洞庭湖 水辺の暮らし、日中比較 琵琶湖博物館で企画展示「魚米之郷」開催	京都新聞
9		[湖岸より]〈216〉 水が水郷の「リズム」育てる 楊平主任学芸員	中日新聞
12		琵琶湖の新機構 総合的な保全策に期待 琵琶湖博物館など8つの試験研究機関が連携し、施策、政策の立案を目指す。	京都新聞
13		超キュート カイツブリ誕生ひな3羽 琵琶湖博物館で一般公開 〈写真資料提供:『カイツブリのひな』〉	中日新聞
14		カイツブリ3羽すくすく琵琶湖博物館 〈写真資料提供:『カイツブリのひな』〉	読売新聞
14		カイツブリひな3羽元気に成長 琵琶湖博物館	朝日新聞
14		絶滅危惧種ツチフキの稚魚 月末まで琵琶湖博物館で展示 琵琶湖博物館のコメント 〈写真資料提供:『ツチフキ』〉	中日新聞
14		出勤者控え経費削減、県は3日間の集中休暇入り 琵琶湖博物館などは通常に近い勤務体制	京都新聞
16		草津の琵琶湖博物館で3羽誕生、5年ぶり県鳥カイツブリにヒナ 〈写真資料提供:『カイツブリのひな』〉	産経新聞
19		ひな愛くるしい姿 カイツブリが子育て 琵琶湖博物館 〈写真資料提供:『カイツブリのひな』〉	毎日新聞
19		カイツブリひな愛らし琵琶博で初展示 琵琶湖博物館のコメント 〈写真資料提供:『カイツブリのひな』〉	京都新聞
20		動物骨格の神秘 標本で見て 栗東の高1制作、栗東自然観察の森で初展示会 高橋啓一副館長のコメント	京都新聞
21		「琵琶湖の宝」6つ選出 子どもラムサール会議参加者は期間中、ふなずしの試食や琵琶湖博物館の見学などを体験	中日新聞
23		[湖岸より]〈217〉 水辺ならではの知恵 楊平主任学芸員	中日新聞
23		絶滅危惧種選定のコイ科ツチフキ大量繁殖 琵琶湖博物館で初成功公開 琵琶湖博物館担当者のコメント 〈写真資料提供:『ツチフキ』〉	京都新聞
25		南湖の水草3年ぶり大量発生 芳賀裕樹専門学芸員の話	京都新聞
25		琵琶湖の環境考えて 産廃処理業者ら「外来魚釣り」のイベントを琵琶湖博物館で開催 琵琶湖博物館の学芸員から話を聞いて学んだ後、外来魚釣りに挑戦	産経新聞
26		水辺の生活に焦点 写真や資料で紹介 琵琶湖博物館で企画展示	中日新聞
26		能登川博物館で昔の農家の知恵学ぶ 琵琶湖博物館で見たことのあるじゃ車を体験したことのある小学生のコメント	毎日新聞
26		[みんなおいでよ]「発見!びわ博フェスティバル」開催案内	読売新聞(しが県民情報)
27		カヤネズミ小さな体で大きな瞳 琵琶湖ヨシ原の生物展 ニゴロブナなど40点琵琶湖博物館で31日まで開催 〈写真資料提供:『カヤネズミ』『ニゴロブナ』〉 / [名作探訪]大津・湖南編 1 「ぼてじゃこ物語」草津 浅薄な人間になるな 金尾滋史学芸員のコメント	読売新聞
27		希少なツチフキ大量繁殖に成功 琵琶湖博物館で展示 琵琶湖博物館のコメント 〈写真資料提供:『ツチフキ』〉	朝日新聞
27		絶滅危惧種の淡水魚「ツチフキ」大量繁殖に成功 琵琶湖博物館が200匹 31日まで稚魚公開 松田征也総括学芸員のコメント 〈写真資料提供:『ツチフキ』〉	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
8	28	南湖のコカナダモ大繁殖 8月上旬「水道水から悪臭」大津で苦情多数 芳賀裕樹専門学芸員のコメント	毎日新聞
	28	琵琶湖南湖で影響深刻 水草大量漂着で悪臭 芳賀裕樹専門学芸員のコメント	中日新聞
	28	【おでかけカレンダー】「発見！びわ博フェスティバル」案内	毎日新聞(オー！ミー)
	29	「ツチフキ」大量繁殖成功 琵琶湖博物館が絶滅危惧種稚魚展示 金尾滋史学芸員のコメント <写真資料提供:『ツチフキ』>	産経新聞
	30	琵琶湖博物館マーク・J・グライガー上席総括学芸員らが湖東の地下水調査でヨコエビの新種発見、日本動物学会の学会誌で紹介 グライガー上席総括学芸員のコメント <写真資料提供:『モリノヨコエビ』> / [湖岸より]<218> 水辺の植物資源利用と工夫 楊平主任学芸員・細谷葵お茶の水女子大学特任講師	中日新聞
	31	政府が第1次アクションプランをつくることを検討 中井克樹専門学芸員のコメント	読売新聞
9	2	【みんなおいでよ】わくわく探検隊「葉っぱ模様の手ぬぐい作り」開催案内	読売新聞(しが県民情報)
	5	新種のヨコエビ発見 琵琶湖博物館、学会誌で公開 <写真資料提供:『モリノヨコエビ』>	朝日新聞
	7	フナ・メダカ・ドジョウ・ナマズ…魚のゆりかご水田 16種の遡上確認 琵琶湖博物館など調査 金尾滋史学芸員のコメント	朝日新聞
	7	[湖岸より]<219> 湖上に住む漁民-太湖の家船 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
	18	[青鉛筆]琵琶湖博物館ミュージアムショップ「おいでや」が琵琶湖のヨシを材料とした「古代湖浪漫よしクッキー」を販売	朝日新聞
	19	「抹茶に似たほろ苦さ」ヨシ入りクッキー商品化 琵琶湖博物館で販売	毎日新聞
	21	琵琶湖のヨシ入りのクッキーできました！三重のNPO法人 草津市の琵琶湖博物館などで発売	中日新聞
	23	南湖 水草が大量発生 飲み水や漁業に影響 芳賀裕樹専門学芸員の話	朝日新聞
	23	【みんなおいでよ】「ビワマスの採卵現場を見学してみませんか！」開催案内	読売新聞(しが県民情報)
	27	[湖岸より]<220> 湖魚の漁獲量について 藤岡康弘上席総括研究員	中日新聞
30	ヨシ香るクッキーいかが 琵琶湖開発・販売「湖の文化 五感で」琵琶湖博物館内売店「ミュージアムショップおいでや」がNPO法人「地域と自然」と共同開発し同店で販売を始める	京都新聞	
10	1	琵琶湖博物館の調査でフナ類やドジョウなどの生育に効果のあることが分かった『魚のゆりかご水田』世界に 韓国国際会議で発表	京都新聞
	7	琵琶湖の環境 映画で訴え 赤野井湾での撮影に漁師や県立琵琶湖博物館の学芸員らが全面協力	毎日新聞
	7	琵琶湖で生き物実習 びわこ総文の自然科学部門が東近江市立八日市文化芸術会館と琵琶湖博物館で開かれブルーギルの解剖や化石の調査などの実習も企画	朝日新聞
	8	博物館タッグ 琵琶湖博物館とバイカル博物館が相互協力協定締結 ウラジミール・フィアルコフ館長と篠原徹館長が協定書に調印 リニューアル後の水族展示室に「古代湖の世界」をテーマにしたコーナーを新設しバイカルアザラシなどの展示を予定	京都新聞
	9	ミミズ「最長」競争過熱 日本最大「ハッタ」種「本家」石川 NPO法人「河北潟湖研究所」が滋賀「琵琶湖博物館」に挑戦状 大塚泰介専門学芸員のコメント	毎日新聞
	9	中国の湖を知り琵琶湖を見直そう！企画展示「魚米之郷」と関連イベント「魚米之郷を楽しむ演奏会」の開催案内	毎日新聞(オー！ミー)
	11	[湖岸より]<221> 琵琶湖に家船はあったのか 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
	12	狙え大物 ハッタミミズ 笠縫東小3年78人が挑戦 大塚泰介専門学芸員のコメント	毎日新聞
	12	ムベと天皇の関わり紹介 掛け軸や古文書を琵琶湖博物館で展示 琵琶湖博物館のコメント	京都新聞
	16	ふなずし歴史どっち？湖上フォーラム「みんなで語る『ふなずし』の歴史」で議論を肴に舌鼓 橋本道範専門学芸員のコメント	読売新聞
	17	滋賀県立琵琶湖博物館チャームなタナゴ スイゲンゼニタナゴを展示	産経新聞
	17	湖上フォーラム「みんなで語る『ふなずし』の歴史」開催案内	読売新聞(しが県民情報)
	21	【みんなおいでよ】「秋の里山を歩こう」開催案内	読売新聞(しが県民情報)
	22	[十字路]全身が鮮やかな黄色に彩られた「イトコナマズ」が琵琶湖博物館に登場	産経新聞
	23	「古代湖」が結んだ縁 琵琶湖博物館がバイカル博物館と協力協定締結 両博物館の館長がバイカル博物館で調印 琵琶湖博物館はバイカルアザラシなどの生物をリニューアルに伴う新展示「古代湖の世界」で紹介する予定	産経新聞
	24	先人に学ぶ減災 古今の類例を検証 近江の自然災害-地震と水害の歴史- <写真資料提供:『大洪水で浸水した近江八幡市江頭町地域』>	読売新聞(しが県民情報)
	25	[湖岸より]<222> 陽澄湖と上海ガニ 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
	28	琵琶湖の「ヨシ」をクッキーに 琵琶湖博物館と三重の団体開発	産経新聞
	28	ふなずし調理法あれこれ 来月8日、大津で研究者ら議論 橋本道範専門学芸員のコメント	京都新聞
	28	「日本一」のミミズ探し 草津市立笠縫東小学校 大塚泰介専門学芸員と市民活動グループ「草津塾」のメンバーの指導で探す	読売新聞(しが県民情報)
31	琵琶湖博物館「古代湖の世界」展示へ 露の博物館と相互協力 篠原徹館長とウラジミール・フィアルコフ館長とともに協定書に調印 琵琶湖博物館のコメント	中日新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
11	1	[湖岸より]<223> 犁と唐箕 農具に見る中国との関係 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
	3	琵琶湖新たな脅威 外来魚 アメリカナマズ急増 漁業・希少種に影響も <写真資料提供：『ビワコオオナマズ』>	読売新聞
	4	環境学習の方針 現状などを確認 県庁で推進協議会 琵琶湖博物館環境学習センターへの提言なども	中日新聞
	5	[湖国地名探訪 25]下物町(草津市) 現在は琵琶湖博物館や水生植物公園みずの森、道の駅草津などさまざまな施設が整備、観光スポットとなっている / 外来水草バスターズ 琵琶湖に異常繁殖 深刻化、まず「知って」除去作業、2・3 日目は琵琶湖博物館のある烏丸半島	京都新聞
	7	○今週の歳時記○わくわく探検隊「秋の色でピンゴ」開催案内	産経新聞
	9	ひしゃげた頭、曲がった背… 床下から謎の骨 近江八幡 ナマズ? 専門家思案顔	読売新聞
	11	「ふなずし」考えクルージング堪能 湖上フォーラム 琵琶湖博物館の学芸員ら発酵食文化の研究者らがふなずしの歴史などについて話す	産経新聞
	13	琵琶湖博物館リニューアル設計素案 湖と人間の関わり、より楽しく学べる施設に	産経新聞
	15	[湖岸より]<224> 新しく生まれかわる琵琶湖博物館 亀田佳代子総括学芸員	中日新聞
	27	ビワマスの生態学ぶ 米原市息長小学校で桑原雅之総括学芸員が講義	中日新聞
	29	[湖岸より]<225> 琵琶湖そのものが感じられる展示 芳賀裕樹専門学芸員	中日新聞
	30	[滋賀プラス1]新聞版・情報ひろば 「からすま半島の冬鳥を観察してみよう」催し案内	各紙
	12	2	[かいつぶり]外来生物法10年 中井克樹専門学芸員の話
4		琵琶湖博物館 アカヒレタビラ未成年魚など展示 琵琶湖博物館のコメント	中日新聞
10		地産地消もっと14日大津で催し「三方よしエコフェア」琵琶湖博物館の資料の出張展示など	中日新聞
14		[湖岸より]<226> ヨシの価値を考える 芦谷美奈子主任学芸員	中日新聞
21		クリスマスもうすぐ 水槽から笑顔プレゼント 琵琶湖博物館	朝日新聞
21		魚と遊泳 水槽から愛嬌 子どもら歓喜 琵琶湖博物館	京都新聞
21		各地Xマスイベント「琵琶湖博物館アトリウムコンサート」県内学生ら出演 合唱や演奏披露	中日新聞
22		琵琶湖漁業イエローカード 放流用アユに国内外来種混入 <写真資料提供：『コアユ』『ハス』>	毎日新聞
22		国内最長ミズを探せ「琵琶湖地域の水田生物研究会」が琵琶湖博物館で開催 研究成果を発表 大塚泰介専門学芸員のコメント	京都新聞
23		来場者サンタにびっくり 巨大水槽職員が清掃や餌やり 県立琵琶湖博物館	中日新聞
24		バス料理消えるメニュー 県立琵琶湖博物館のレストラン「にほのうみ」仕入れ減、確保難しく 平井店長のコメント	読売新聞
27		ふなずし 旬に新設 橋本道範専門学芸員の話	京都新聞(夕刊)
29		はたき作って大掃除 琵琶湖博物館	読売新聞
29	はたきで大掃除したい 琵琶湖博物館で手作り教室	中日新聞	
1	1	[催し]新琵琶湖学セミナー第1回 開催案内	京都新聞
	5	琵琶湖博物館 国に譲渡の子孫も展示 コイのあれこれ見に来て	朝日新聞
	5	琵琶湖のコイの生態や歴史紹介「鯉についての四方山話」琵琶湖博物館	中日新聞
	5	バイカル湖新生態見つけろ! 琵琶湖博物館が調査 琵琶湖博物館のコメント	産経新聞(夕刊)
	6	県の琵琶湖研究8機関が発表会「淡海の未来を拓く」とワークショップが琵琶湖博物館で開かれる	京都新聞
	6	磨け! 滋賀のブランド力“お宝”活用知恵絞る 県博物館協議会と環びわ湖大学・地域コンソーシアムが冊子「滋賀ミュージアムポケットナビ2014」を製作	中日新聞
	7	琵琶湖守る技術中国に 県と湖南省水質改善に期待 <写真資料提供：『洞庭湖と湖岸の風景』>	読売新聞
	10	[湖岸より]<227> 社会的共通資本としての田んぼ 大塚泰介専門学芸員	中日新聞
	13	魚介のにぎわい取り戻すには 琵琶湖研究の成果発表「淡海の未来を拓く～試験研究機関の挑戦～」藤岡康弘上席総括研究員が問題提起	朝日新聞
	13	琵琶湖関わる県の8機関 在来魚介類復活へ研究報告「淡海の未来を拓く」が琵琶湖博物館で開催される	京都新聞
	15	県新年度一般会計予算案 見積額5.6%増5443億円 琵琶湖博物館の水族展示室のリニューアル7億2099万円	朝日新聞
	15	琵琶湖疏水、観光潤す③ 在来種、どう守る 琵琶湖博物館で飼育されているイチモンジタナゴは神苑から採取したものの子孫 松田征也総括学芸員のコメント <写真資料提供：『イチモンジタナゴ』>	日本経済新聞(夕刊)
	16	琵琶湖の微生物アートに 成安造形大宇野准教授 巨大彫刻取り組む プランクトンとの出会いをきっかけに琵琶湖博物館で毎夏、子供向けのワークショップを開催	京都新聞
18	コイヘルペス研究で三重県に譲渡 子孫12匹 琵琶博里帰り 松田征也総括学芸員のコメント	京都新聞	
22	[琵琶湖遠近]第1部いま水辺で 6.分散するカワウ 捕獲難航再び増加懸念 亀田佳代子総括学芸員のコメント	京都新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
1	23	[遊・You・友]展示「水族バックヤード探検」開催案内	朝日新聞
	23	[琵琶湖遠征]第1部いま水辺で 南湖の水草 繁茂止まらず湖底悪化 芳賀裕樹専門学芸員のコメント	京都新聞
	23	県立琵琶湖博物館 アユの子供 ヒウオ展示	産経新聞
	24	[湖岸より]〈228〉琵琶湖を育む森と川 林竜馬学芸技師	中日新聞
	28	エコ書初め審査作品募集 琵琶湖博物館ミュージアムショップ「おいでや」とNPO法人「地域と自然」	中日新聞
	30	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内（「鯉についての四方山話」）	朝日新聞（夕刊）
	30	[展覧会]「滋賀の石橋・日本の石橋」開催案内	読売新聞（しが県民情報）
31	[湖岸より]〈229〉 これからの暮らしを考える 大久保実香学芸員	中日新聞	
2	5	コイにコイして見にコイコイ 安土城考古博物館と琵琶湖博物館 2館が連携企画展	毎日新聞
	5	「鯉についての四方山話」「田んぼ体験（わら細工）」「化石のレプリカづくり」「2月の水族バックヤード探検」開催案内	毎日新聞（オー！ミー）
	7	[食卓ものがたり]氷魚 輝ける「琵琶湖のダイヤ」 桑原雅之総括学芸員の話	中日新聞
	10	[まちかど]テーマ展講座「中世琵琶湖のコイとフナ」講師、琵琶湖博物館橋本道範専門学芸員	京都新聞
	10	15年度当初予算案 滋賀県一般会計5385億円 琵琶湖博物館の展示リニューアルにもとりかかる	京都新聞（夕刊）
	10	20年以上撮りためた全国の石橋写真413点「滋賀の石橋・日本の石橋」展を琵琶湖博物館で開催	中日新聞
	10	[みんなおいでよ]「化石のレプリカづくり」開催案内	読売新聞（しが県民情報）
	11	2015年度県当初予算案 一般会計4.5%増5386億円 琵琶湖関連では琵琶湖博物館水族展示部分を改装	朝日新聞
	11	県予算エネ、人口減配慮 県立琵琶湖博物館設備刷新 7億円	読売新聞
	11	県15年度当初予算案 一般会計5385億5000万円 「投資的経費」は高校再編に伴う新校や「うみのこ」の建設、琵琶湖博物館リニューアルなどで普通建設費が3.6%増	毎日新聞
	11	県27年度当初予算案 一般会計、過去10年で最高 5385億円、増収増見込む 琵琶湖博物館のリニューアルなどの大型事業を予定	産経新聞
	11	県15年度当初予算案 社会保障や教育増額 3年連続上回る 琵琶湖環境費は琵琶湖博物館リニューアルがある一方、廃棄物処分上対策事業費などが減り11億円減の181	京都新聞
	11	2015年度県当初予算案 県債残高最高1兆842億円 琵琶湖博物館の展示交流空間再構築などの事業にも県債発行で対応	中日新聞
	13	[今週の歳時記]「化石のレプリカづくり」開催案内	産経新聞
	14	琵琶博 希少魚を譲渡 ハリヨやアユモドキなど4種、京の水族館や動物園に飼育方法も伝授「分散、保護」松田征也総括学芸員のコメント	京都新聞
	14	[湖岸より]〈230〉 県の生物多様性を体感できる展示 八尋克郎総括学芸員	中日新聞
	17	全国の石橋写真で紹介 甲賀の男性琵琶博で410点展示	京都新聞
	18	危機の琵琶湖固有種 生態系の貴重さ再認識を 金尾滋史学芸員のコメント	京都新聞
	20	[遊・You・友]「滋賀の石橋・日本の石橋」開催案内	朝日新聞
	20	生き物の管理、ファンが寄付 琵琶博「サポーター制」水槽別に「愛着もって」琵琶湖博物館のコメント	京都新聞
20	「水槽サポーター」検討 琵琶湖博物館収入確保へ	中日新聞	
27	自然大学 琵琶湖でも学ぶ 第21期生募集	毎日新聞	
28	化石の年代絶滅期濃厚 滋賀・多賀出土のナウマンゾウ 高橋啓一副館長の協力を得て放射性炭素の年代を測定	中日新聞	
28	[湖岸より]〈231〉 研究成果 展示する博物館 榎永一宏専門学芸員	中日新聞	
3	1	琵琶湖の自然学ぶ 日本自動車連盟（JAF）滋賀支社主催 特別講座「びわ湖に生息する魚と湖の環境について学ぼう」を中井克樹専門学芸員を講師に琵琶湖博物館で開催	産経新聞
	1	琵琶湖の水運権力の関わり 用田政晴上席総括学芸員が「荒神山古墳・佐和山城と松原内湖に浮かべた信長の船の意義」彦根で講演会	朝日新聞
	1	権力者琵琶湖どう利用 彦根で講演会 用田政晴上席総括学芸員が歴史的意義を紹介	京都新聞
	2	滋賀の環境保全、参考に台湾・台南市長ら「たくさんの収穫」琵琶湖博物館など見学、琵琶湖固有種の「ピワマス」や「ピワコオオナマス」などを鑑賞	産経新聞
	2	琵琶湖ルーツに新設 琵琶湖博物館が検証 450万年前東北地方の巨大湖 高橋啓一副館長のコメント 〈写真資料提供：『ゲンゴロウブナ』『400万年前のケイ藻』『スズキケイソウ』〉	毎日新聞（夕刊）
	3	しが生物多様性大賞「イチモンジタナゴの保護繁殖活動」オムロン野洲事業所が受賞、琵琶湖博物館などの研究機関や企業と協力して絶滅危惧種のイチモンジタナゴの繁殖に取り組む	京都新聞
	6	[びわこの学校 2時間目 算数理科]⑥黄色いイワトコナマスは弁天の遣い 謎多い生態 絶滅の危機 前畑政善元上席総括学芸員の話	京都新聞
	14	[湖岸より]〈232〉 新しくなる水族展示 桑原雅之総括学芸員	中日新聞
	15	明石公園汚す「主」カワウのフン樹木真っ白「枯死、水質悪化も」専門家指摘 亀田佳代子総括学芸員の話	読売新聞（神戸・明石版）

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
3	15	県立琵琶湖博物館でコイをテーマに展示「鯉についての四方山話」里口保文専門学芸員のコメント	産経新聞
	17	県議会が閉会 県立琵琶湖博物館の観覧料引き下げに関する条例の改正などが可決	読売新聞
	19	[琵琶湖遠征]第2部見つめる寄り添う 3.固有魚復活への壁 多様な遺伝子 放流で配慮 松田征也総括学芸員のコメント	京都新聞
	20	伊吹山の自然やさしく紹介 琵琶湖博物館の学芸員や京都産業大の学生が執筆、市民団体「伊吹山ネイチャーネットワーク」がハンドブックを作成	中日新聞
	22	琵琶湖知ろう 移動博 きょうまでMieMu 山本充孝主査のコメント	朝日新聞
	24	[みんなおいでよ]「からすま半島タンポポ調査」参加者募集	読売新聞(しが県民情報)
	27	琵琶湖博物館来館者 900 万人 96 年開館から累計 / [湖人彩々]比良おろしデータ解析 琵琶湖博物館と市民が共同で湖上の風を調べるプロジェクト「ピワコダス調査」に参加、プロジェクト終了後も独自に観測を続ける松井一幸氏	京都新聞
	28	[湖岸より]<233> 水族展示に川魚屋さんが出現 金尾滋史学芸員	中日新聞
	30	琵琶湖博物館 来館 900 万人 野洲の武田さんに花束	中日新聞

## 6) 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	ギャラリー展示「ボーン コレクターズ 一骨に魅せられて」「タンポポ調査にチャレンジ」、「田んぼ体験」 「滋賀のカタツムリを調べよう」の案内	博物館研究 vol.49 No.5 No.551
	ギャラリー展示「ボーン コレクターズ 一骨に魅せられて」の案内	子供の科学 77巻 第5号
	ギャラリー展示「ボーン コレクターズ 一骨に魅せられて」、はしかけ登録講座、からすま半島で楽しもう「滋賀のカタツムリを調べよう」、体験教室「田んぼ体験」、わくわく探検隊「タンポポ調査にチャレンジ」「びわこの魚を解剖しよう」の案内	れいかる (湖国文化情報) 5・6月号 vol.80
	うららかな春の陽を浴びて桜花爛漫の湖南ドライブ-大津・草津・守山 琵琶湖博物館の紹介	JAF Mate 52巻 第3号 4月号
	おでかけアンケート、おもしろ体験 琵琶湖博物館の紹介	まっふる 家族でおでかけ日帰り京阪神('14~'15)
	おでかけスポット大集合 琵琶湖博物館の紹介	まっふる 家族でおでかけ東海北陸('14~'15)
	琵琶湖博物館の紹介	ピースマムこそだて手帳ノート(2014.4~2015.3)
5	ほねほね ボーンコレクターズ “骨には人を惹きつける力が…” 琵琶湖博物館ギャラリー展示と「ほねほねくらぶ」会長西村さんの紹介	週刊滋賀民法 (第2212号)
	[情報かわら版] わくわく探検隊「タンポポ調査にチャレンジ」「びわこの魚を解剖しよう」の案内、「こどもの日」県立施設無料開放	滋賀プラス1 (県広報誌) 5・6月号(Vol.149)
	「田んぼ体験」の案内	博物館研究 vol.49 No.6 No.552
	わくわく探検隊「びわこの魚を解剖しよう」の案内	子供の科学 77巻 第6号
	[5月6月の特別展等] ギャラリー展示「ボーン コレクターズ 一骨に魅せられて」の案内	全科協 NEWS vol.44 No.3 通巻第256号
6	[短信] 琵琶湖博物館は6月1日まで絶滅危惧種「カゼトゲタナゴの稚魚」を展示	滋賀報知新聞 (5/22)
	企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと) 一太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし」、水族企画展示「びわ湖のふるさと「ヨシ原」ーヨシ原を利用するいきものたちー」、 「ほねにふれよう」「プランクトンでアート」「漁船に乗ってピワマス漁をみてみよう」の案内	博物館研究 vol.49 No.7 No.553
	わくわく探検隊「びわこの魚を解剖しよう」の案内	子供の科学 77巻 第7号
	企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと) 一太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし」、水族企画展示「びわ湖のふるさと「ヨシ原」ーヨシ原を利用するいきものたちー」、わくわく探検隊「ほねにふれよう」「日光写真でアート 水草編」、観察会「漁船に乗ってピワマス漁をみてみよう」「びわ湖バレイでアキアカネ調査に参加しよう」、講座「夏休み自由研究講座」「回転実験室で水槽実験を!」、指導者向け博物館活用講座「生き物の飼ひ方」、体験教室「田んぼ体験」、からすま半島で楽しもう「プランクトンでアート」「初心者のためのふなずし作り体験」「夜の屋外展示を探検しよう!!」「竹筒トラップでハチを観察しよう」の案内	れいかる (湖国文化情報) 7・8月号 vol.81
	企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと) 一太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし」、水族企画展示「びわ湖のふるさと「ヨシ原」ーヨシ原を利用するいきものたちー」の案内	旅楽 Summer No.39
	鶺鴒の山のカワウ 上野間ではなぜ人びとはカワウに好意的なのか	BIOSTORY vol.21
	夏休みの自由研究何にする? 琵琶湖博物館にはヒントがいっぱい! 自由研究講座の案内、琵琶湖博物館とその他の体験会・講座の案内	The Style (滋賀トヨタ情報マガジン) 2014 夏号
	理科って楽しい! 「漁船に乗ってピワマス漁をみてみよう」「田んぼ体験」「夜の屋外展示を探検しよう!!」「びわ湖バレイでアキアカネ調査に参加しよう」「日光写真でアート 水草編」「竹筒トラップでハチを観察しよう」の案内	リビング滋賀 (6/21)
	格安水族館 琵琶湖がはぐくんだ生物たちを知る! 琵琶湖博物館の紹介	東海ウォーカー 7月号

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
7	琵琶湖博物館学芸員に尋ねる古代湖の不思議 400 万年の歴史を知る琵琶湖 琵琶湖は不思議の玉手箱 篠原徹館長と里口保文専門学芸員の話 琵琶湖博物館の紹介	ロトス 7月号 vol.21
	「びわ湖の日」下流域に広める琵琶湖への想いを移動博物館で琵琶湖博物館が琵琶湖の魅力発信 山本充孝主査 / 五感で涼感 県立文化施設無料開放 / [情報かわら版] 企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと)ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」の案内	滋賀プラス1 (県広報誌) 7・8月号 (Vol. 150)
	企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと)ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」、水族企画展示「びわ湖のふるさと「ヨシ原」ーヨシ原を利用するいきものたちー」、「日光写真でアート 水草編」「竹筒トラップでハチを観察しよう」の案内	博物館研究 vol.49 No.8 No.554
	水族企画展示「びわ湖のふるさと「ヨシ原」ーヨシ原を利用するいきものたちー」の案内	子供の科学 77巻 第8号
	夏休みわくわくエコ体験!「夜の屋外展示を探検しよう!!」「夏休み自由研究講座」の案内	広報くさつ No.1112
	企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと)ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」の案内 / 琵琶湖と中国の太湖、洞庭湖 大切でかけがえのない「マザーレイク」水辺の生活を通し共通の「リズム」探る 楊平主任学芸員	湖国と文化 (第148号)
	【夏休みチャレンジ】わくわく探検隊(夏)、からすま半島で楽しもう、企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと)ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」、水族企画展示「びわ湖のふるさと「ヨシ原」ーヨシ原を利用するいきものたちー」、「夏休み自由研究講座」、フィールド観察会(夏)、「田んぼ体験」、講座「回転実験室で水槽実験を!」【秋からチャレンジ】発見!びわ博フェスティバル!わくわく探検隊(秋・冬)、フィールド観察会(秋)「ピワマスの採卵現場を見学してみませんか!」、琵琶湖博物館団体向け学習体験 の案内	しがこども体験学校 (2014年度版)
	[7月8月の特別展等]、水族企画展示「びわ湖のふるさと「ヨシ原」ーヨシ原を利用するいきものたちー」、企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと)ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」の案内	全科協 NEWS vol.44 No.4 通巻第257号
	おでかけスポット 巨大水槽やふれあい体験で琵琶湖の魅力をいろんな角度から紹介 琵琶湖博物館の案内	まっふる 京阪神・名古屋発 家族でおでかけ夏休み号
	[でんごんぼん]からすま半島で楽しもう「プランクトンでアート」「初心者のためのふなずし作り体験」の案内	にゅーすもりやま No.564
8	7月の特集や表紙(琵琶湖博物館)へのおたより	ロトス 8月号
	企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと)ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」、「発見!びわ博フェスティバル!」「田んぼ体験」「アジアの水辺の絶景を探検!」「葉っぱ模様の手ぬぐい作り」の案内	博物館研究 vol.49 No.9 No.555
	企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと)ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」の案内	子供の科学 77巻 第9号
	企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと)ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」、「発見!びわ博フェスティバル!」、体験教室「田んぼ体験」、からすま半島で楽しもう「アジアの水辺の絶景を探検!」、「はしかけ登録講座」、観察会「ピワマスの採卵現場を見学してみませんか!」、わくわく探検隊「葉っぱ模様の手ぬぐい作り」の案内	れいかる(湖国文化情報) 9・10月号 vol.82
	特集「魚米之郷(ぎょまいのさと)ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」中国語にも「母親湖」という、「マザーレイク」と同じような言葉があります 楊平主任学芸員	Duet 2014夏 vol.113
9	企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと)ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」の案内	日経サイエンス 9月号
	[情報かわら版]「発見!びわ博フェスティバル!」の案内	滋賀プラス1(県広報誌) 9・10月号 (Vol.151)
	企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと)ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」、「田んぼ体験」「はしかけ登録講座」「ピワマスの採卵現場を見学してみませんか!」の案内	博物館研究 vol.49 No.10 No.556
	企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと)ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」の案内	子供の科学 77巻 第10号
	[9月10月の特別展等] 企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと)ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」の案内	全科協 NEWS vol.44 No.5 通巻第258号
	風景つなご 湖畔のまちなか物語 琵琶湖博物館など草津市内の施設紹介	くさつdeつなご (草津市市制60周年記念)
	達人コレクション 滋賀のインディージョーンズ 高橋啓一副館長、わくわく探検隊「秋の色でピンゴ」「はしかけ登録講座」	じゅげむ 第96号
	「発見!びわ博フェスティバル!」の案内	滋賀報知新聞(9/4)
	旅してサプリ 大きいだけじゃない湖の魅力にどっぷりつかると琵琶湖と琵琶湖博物館の紹介 里口保文専門学芸員のコメント	マリオンライブ 9月号
	琵琶湖博物館田んぼ体験で稲刈り みずかがみを収穫 水谷智主任専門員の話	米穀新聞(9/11)
	「葉っぱ模様のオリジナル手ぬぐいを作ろう」の案内	リビング滋賀(9/6)
10	企画展示「魚米之郷(ぎょまいのさと)ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」の案内 楊平主任学芸員の話	滋賀民法(9/7)

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
10	企画展示「魚米之郷（ぎょまいのさと）－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし－」、「田んぼ体験」「土の中を見てみよう」「からすま半島のどうぶつ探偵団」の案内	博物館研究 vol. 49 No. 11 No. 557
	企画展示「魚米之郷（ぎょまいのさと）－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし－」の案内	子供の科学 77巻 第11号
	湖上フォーラムみんなで語る「ふなずし」の歴史 の案内	リビング滋賀 (10/4)
	企画展示関連企画 『魚米之郷』を音楽で感じる、食で味わう 「魚米之郷を楽しむ」の案内	にゅーすもりやま No. 549
11	企画展示「魚米之郷（ぎょまいのさと）－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし－」、企画展関連イベント「魚米之郷を楽しむ」、指導者向け博物館活用講座「土の中を見てみよう」、体験教室「田んぼ体験」、からすま半島で楽しもう「からすま半島のどうぶつ探偵団」「からすま半島の冬鳥を観察してみよう」、観察会「朽木の秋 五感をつかって楽しもう」「秋の里山を歩こう」、わくわく探検隊「秋の色でビンゴ」「色とりどりの水鳥を観察しよう」の案内	れいかる (湖国文化情報) 11・12月号 vol. 83
	「色とりどりの水鳥を観察しよう」「からすま半島の冬鳥を観察してみよう」「田んぼ体験」の案内	博物館研究 vol. 49 No. 12 No. 558
	企画展示「魚米之郷（ぎょまいのさと）－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし－」の案内	子供の科学 77巻 第12号
	[11月12月の特別展等] 企画展示「魚米之郷（ぎょまいのさと）－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし－」の案内	全科協 NEWS vol. 44 No. 6 通巻第259号
	日本列島に見る20億年 世界有数の古代湖・琵琶湖の移動の歴史をさぐる 琵琶湖博物館の案内	(週刊)地球46億年の旅
	体験施設 琵琶湖博物館の紹介	湖南地域! ええとこイズラリー
	どっちが大きい? 数くらべ 琵琶湖の固有魚 VS 外来魚 金尾滋史学芸員の話、丈くらべ 沖島 VS 余呉湖 里口保文専門学芸員	リビング滋賀 (11/15)
芭蕉の風景 芭蕉の句にある「かいつぶり」を見るために琵琶湖博物館へ	ひととき 12月号	
12	鯉に出会って恋をする 琵琶湖博物館の紹介	滋賀県ミュージアム活性化チラシ
	水族トピック展示「鯉についての四方山話」、「博物館スゴロクをつくろう」「田んぼ体験(1月)」「はじめてのたんさいぼう」「1月の水族バックヤード探検」の案内	博物館研究 vol. 50 No. 1 No. 559
	わくわく探検隊「博物館スゴロクをつくろう ～C展示室編～」の案内	子供の科学 78巻 第1号
	新琵琶湖学セミナー「研究の種 ー新琵琶湖博物館を創造するー」、わくわく探検隊「博物館スゴロクをつくろう」「化石のレプリカづくり」、体験教室「田んぼ体験」、からすま半島で楽しもう「はじめてのたんさいぼう」「水族バックヤード探検」の案内	れいかる (湖国文化情報) 1・2月号 vol. 84
	湖国で学ぶ、育つ 滋賀県の高校生に地元の魅力と学びを トンネル水槽	Uminoko (進研アド)
	バス路線系統図 施設・観光スポットへのアクセス	おでかけマップ 草津駅発
	[年末でんごんぼん] 「しめ縄作り」の案内	にゅーすもりやま No. 596
1	移動博物館もやって来る! 琵琶湖をもっと知ろう! 琵琶湖博物館	三方よしエコフェア チラシ
	身近にいる鳥たちの秘密を探ってみて「からすま半島の冬鳥を観察してみよう」の案内	リビング滋賀 (12/6)
	[情報かわら版] 「新琵琶湖学セミナー」の案内	滋賀プラスワン 1・2月号 (Vol. 153)
	水族トピック展示「鯉についての四方山話」、「田んぼ体験(2月)」「化石のレプリカづくり」「2月の水族バックヤード探検」の案内	博物館研究 vol. 50 No. 2 No. 560
	水族トピック展示「鯉についての四方山話」の案内	子供の科学 78巻 第2号
	[1月2月の特別展等] 水族トピック展示「鯉についての四方山話」の案内	全科協 NEWS vol. 45 No. 1 通巻第260号
	琵琶湖博物館展示「鯉についての四方山話」開催中	Newton 第35巻 第3号
今自然を考える JAF 特別講座 びわ湖に生息する魚と湖の環境について学ぼう 琵琶湖博物館の学芸員によるびわ湖の環境についてのお話と水族展示の見学	JAF Mate 53巻 第1号 1・2月号	
[でんごんぼん] 「水族バックヤード探検」の案内	にゅーすもりやま No. 567	
2	琵琶湖博物館の紹介	VIVID (腹膜透析の情報誌) No. 71
	水族トピック展示「鯉についての四方山話」、「田んぼ体験(3月)」「火起こしで昔の暮らしを考えよう」「はしかけ登録講座」「春の大敵! スギ花粉を学ぼう」の案内	博物館研究 vol. 50 No. 3 No. 561
	水族トピック展示「鯉についての四方山話」の案内	子供の科学 78巻 第3号
	水族トピック展示「鯉についての四方山話」、新琵琶湖学セミナー「研究の種 ー新琵琶湖博物館を創造するー」、わくわく探検隊「火起こしで昔の暮らしを考えよう」、体験教室「田んぼ体験」、「はしかけ登録講座」、からすま半島で楽しもう「春の大敵! スギ花粉を学ぼう」の案内	れいかる (湖国文化情報) 3・4月号 vol. 85
	コイにスポット 琵琶湖博物館と安土城考古博物館の「コイ」をテーマにした企画展示の連携開催を紹介	リビング滋賀 (2/7)
3	特集 地域を学ぶミュージアム・ツアー 滋賀県博物館協議会がびわ湖大学・地域コンソーシアムと協働して大学生が県内の博物館と美術館をめぐるツアーを実施学生スタッフと協議会事務局の山川千代美総括学芸員と亀田佳代子総括学芸員がつあいを振り返る	Duet 2015春 vol. 115

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
3	「春の草花でしおりをつくろう」「からすま半島タンポポ調査」「里山体験教室」の案内	博物館研究 vol.50 No.4 No.562
	水族トピック展示「鯉についての四方山話」の案内	子供の科学 78巻 第4号
	からすま半島で楽しもう「シイノキの花と森を調べよう」「滋賀の鳥たち最前線」、体験教室「田んぼ体験」、「はしかけ登録講座」、指導者向け博物館活用講座「プランクトンの観察」、観察会「360万年前の化石観察会」わくわく探検隊「タンポポ調査にチャレンジしよう」「偏光☆万華鏡をつくろう」の案内	れいかる (湖国文化情報) 5・6月号 vol.86
	わくわく全国学び体験ガイド 琵琶湖博物館の紹介	閑塾タイムス 第39巻3号
	おもしろ体験 琵琶湖博物館の紹介	まっふる 家族でおでかけ関西周辺('15~'16)
	滋賀・びわ湖 琵琶湖博物館の紹介	まっふる 家族でおでかけ東海・北陸 ('15~'16)
	琵琶湖博物館の紹介	電車&ウォーク (JRおでかけネット)
	身近な環境を考える タンポポ調査・西日本 琵琶湖博物館が参加募る / [短信] 「琵琶湖固有種ピワオオウズムシ」の展示案内	滋賀報知新聞 (3/26)
	[3月4月の特別展等] 水族トピック展示「鯉についての四方山話」の案内	全科協 NEWS vol.45 No.2 通巻第261号
	講座の案内 スギ花粉はどんな形をしているの? 琵琶湖博物館の案内	リビング滋賀 (3/14) ライブミュージアム琵琶湖 琵琶湖発日本史2 琵琶湖の心と美
	「春の大敵!スギ花粉を学ぼう」の案内	にゅーすもりやま No.549
	学術調査研究報告書「草津市の自然」の概要版(鳥類) 亀田佳代子総括学芸員(昆虫類) 八尋克郎総括学芸員	草津市の自然(滋賀県自然環境研究会調査) 2014

### (3) 予算

2014年度歳入状況 (円)

科 目	決 算 額
使用料及び手数料	106,935,494
財 産 収 入	416,520
諸 収 入	70,541,597
合 計	177,893,611

2014年度歳出状況 (円)

事 業 名	事 業 内 容	決 算 額
管理運営費	施設維持費、烏丸半島整備費、事務費、広報費	296,519,841
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、水族飼育	100,410,327
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物 展示交流空間再構築事業	125,425,689
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、 フィールドレポーター	29,773,090
環境学習推進費	環境学習センターの運営	993,371
合 計		553,122,318

#### 1) 企業連携 (寄附)

##### ①株式会社コクヨ工業滋賀 寄附贈呈式

開催日時 2014年7月28日 (月) 10:40～

場 所 琵琶湖博物館ホール

寄付金額 3万円

##### ② 株式会社ダイフク 寄附贈呈式

開催日時 2014年8月18日 (月) 10:00～

場 所 琵琶湖博物館アトリウム

寄付金額 68万円

#### 2) バナー広告

ホームページ上で企業等のバナー広告を有料掲載している。2014年度は1件の掲載があった。

期 間 2015年1月1日～5月31日

掲 載 料 50,000円

広告掲載者 株式会社レイバック (大阪市)

## 4 存在基盤の確立

### (1) 琵琶湖博物館協議会

#### 第1回

開催日時 2014年12月17日（水） 15:00～17:00

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

- 議 題 ①会長・副会長の選出について  
 ② 琵琶湖博物館中長期基本計画2014年度行動計画の中間報告について  
 ③新琵琶湖博物館の創造（リニューアル）について  
 ④その他

#### 第2回

開催日時 2015年3月10日（火） 13:30～16:30

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

- 議 題 ①琵琶湖博物館中長期基本計画2014年度行動計画の実績・評価および2015年度行動計画について新琵琶湖博物館の創造（リニューアル）について  
 ②新琵琶湖博物館の創造（リニューアル）について  
 ③その他

#### 第10期委員

（任期：2014年9月1日～2016年8月31日）

氏 名	区分	現 職（2015年3月現在）
北島 泰雄	学校教育	草津市立常盤小学校 校長
河上 哲昭	学校教育	野洲市立中主中学校 校長
津屋 芙美	家庭教育	滋賀文化芸術学習支援センター トータルコーディネーター
橋詰 純子	社会教育	カワセミ自然の会
伴 修平	学識者	滋賀県立大学環境科学部 教授
中坊 徹次	学識者	京都大学総合博物館 教授
山西 良平	学識者	大阪市立自然史博物館 館長
菊池 玲奈	学識者	結・社会デザイン事務所 代表
松江 仁	学識者	株式会社ケービーエス京都プロジェクト 常務取締役
廣畑 諭	学識者	パナソニック（株）アプライアンス社 総務グループひろげるエコ推進チーム チームリーダー
土井 通弘	学識者	就実大学人文科学部 教授
中田 春美	学識者	近江歴史回廊倶楽部
山本 尚三郎	学識者	滋賀県脊髄損傷者協会 副理事長
水野 利香	学識者	公募委員
上原 千春	学識者	公募委員

### (2) 企画・計画

#### 1) 第三段階（2011年度～2015年度）活動計画

2002年12月に策定した琵琶湖博物館中長期目標『地域だれでも・どこでも博物館』の実現をめざし、博物館の運営方針としての具体的な取り組み方策および必要な環境の整備について明らかにするため、2005年3月に琵琶湖博物館中長期基本計画が策定された。

2014年度は計画の第三段階にあたり、地域の人々が博物館と対話することを通して、地域を再発見することを促し、琵琶湖博物館がこの活動を応援することで共に成長することができる機能(対話と応援ができる博物館)の強化に向けた取り組みを行っている。今年度末には年間の活動内容とその実績・評価および課題をまとめ、第三段階の総仕上げを目指し、2015年度の行動計画を作成した。

また、第三段階は新琵琶湖博物館の創造に向けた準備期間としても位置づけられており、2014年4月に『新琵琶湖博物館創造基本計画』を策定した。この基本計画にそって、2016年の第一期展示リニューアルオープンにむけ、整備事業を実施しているところである。

## 2) 琵琶湖博物館広報・経営戦略

今年度も昨年度に引き続き「タイムリーな広報、ターゲットに応じた広報、口コミを促す働きかけ」を戦略として広報を展開してきた。広報用チラシ・ポスターの配布、ホームページによる情報発信、広報担当職員による県内外小中学校訪問、大型集客施設での常設展示の紹介展示設置などを行ってきた。従来の報道機関への資料提供に加え、新たな取り組みとして、ネットからのチラシ配信や駅張りポスターなど広域的かつピンポイント的な広報活動を行なった。また、2016年の第一期展示リニューアルを見据えての告知準備や、企業連携事業を組み込んで広報することも行った。さらに、既存のホームページも見やすさや魅力の点から見直しを行い、多くの人がアクセスのしやすい魅力的なホームページを目指して改善や修正を行った。併せて「イナズマロックフェスティバル」などイベントへの出展や、イオンモール草津など大型集客施設で紹介展示を行うなど、琵琶湖博物館のPRも行った。

これらの活動については、随時広報調整会議を開き、リニューアルを見据えた広報戦略について検討を行った。

## IV 2014 年度をふり返って

### 1 研究部

琵琶湖博物館中長期基本計画では、琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究の確立をはかることを目標にしている。今年度は、地域の人びととともに研究調査成果の公表10件、9機関連携研究の推進1件、外部資金による研究代表者・研究分担者研究事業20件が目標値であった。地域の人びととともに研究については、水田生物研究会などで研究成果を10件公表し、目標値を達成した。また、9機関連携研究の推進、外部資金による研究代表者・研究分担者研究事業についても目標値を達成した。科学研究費などの外部資金の獲得を組織的に取り組んでおり、今年度科学研究費については、新規に5件が採択され、採択率29.4%であった。継続もあわせると13件が採択されており、この件数は都道府県市町村立博物館の中でもトップクラスである。今後も科研費申請は研究を本務とする学芸職員の義務という位置づけは継続していくとともに、新規の採択率をあげていく必要がある。

研究の発信は、学術論文34件、専門分野の著述56件、一般向けの著述38件、学会発表は64件であった。研究成果の発信数は論文数において昨年度の数字を上回った。次年度は、開館以来蓄積した琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究、また他の研究機関や地域の人びととともに調査研究した成果を活かして、C展示室、水族展示室の展示リニューアルを行うことが大きな目標となる。中日新聞連載コラム「湖岸より」などへの執筆を続けているが、今後も、研究の成果をわかりやすく一般の方に伝えることを継続するとともに、その充実を図っていきたい。

また、本年度は昨年度の新琵琶湖学セミナーに続き、新琵琶湖学セミナー「研究の種—新琵琶湖博物館を創造する—」と題したやや専門的な一般向けの講座を開催した。今回のセミナーでは、現在計画中の博物館リニューアルの中で、各展示室で新たにとりあげていく予定の研究=種について、最新の成果を交えて講義を行った。1月、2月、3月の3回に渡って、内部・外部の講師による6本の発表を行った。合計233名の参加があり、好評であった。今後も、湖と人の関わりについて視点を変えて探求していくセミナーの開催が望まれる。

### 2 事業部

#### (1) 展示

第22回企画展示『魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—』では、湖南省博物館（中国）、河海大学（中国）、天津市歴史博物館などと連携して進めてきた調査・研究の成果をもとに、農・漁・水を通して東アジアにおける湖と人の暮らしのあり方について考える展示を行った。入場者数は37,227人に達し、好評であった。水族企画展『びわ湖のふるさと「ヨシ原」—ヨシ原を利用する生き物たち—』ではヨシ原を利用するニゴロブナ、ホンモロコ、カヤネズミなどを通して、その重要性や現状について展示した。142,407人も入場者があり、とても好評であった。2014年3月末に始まったギャラリー展示「ボーン コレクターズ—骨の魅力に魅せられて—」においては、琵琶湖博物館はしかけ「ほねほねくらぶ」が骨格標本などの展示物を制作し、その活動も紹介した。冬に開催したギャラリー展示「淡海の未来を拓く—試験研究機関の挑戦—」では滋賀県の試験研究機関が一堂に会し、それぞれの機関の研究内容を、わかりやすく展示した。開催期間中研究発表会や一般向けのワークショップも開催した。集う・使う・創る新空間でも、様々な特性を持つ団体による13件の利用があり、より幅広い地域や活動を紹介する展示を行うことができた。常設展示では老朽化による展示品の故障が頻発し、あらためてリニューアルの必要性が感じられた。

## (2) 資料の整備・活用

2014年度には新規の大口資料受入は無かったが、既存の大口寄贈資料の整理が進展した。特に、昆虫分野で村山コレクション、図書分野で橋本鉄男文庫および川那部浩哉文庫について整理結果をデータベースで公開するに至ったほか、企画展で展示した魚たちの電子図鑑も新規に追加公開が実現するなど、地道な資料整備活動が着実に進行している。未整理や未公開の状態にある資料はまだ多く、地道な活動をさらに着実に進行させていくことが今後の課題である。

一方、資料収蔵設備の経年劣化による収蔵環境の悪化は相変わらず深刻である。既に2013年度に「資料収蔵環境改善プロジェクト」を立ち上げて資料収蔵環境の調査・情報共有・対策の検討・改善提案のとりまとめを行ったところであるが、この調査で危険箇所と指摘されていた場所で年度明けの4月早々に深刻な漏水事故が発生した。その後も軽微な排水の不調が続いていたが、夏ごろに排水系統の最下流で樹木の根が排水管に侵入していることが判明し、その部分の改修を行った後は排水系統の状況が落ち着いている。この経緯を踏まえて、2014年度後半に排水系統の現状を専門知識を有さない館職員にも理解できる形に整理し、今後必要となる管理業務を明らかにする事業を実施した。今後は、これらの結果を踏まえて博物館全体の設備管理を如何に効率的かつ効果的に進めて行くかが課題である。

## (3) 交流・サービス活動

2014年度の観察会・見学会ではリニューアルを考慮に入れ、博物館館内、屋外展示、烏丸半島など博物館周辺を重点地域として実施した。また、各地域で実施した観察会5件すべてで他団体と共同で実施した。

学校連携事業では学校行事で来館する児童生徒数は昨年度に比べて4,963人減少し、学校数では19校が減少した。体験学習を利用した児童生徒数は昨年度に比べて1,102人減少し、学校数では16校が減少した。サテライト博物館では、能登川東小学校での展示物が終了した。

「フィールドレポーター」制度では、「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」、「身近なシイノキのドングリをしらべてみよう」、「みんなも着ている!? 和服大調査」を実施した。登録者数は114名であった。

「はしかけ」制度については、「近江昔くらし倶楽部」が解散したが、「大津の岩石調査隊」が新たに結成された。

# 3 総務部

## (1) 来館者の状況

2014年度の琵琶湖博物館の来館者数は、前年度と比較して約10,000人減少し開館以来最も少ない358,871人であった。月別に前年度比較すると、他の月はほとんど差が見られないが、7月だけが約7,000人減っており、この減少分が最後まで埋められなかった。

開館時からの来館者数の推移をみると、開館10周年記念などの大きなイベントや一時的な話題性の高まりなどで前年度を上回る年があるものの、長期的に見ると減少傾向が続いている。

こうした減少の要因として、当館近隣での大型商業施設や類似施設の相次ぐオープンなどの外的要因が考えられるが、これまでに蓄積された調査研究・収集品などの成果に基づく展示替えなど、県民にわかりやすく、タイムリーな情報発信の機会が少なかったことも要因のひとつと考えられる。

## (2) 来館者サービスの向上

こうした状況に対応するため、現在進めている「琵琶湖博物館リニューアル計画」では、今後6年間かけて新たな展示を加えるなど展示交流空間の再構築を行い、新しい博物館の創造を目指している。

また、これに併せて、リニューアルサポーター制度やメンバーシップ制度、水槽サポーター制度を創設し、企業・団体をはじめ一般の方からも新しい琵琶湖博物館の創造に向けて支援を図ることとしており、多く参加が得られるよう積極的に働きかけていきたい。

加えて、一般来館者を対象として「倶楽部LBM」制度を立ち上げた。これは、これまでの年間観覧券の半額の入会料金で、年間観覧券とともに無料招待券の進呈や、会員限定のイベントへの招待などさまざまな特典を付与することとしており、今後のファン層拡大に向けた起爆剤となる制度として新たに取り組んでいきたい。

### (3) 広報戦略

今年度は昨年度に策定した新琵琶湖博物館創造を見据えた広報戦略「タイムリーな広報、ターゲットに応じた広報、ロコミを促す働きかけ」に沿って、活動を展開した。まず有料広告先を見直し、時期と広告対象とターゲットを明確にして、県内向けと県外向けにわけて宣伝を行った。5月のゴールデンウィークには、京阪神の一部地域の子どものいる家族連れにむけて、水族展示をメインにした新聞広告や、夏休みにはクールライフキャンペーンを京阪沿線駅の構内にポスターを貼りだすなど、ポイントを絞って広報を行った。また、必要とする人に必要な情報を提供できるよう、博物館好きな人への情報として博物館のポータルサイトへの情報提供や、チラシ情報がアプリを使用してダウンロードできるサービスなどを試行した。

そのほか、これまでの資料提供や情報誌への情報提供といった広報活動のほか、広報担当職員による県内外小中学校への誘客訪問、大型集客施設での移動博物館の開催や定期的な展示も継続して行なってきた。

さらに、当館の広報を拡大する「ロコミ」を促すために、公式のFacebookを立ち上げ、博物館活動の最新ニュースや予告・告知を数日に1回のペースで更新し、常に新しい情報を提供する魅力ある博物館の発信を行ってきている。昨年度、既存のホームページの刷新を行ったが、来年度にはじまる第1期展示リニューアル工事に向けて、リニューアル情報を伝える新たなページを作成する予定である。

### (4) 施設整備

本館2階のカフェテリアで手すりから体を乗り出すなどの危険な行為や、1階部分のレストラン客席にも影響が及ぶような事例も散見されたため、屋外の琵琶湖等の眺望に配慮した防護壁の設置を行い、一定の効果をえた。

### (5) 国際提携

2014年度は2つの海外の博物館・研究所と協力提携を更新した。2014年9月25日にロシア科学アカデミーシベリア支部バイカル博物館にて、バイカル博物館長（ウラジミール・フィアルコフ氏）と琵琶湖博物館長（篠原 徹氏）が協力協定を再度締結した。また、2015年3月24日に中国科学院水生生物研究所（湖北省武漢市）にて、中国科学院水生生物研究所長（陳宜諱氏）と当館館長（篠原 徹氏）が調印を行った。

### (6) 新琵琶湖博物館創造

琵琶湖博物館は、「湖と人間」の新しい共存関係を築くことを目的に平成8年に開館した。以来、環境学習の拠点として、展示・交流活動を通じて、琵琶湖の価値を再発見し、琵琶湖や地域に関心をもつ人づくり・地域づくりに努め、着実に成果をあげてきた。

この間、新たな環境課題が顕在化し、また、暮らしと環境に対する県民の考え方が多様化し、地域での取り組みも活発化している。しかしながら当館で進展した調査・研究、蓄積した知見、収集された多くの資料や標本を伝える大規模な展示更新が行われていない。

県政の課題や高度化・複雑化した情報をわかりやすく知りたい、体験・交流の機会を求める県民のニーズに応え、琵琶湖博物館が拠点施設として次の時代に向けて「湖と人間」のこれからのかわり合いを問い続けていくために、展示と交流の情報発信力を高めるとともに、次世代を担う人材を育成する交流機能を充実する必要がある。

こうしたことから、2012 年度に新琵琶湖博物館創造準備室を立ち上げ、2013 年 3 月にリニューアルの方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」を、2014 年 3 月に「新琵琶湖博物館創造基本計画」を策定した。今後、リニューアルを段階的に実施することとし、第 1 期リニューアルとして、開館 20 周年にあたる 2016 年を目途に、C 展示室と水族展示のリニューアルを実施することとなった。

2014 年度は、展示評価を実施し、アドバイザー等有識者の専門的な視点からの意見を取り入れ、C 展示室・水族展示および関連する建築設備にかかる実施設計を作成した。

琵琶湖博物館 年報 19号

2014年度

平成27年(2015年)11月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091番地

電話 077-568-4811